

広域河川改修工事 二級河川御坂川に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

七尾市

国分遺跡

2010

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

こく ぶん 遺 跡
国 分 遺 跡

2010

石 川 県 教 育 委 員 会
(財)石川県埋蔵文化財センター



国分遺跡と国分尼塚古墳群（中央左奥）（北東から）



国分遺跡と七尾湾（南から）



第1次調査 4号溝 土器 (A-1・2群) 出土状況



第3次調査 旧河道下層1 土器群出土状況

例 言

- 1 本書は国分遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は七尾市国分町地内である。
- 3 調査原因は広域河川改修工事二級河川御蔵川（平成8・9年度は御蔵川中小河川改修事業、平成10・11年度は御蔵川広域基幹河川改修事業）であり、同事業を所管する石川県土木部河川課が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は、以下の機関が各年度に各機関から依頼・委託を受け、平成8（1996）年度から平成21（2009）年度にかけて実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。

調査年次 第1次調査 [平成8年度]

担当機関 石川県立埋蔵文化財センター（石川県土木部河川課より依頼）

調査年次 第2次調査 [平成9（1997）年度]

担当機関 石川県立埋蔵文化財センター（石川県土木部河川課より依頼）

調査年次 第3次調査 [平成10（1998）年度]

担当機関 (財)石川県埋蔵文化財センター（石川県教育委員会より委託）

調査年次 第4次調査 [平成11（1999）年度]

担当機関 (財)石川県埋蔵文化財センター（石川県教育委員会より委託）

- 5 調査に係る費用は石川県土木部河川課が負担した。
- 6 現地調査は平成8年度及び平成11年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者（当時）は下記のとおりである。

(1)第1次調査

期 間 平成8年10月21日～平成9年1月13日

面 積 1,000㎡

担当機関 石川県立埋蔵文化財センター

担 当 課 調査第二課

担 当 者 垣内光次郎（主任主事）、中西洋司（主事）

(2)第2次調査

期 間 平成9年10月13日～平成9年12月4日

面 積 1,200㎡

担当機関 石川県立埋蔵文化財センター

担 当 課 調査第二課

担 当 者 松山和彦（主任主事）、中西洋司（主事）

(3)第3次調査

期 間 平成10年10月1日～同年12月24日

面 積 1,000㎡

担当機関 (財)石川県埋蔵文化財センター

担 当 課 調査部調査第3課

担 当 者 浜崎悟司（課主査）、和田龍介（主事）

(4)第4次調査

期 間 平成11年4月13日～同年5月31日

面 積 860㎡

担当機関 財石川県埋蔵文化財センター

担 当 課 調査部調査第3課

担 当 者 安中哲徳（主事）、加藤克郎（主事）

- 7 出土品整理は、平成19（2007）年度は企画部整理課が担当し、平成20（2008）年度は調査部特定事業調査グループが担当し実施した。
- 8 報告書刊行は平成21年度に実施し、調査部特定事業調査グループが担当した。執筆分担は下記のとおりである。編集は浜崎悟司（調査部特定事業調査グループ主幹）が行なった。
 - 第1章：加藤克郎（調査部特定事業調査グループ主任主事）
 - 第2章：中泉絵美子（調査部特定事業調査グループ嘱託）
 - 第3章第1節・第4節、第4章：浜崎
 - 第3章第2節・第3節：松山和彦（調査部県事業調査グループ主幹）
 - 第3章第5節：安中哲徳（調査部国事業調査グループ主任主事）図版作成：加藤
- 9 調査には下記の機関・個人の協力を得た。（五十音順、敬称略）
石川県土木部河川課、石川県中能登土木総合事務所、七尾市教育委員会
- 10 調査に関する記録と出土品は（財）石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1)方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標（日本測地系）Ⅶ系に準拠した。
 - (2)水平基準は海拔高であり、T. P.（東京湾平均海面標高）による。
 - (3)出土遺物番号は挿図、一覧表、写真とで対応する。

目 次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 遺跡発見の経緯	1
第2節 調査の経緯と経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の結果	5
第1節 概 要	5
第2節 第1次調査の遺構と遺物	6
第3節 第2次調査の遺構と遺物	22
第4節 第3次調査の遺構と遺物	28
第5節 第4次調査の遺構と遺物	45
第4章 総 括	69

挿図目次

第1図 国分遺跡の調査箇所	1	第19図 第1次調査遺物実測図14	21
第2図 周辺の遺跡	4	第20図 第1次調査遺物実測図15	22
第3図 調査区の概要	5	第21図 第1次調査遺構図2	22
第4図 第1次調査遺構図1	6	第22図 第2次調査建物跡遺構図1	23
第5図 第1次調査遺構垂直写真	7	第23図 第2次調査建物跡遺構図2	24
第6図 第1次調査遺物実測図1	8	第24図 第2次調査遺構図1	25
第7図 第1次調査遺物実測図2	9	第25図 第2次調査遺構図2	26
第8図 第1次調査遺物実測図3	10	第26図 第2次調査遺物実測図	27
第9図 第1次調査遺物実測図4	11	第27図 第3次調査遺構図1	28
第10図 第1次調査遺物実測図5	12	第28図 第3次調査遺構図2	29
第11図 第1次調査遺物実測図6	13	第29図 第3次調査遺構図3	30
第12図 第1次調査遺物実測図7	14	第30図 第3次調査遺物実測図1	31
第13図 第1次調査遺物実測図8	15	第31図 第3次調査遺物実測図2	32
第14図 第1次調査遺物実測図9	16	第32図 第3次調査遺物実測図3	33
第15図 第1次調査遺物実測図10	17	第33図 第3次調査遺物実測図4	34
第16図 第1次調査遺物実測図11	18	第34図 第3次調査遺物実測図5	35
第17図 第1次調査遺物実測図12	19	第35図 第3次調査遺物実測図6	36
第18図 第1次調査遺物実測図13	20	第36図 第3次調査遺物実測図7	37

第37図	第3次調査遺物実測図8	38	第47図	第4次調査遺構図1	50
第38図	第3次調査遺物実測図9	39	第48図	第4次調査遺構図2	51
第39図	第3次調査遺物実測図10	40	第49図	第4次調査遺構図3	52
第40図	第3次調査遺物実測図11	41	第50図	第4次調査作業状況(C区)	52
第41図	第3次調査遺物実測図12	42	第51図	第4次調査遺物実測図1	53
第42図	第3次調査遺物実測図13	43	第52図	第4次調査遺物実測図2	54
第43図	第3次調査遺物実測図14	44	第53図	木製品実測図	56
第44図	第4次調査建物跡遺構図1	46	第54図	建物跡の位置	57
第45図	第4次調査建物跡遺構図2	47	第55図	遺構変遷案	69
第46図	第4次調査建物跡遺構図3	48			

表 目 次

第1表	建物跡一覧	57	第4表	木製品一覧	66
第2表	土器一覧	58-65	第5表	白玉一覧	67
第3表	石製品など一覧	66	第6表	白玉の法量分布	68

図版目次

図版1	遺構 第1次調査	図版12	遺構 第4次調査
図版2	遺構 第1次調査	図版13	遺構 第4次調査
図版3	遺構 第1次調査	図版14	遺構 第4次調査
図版4	遺構 第1次調査	図版15	遺物
図版5	遺構 第2次調査	図版16	遺物
図版6	遺構 第2次調査	図版17	遺物
図版7	遺構 第2次調査	図版18	遺物
図版8	遺構 第3次調査	図版19	遺物
図版9	遺構 第3次調査	図版20	遺物
図版10	遺構 第3次調査	図版21	遺物
図版11	遺構 第3次調査	図版22	遺物

付 図

- 付図1 国分遺跡調査区(第1次～第4次)全体図(1/500)
 付図2 国分遺跡平面図(部分・1/300)

第1章 調査の経緯と経過

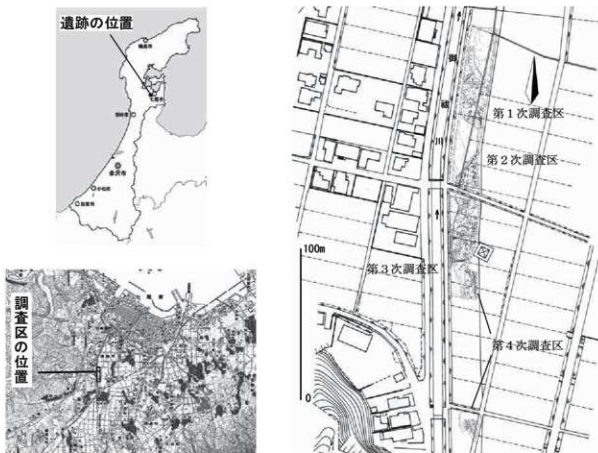
第1節 遺跡発見の経緯

本遺跡の発掘は、御蔵川中小河川改修事業（平成10・11年度は、御蔵川広域基幹河川改修事業）に伴うものである。これまで同事業で発掘調査された埋蔵文化財としては、県立埋蔵文化財センター（当時、以下県立埋文センター）による昭和63年度の分布調査において新規に確認され、平成元年度に発掘調査され多くの成果を挙げた藤橋遺跡がある。

平成5年度に至り、石川県七尾土木事務所（当時、以下七尾土木事務所）から県立埋文センターに対して、藤橋町地内から国分町地内における分布調査実施の依頼があり、5月20日に分布調査を実施した。その結果、事業地の一部において古墳時代の集落とみられる埋蔵文化財が確認され、国分町地内にあることから国分遺跡と命名された。事業予定地内の約4,900㎡が調査対象と見込まれた。

第2節 調査の経緯と経過

平成8年6月6日付けで七尾土木事務所から県立埋文センターに調査依頼があり（依頼面積2,000㎡）、初めて国分遺跡の発掘調査を実施することになった。



第1図 国分遺跡の調査箇所

4月当初の調査計画では、別遺跡の調査終了後、8月後半から国分遺跡に着手する予定であったが、進捗の状況により、国分遺跡の調査開始は10月中旬からとなった。10月9日七尾土木事務所にて、七尾土木事務所、文化財課、県立埋文センターの3者で協議を実施した結果、冬期を迎えることを勘案した河川保安上の理由から現況水田部分1,000㎡を当該年度に調査するものとし、当初の計画にあった現況堤防下は次年度に調査を実施することになった。現地調査は、まず10月21日から28日にかけて重機による表土除去作業を実施、29日から作業員を投入した。11月6日からは、調査区中央に位置する4号溝の検出及び掘削作業を開始し、11月末までに終了した。12月3日からは、南半部の包含層掘削や遺構検出・掘削作業に着手し、並行して4号溝の土層精査等を実施した。12月17日には、空中写真測量を実施し、20日から25日には、個別遺構の写真撮影や土層断面図を作成した。平成9年1月7日から9日にかけて重機による調査区埋め戻しを行い、周辺整備の後13日に現地調査を終了した。

平成9年度には第2次調査を実施した。4月当初の計画では、第1次調査区西側の御蔵川現況堤防下約500㎡及び南側の堤防背後地約700㎡、合計約1,200㎡を護岸撤去工事と並行して発掘調査を実施する計画であった。そこで七尾土木事務所から県立埋文センターに平成9年4月4日付けで調査依頼された。ところが、7月17日未明の能登地方での大雨による御蔵川の増水により、調査区の約20m下流対岸の市道が道幅いっぱいになり崩落するなど、当地は甚大な被害に見舞われた。調査区沿いの御蔵川堤防も随所で損壊し、堤防下調査予定地の調査着手は当分不能となった。その後の調整で、平成9年度は堤防後背地のための1,200㎡調査を実施することになった。

現地調査は、まず10月13日から15日にかけて重機による表土除去作業を実施、仮設建物を設置後22日から作業員による作業を開始した。24日からは南区について、東西に分けて遺構検出作業と遺構掘削作業を並行して実施した。11月4日からは北区の調査にも着手し、11日には既ぬ掘削作業を終了し、遺構断面図作成や写真撮影等を実施した。19日に空中写真測量を実施し、翌日からは調査区東壁・西壁を精査し土層観察、断面図実測等を実施した。12月1日から3日にかけて重機による調査区埋め戻しを行い、4日に発掘機材等を返却し、現地調査を終了した。なお、第2次調査の結果、調査区西側に関しては近代の御蔵川河道により遺跡が消滅していることが判明し、発掘調査不要区域となった。

平成10年度からは御蔵川広域基幹河川改修工事を調査原因として、石川県教育委員会から財団法人石川県埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）に発掘調査等が委託され実施されてきている。平成10年度は前年度調査区よりも上流側の川沿い部分1,000㎡を対象に発掘調査を実施した。

10月8日より表土除去を開始し、13日より作業員を投入。20日より旧河道の掘り下げ、併せて北から南方向に向けて遺構掘り下げ。12月4日空中写真測量実施。補足的な作業を行うとともに9日より0区（農道下）を調査。重機による調査区埋め戻しの後14日に撤収した。

平成11年度調査は第4次調査に当たり、最も上流側（南側）の860㎡が調査対象で、第3次調査区の東側隣接地（A・B区）及び約70m南側に隔った地点（C区）を調査した。

現地調査は、4月13日に調査区の排水作業から着手し、14日から15日にかけて重機による表土除去。22日から作業員による作業を開始し、A・B区について遺構検出作業を月末までにおよそ終了し、連休明けから遺構掘削作業を開始した。C区は5月7日に遺構検出作業を終え、掘削作業を開始した。途中5月14日には、A・C区の農道部分について、重機による表土除去作業を実施した。19日からは遺構の土層断面実測等を並行して行い、24日までに遺構を完掘し、25日に空中写真測量を実施した。27日に発掘調査機材の搬出を行い、31日には現地調査を終了した。

平成20年度の遺物整理事業として本書の執筆までの作業を行った。本書は以上の国分遺跡の発掘調査成果をまとめ、刊行するものである。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

国分遺跡は、石川県七尾市国分町に所在し、御祓(みそぎ)川の下流域に広がる集落遺跡である。

七尾市は能登半島中央部の東海岸側に位置し、平成16年10月、近隣の田鶴浜町・中島町・能登島町と合併し、さらに市域面積を拡大した能登地方の中核都市である。その地形としては、南は石動山系が連なり、西は海拔100m未満の低い丘陵が連なり、中央には能登島を浮かべ日本海へと通ずる波穏やかな七尾湾がある。国分町は、この地に能登国分寺が所在していたことに由来する名前である。

羽咋から七尾湾へと山地と山地との間に低地平野部が続く邑間地帯は能登地方最大の穀倉地帯となっている。東側の石動山系は高くなだらかな丘陵が連続する山地であり、西側の眉丈山系は低いものの、山脈と平野部とでは大きな段差が存在している。

国分町を流れる御祓川は七尾最大の川であり、川の流れる平野部西側は東側に比べ低く、眉丈山系とは大きな段差を作り出している。今回の調査地は河口から約1.7km遡った地点の東岸にあたる。現況は水田であった。

第2節 歴史的環境

国分遺跡周辺の遺跡や古墳群は東西の丘陵地近辺に密集していることは古くから知られており、低地の平野部は遺跡が希薄かとみられていたが、近年、各種開発が及んだ結果、低地部でも遺跡の存在が確認されはじめている。国分遺跡周辺の遺跡の集中地区を考察すると、大別して3つのグループに分類することができる。西側の丘陵地帯を主とする西のグループ、国分・岩屋地区。東側の丘陵地帯を主とする東のグループ、矢田・万行地区。そして低地平野部を主体とする南のグループ、千野・国分・古府地区である。以下、古墳時代前後を中心として、このグループ別に概要を述べたい。

西グループでは、国分尼塚遺跡では縄文時代前期前葉、国分高井B遺跡では前期後葉の土器が出土し、細口源田山遺跡では弥生中期の方形周溝墓群が発見され、国分高井山遺跡は弥生後期の集落遺跡である。古墳群としては、古墳前期の前方後方墳の国分尼塚1号墳・2号墳、国分高井山古墳群、細口古墳群、国分火司神社古墳群、国分岩屋山古墳群等がある。円墳や、土着性が感じられる方墳や前方後方墳が多く、畿内の影響を受けている前方後円墳は少ない。

東グループでは、万行赤岩山遺跡で縄文時代前期後葉から古墳時代後期に至るまでの堅穴住居跡が多数発見されている。このグループでは、矢田中瀬古墳群、古墳中期の矢田古墳群、古墳中期の前方後円墳の矢田高木森古墳等の古墳群が所在している。矢田高木森古墳をのぞいては、ほとんどが円墳である。西グループの古墳群が古墳前期・中期に造営が盛況であったのに対し、こちらでは古墳中期・後期に造営された古墳が主体となっている。

この地域で特筆すべき遺跡は、国指定の史跡となっている万行遺跡である。縄文時代から中世にかけて断続的に集落が営まれた複合遺跡であるが、古墳時代初頭になって大型建物群や方形区画が営まれている。破格の規模と柱筋を整然と揃えた高い規格性をもつこの大型の掘立柱建物群は、同時代においては日本であまり類例が見られないものであり、造営集団の母体の詳細は未だ不明ながらも、当地の歴史を考える上で特に注目される。



番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
02279	国分遺跡	古墳	02199	藤徳ゼニ方ミネ古墳	古墳
02079	八幡神社古墳群	古墳	02204	小島西遺跡	彌文～中世
02082	細口山遺跡	弥生・奈良平安・室町	02176	能登国分寺跡附建物群跡	奈良平安
02083	細口遺跡	古墳前期	02177	古府・国分遺跡	奈良平安
02084	細口B遺跡	中世	02180	古府南寺	古代
02085	細口C遺跡群	古墳	02182	七尾城跡	近世
02087	国分火の神社古墳群	古墳	02188	七尾城跡シツク地区	近世
02088	国分尾塚古墳群	古墳前期	02190	藤野遺跡	弥生・中世
02089	国分尾塚遺跡	彌文・弥生	02205	栄町遺跡	弥生～中世
02091	国分高井B遺跡	彌文～中世	02205	矢田遺跡	弥生・古墳・平安
02092	国分高井山古墳群	古墳	02195	矢田中瀬古墳群	古墳
02093	国分高井山遺跡	弥生前期末、後期末	02196	矢田天瀬宮古墳	古墳
02097	国分野屋山古墳群	古墳	02200	矢田古墳群	古墳
02098	藤徳遺跡	弥生～中世	02206	矢田高木森古墳	古墳
02105	小丸山城跡	中世	02210	万行赤岩山遺跡	彌文～古墳
02106	小島遺跡	古墳・中世	02211	万行遺跡	彌文中期後半～中世

第2図 周辺の遺跡

南グループでは、縄文、弥生時代ともに遺跡は希薄である。国分遺跡南西に所在する院内勅使塚古墳は、六世紀後半頃より古代能登郡を治めていた能登臣氏の首長墓と推定されている。

能登国分寺は定額大興寺を転用したものであり、この大興寺は古墳時代末期に能登臣氏が建立したとみられている。国分周辺は能登国衙や能登郡衙が所在していたと推定される古代能登国の中心地域であり、古府・国分遺跡、千野林田遺跡等、奈良・平安の遺跡が集中している。国分遺跡から東へ約250mに所在する栄町遺跡では、板扉で区画された掘立柱建物施設群が検出され、公的施設あるいは有力者の宅地の可能性が指摘されている。

西と東の各グループは古墳と集落が近接し、弥生時代から古代までの遺跡がたどれるが、南のグループは奈良・平安時代の遺跡が中心であり、それ以前の集落遺跡や古墳等の発見例は数少ないものである。首長墓を含む主要古墳の造営期、拠点的な集落遺跡の形成、そして古代における能登国衙推定地を総合すると、当地の政治的拠点が、古墳時代前期から古墳の造営があった西グループから、前期古墳時代後期には東グループへ、そして飛鳥時代には南グループへと移行したと推定される。

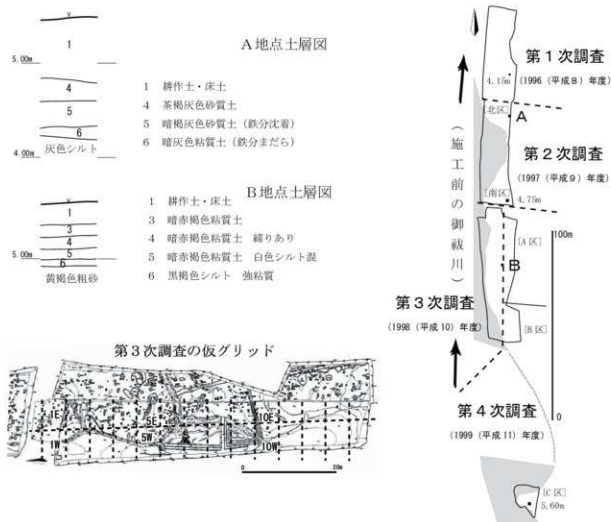
第3章 調査の結果

第1節 概 要

調査箇所は御蔵川右岸の河川改修工事にかかる範囲で、総延長約200mを調査した。実地の調査幅は平均的には20m程度であるが、近代以降の御蔵川河道の浸食により遺構面が消失している範囲がかなりあった。

一連の発掘調査では掘立柱建物18、土器集中2箇所をはじめとする遺構、土器類の他に少量の石製品、木製品、白玉、鉄釘などの遺物が検出された。本書に掲載した土器の年代は弥生時代後期と古墳時代後期に集中しており、発掘調査で得られた遺物の時期別量比を反映したものとなっている。ただしこれは必ずしも見つかった遺構の年代別構成比を示すものではない点に留意する必要がある。

各年度の現地調査にあたって、地区割りを設けている場合がある。それらは、第2次調査の「北区」・「南区」、第3次調査の仮グリッド、第4次調査の「A区」・「B区」・「C区」などであり、第3図に示す。

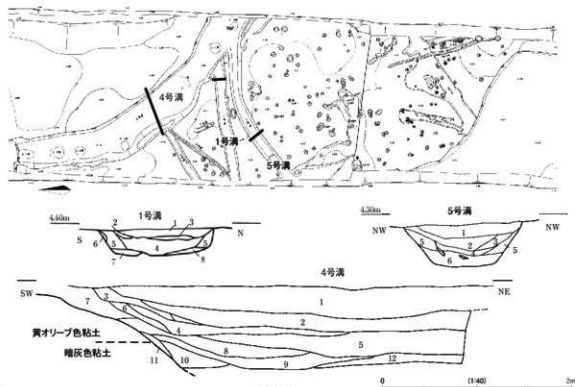


第3図 調査区の概要

調査地は事業着手前には水田であった。遺構検出面は耕作土下50～120cmの灰色砂～粘質土層であり、部分的には砂礫混じりの箇所もあった。また検出面の上位に旧地表土壌の遺存が認められた地点もある。検出面の標高は最も下流側で4.15m、中程の第2次調査区南端で4.75m、最も上流側の第4次調査C区で5.6m程度をそれぞれ測る。

第2節 第1次調査の遺構と遺物

第1次調査では、調査区北東側が古墳時代以降の旧流路であり遺構は検出されず、南西寄りの範囲で遺構を確認した。検出された遺構としては、溝状遺構7条とピット等がある。出土遺物の量はパンケース30箱余りであり、4号溝出土の土器がその9割以上を占める。



1号溝

- 1 茶褐色砂層（鉄分沈着多）
- 2 明黄灰オリーブ色粘質土層
- 3 明茶褐色粘質土層
- 4 灰オリーブ粘質土層
- 5 明黄灰粘質土層
- （鉄分沈着少、全体的に地山土混入）
- 6 明灰オリーブ粘質土層
- 7 濁黄オリーブ粘質土層（地山土混入）
- 8 灰オリーブ色砂層（粗い粒子）

4号溝

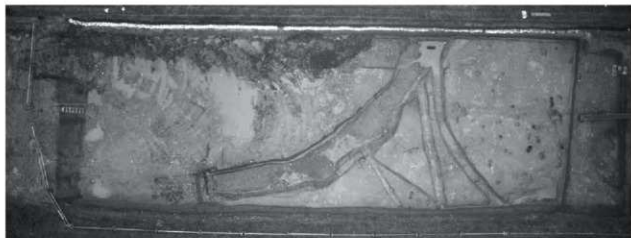
- 1 茶褐色粘土層
（締まり強く砂粒を少量含む、鉄分の沈着多く土器片を含む）
- 2 明灰褐色粘土層（粘性強く、砂粒と土器の混入少ない）
- 3 暗褐色粘土層（炭粒と土器片の混入が多い）
- 4 淡灰褐色粘土層（少量の炭粒を含む、鉄分の沈着が弱い）
- 5 明灰色粘土層（混入物が少なく単一の粘土層）
- 6 暗茶褐色砂質土層（土器片と炭化物を含む）

5号溝

- 1 茶褐色砂質土層（締まり強い、鉄分沈着多）
- 2 濁灰オリーブ色砂層
- 3 濁明黄灰粘土層（地山土の流れ込み）
- 4 灰褐色粘土層（この間層に土器片が入り込む）
- 5 暗茶褐色粘質土層（強粘で1層に近い粘土層）
- 6 濁黄オリーブ粘土層
（全体的に地山土の混入多く短期間に堆積している）

- 7 濁茶褐色粘質土層（地山の風化土と砂粒を全体的に含む）
- 8 濁灰色粘土層
（炭粒と灰を全体に含む、大型の土器片が出土）
- 9 灰色粘土層
（地山の青灰粘土を全体に含む、炭化物は少ないが灰を含む）
- 10 暗灰色粘土層（締まり強く炭粒と木片を含む）
- 11 濁黄オリーブ灰粘土層（地山の崩壊土か）
- 8・9層から土器大量出土

第4図 第1次調査遺構図1



第5図 第1次調査遺構断面写真

1号溝 調査区を東西方向に直線的に横断する溝。幅120cm、深さ40cm程度を測る。検出区間の西端付近で6号溝を切り込み、東側は4号溝によって切り込まれる。遺物は出土していない。

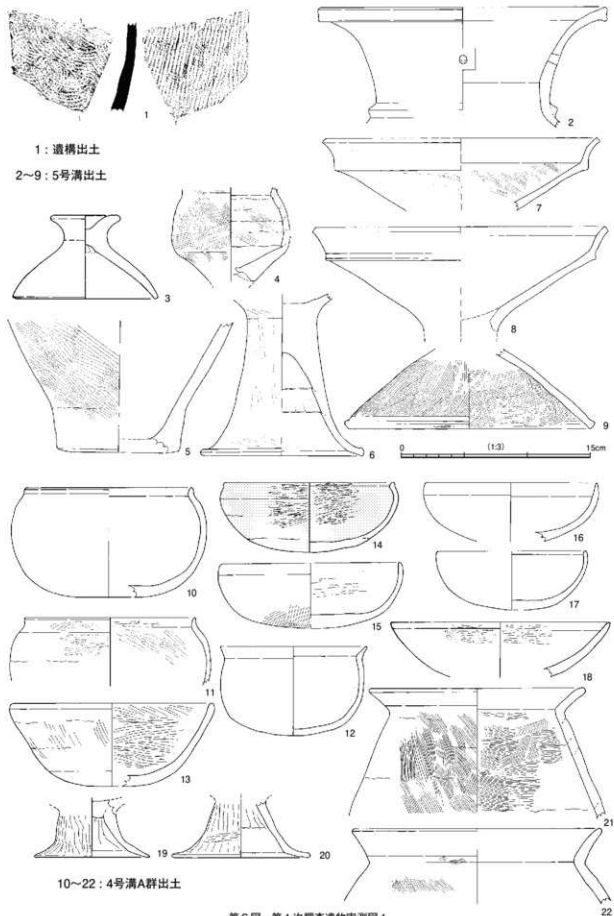
2号溝 南東-北西方向の細長い土坑状の落ち込みで、長さ200cm、幅40cm、深さ5cm程度を測る。溝底で検出面からの深さ15cm前後のビット2基を検出したがこの遺構に伴うものかどうかは不明。溝の北端は東に屈曲するように観察されている。埋土からは、図化できなかったが、古墳時代後期の土師器片が出土している。

3号溝 調査区を北東-南西方向に直線的に横断する溝。幅70cm、深さ10cm程度を測る。遺物は出土していない。なお、4号溝の検出面ではこの溝の延長部は確認できなかった。

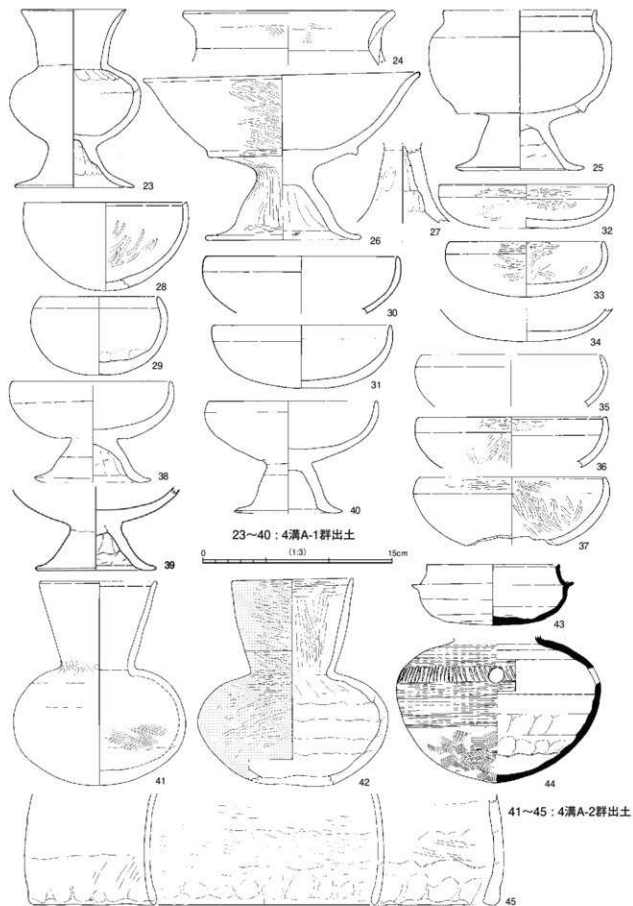
4号溝 南西方向に膨らみながら調査区を南東-北西方向に斜断する、旧河道への落ち込み部分である。深さ110cm以上を測る。岸寄りの検出面からの深さ60~80cm付近で古墳時代後期の土器類(10~227)が大量に出土した。土器類には完形、あるいはそれに近い状態で廃棄されたものが多く、焼成後の穿孔や打ち欠きが認められるものもあった。取り上げは平面的な纏まり毎にA~F群とし、群内をさらに小分けして行った(第4図上)。落ち込みからは石製品(232-234・236-238)、木製品(239・240)の出土もあった。D-1群中、横位で潰れた状況で発見された土師器甕180の内部及び近から滑石製白玉15点が検出された(241-255)。今回報告の一連の調査区から白玉が発見されたのはこの箇所だけである。金沢市畝田・寺中遺跡の古墳時代中後期の集落跡から検出された1000点余りの白玉資料群法量表に重ねてみると、本遺跡例はやや小型の資料がほとんどであるが、やや大型の品(449)も1点含まれている(第6表)。

5号溝とビット群 5号溝は調査区南部を北影みの弧を描きながら東西方向に横断する溝で、幅130cm、深さ40cm程度を測る。弥生後期中頃の土器が出土している。土層断面図によれば埋土中位において弧の内側・南西方向からの基盤層質土の流入(土層断面の3層)が観察されている。流入した基盤層質土について内側に積み上げられた溝掘削土と解すれば、遺構の規模・形状からみて堅穴系建物の外周溝であることも考えられる。しかし、第2次調査区との合成図においても外周溝の対応が不明なこともあって建物内部の柱組等について明確に示すことができない。ビット群について平面図を提示し(第21図)検討に供したい。なお遺構名が付されたビットからはそれぞれ少量の土師器片が出土している。2号P出土の採拓・図化された須恵器甕片(1)以外は全て土師質である。これらのビット群は古墳時代後期以前に属するものと考えられる。

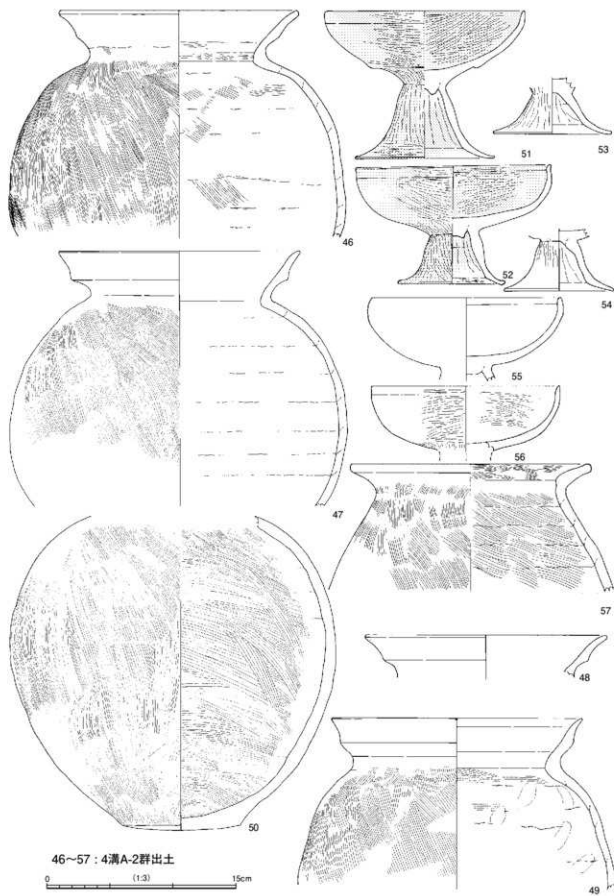
6号溝 幅30cm、深さ20cmを測る狭深形の溝。3号溝との先後は明らかではないが、1号溝及び4号溝に切り込まれる。調査者は弥生時代後期の遺構と判断している。



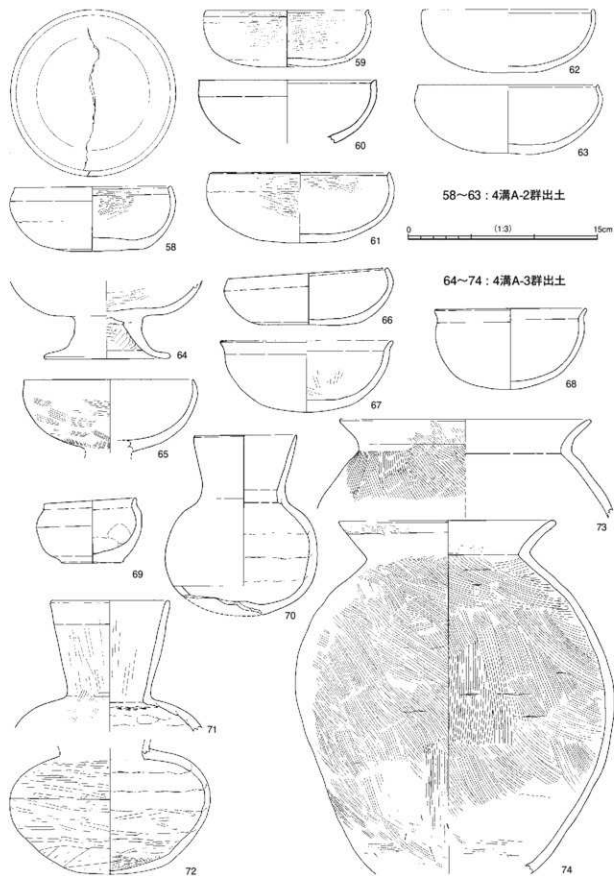
第6図 第1次調査遺物実測図1



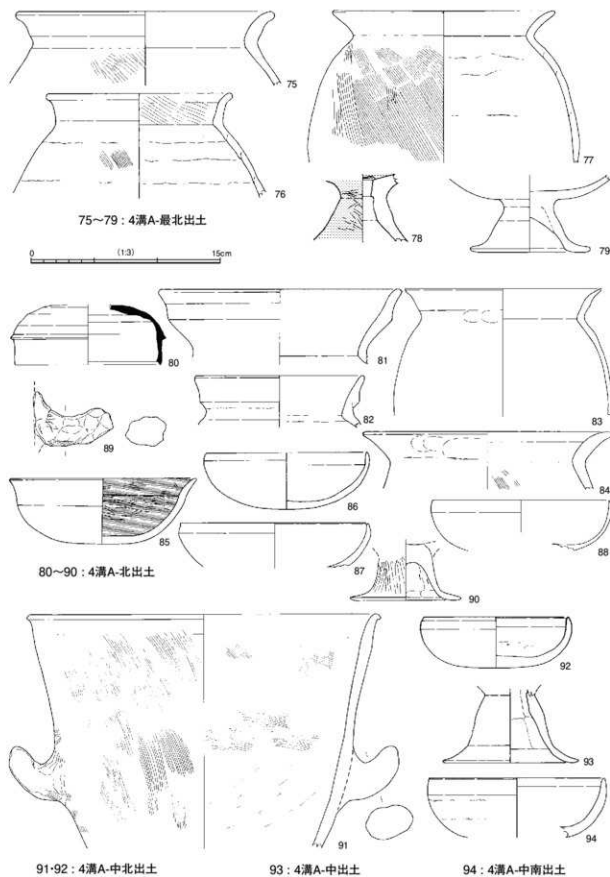
第7図 第1次調査遺物実測図2



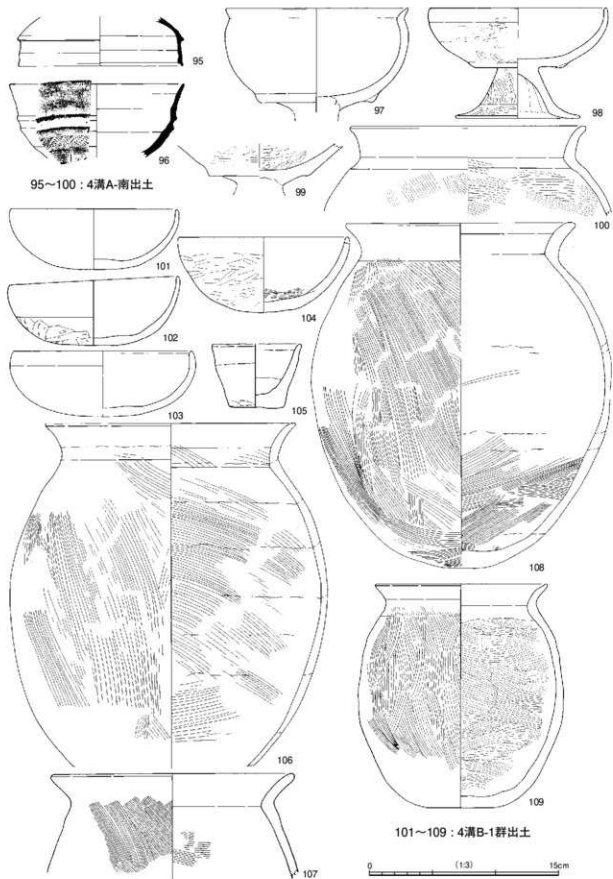
第8図 第1次調査遺物実測図3



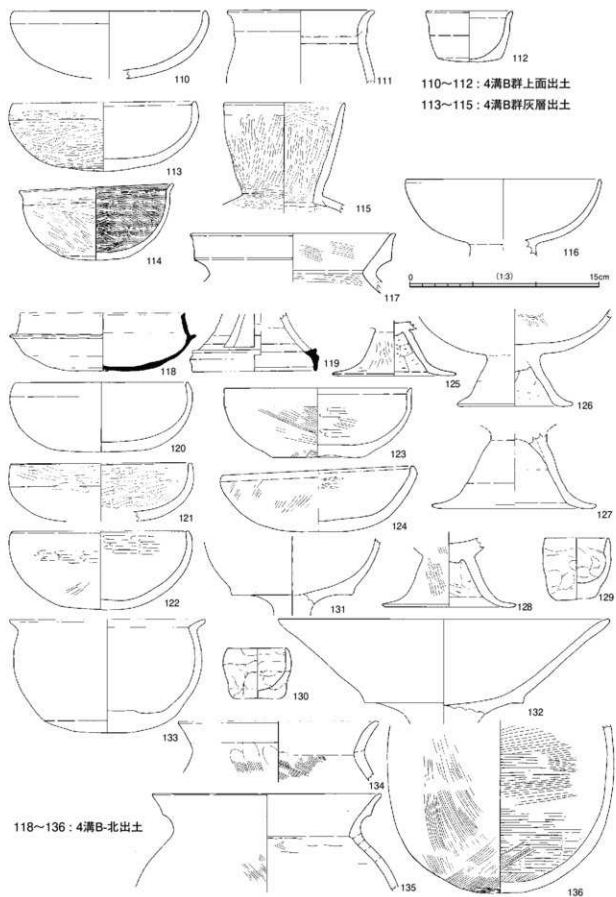
第9図 第1次調査遺物実測図4



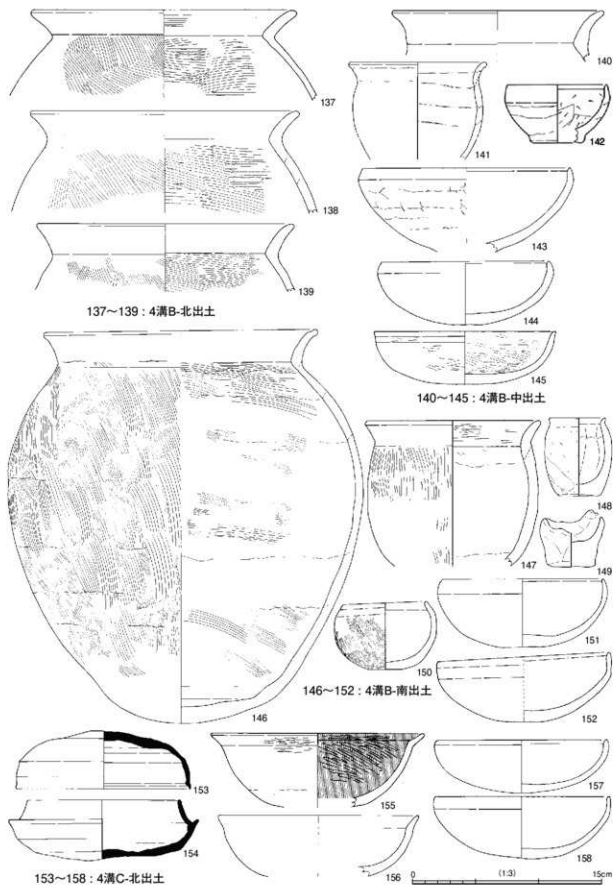
第10図 第1次調査遺物実測図5



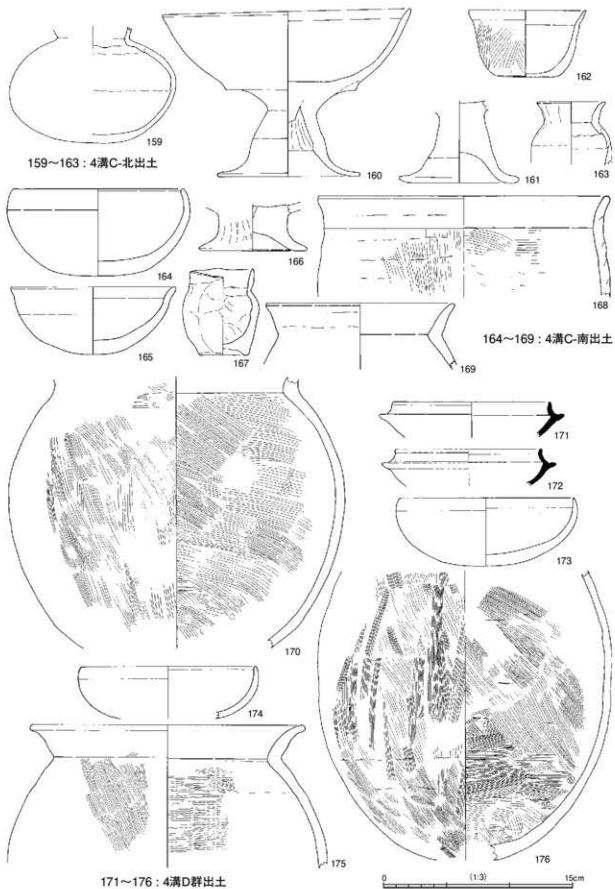
第11図 第1次調査遺物実測図6



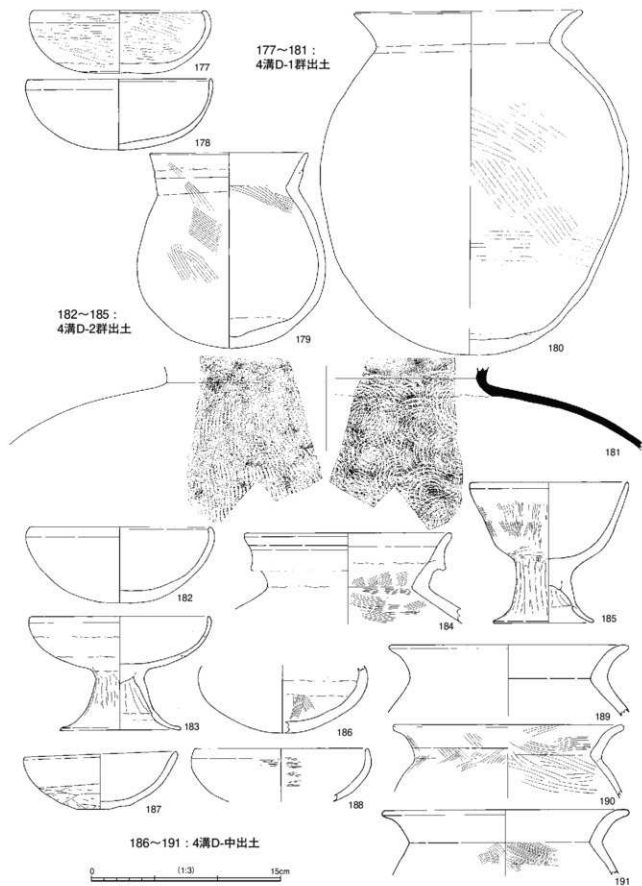
第12図 第1次調査遺物実測図7



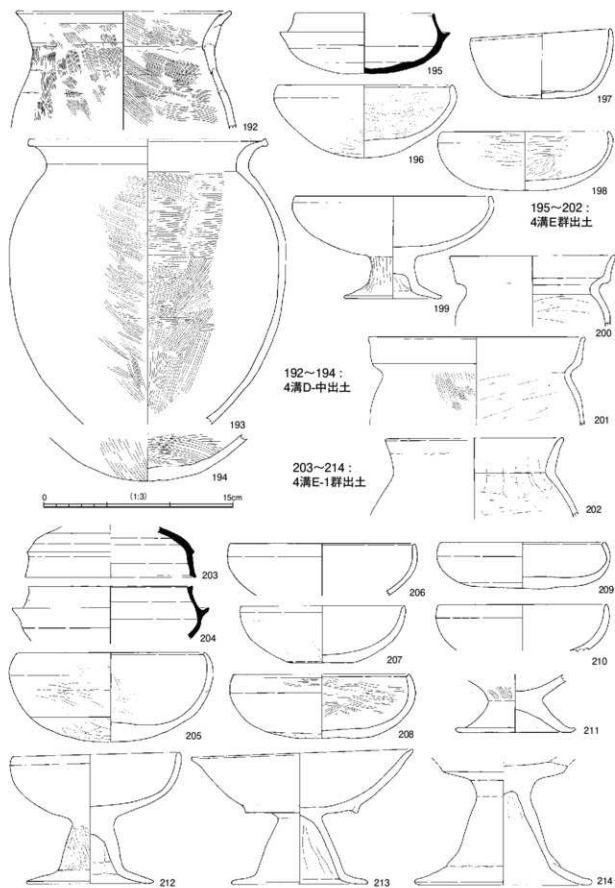
第13図 第1次調査遺物実測図8



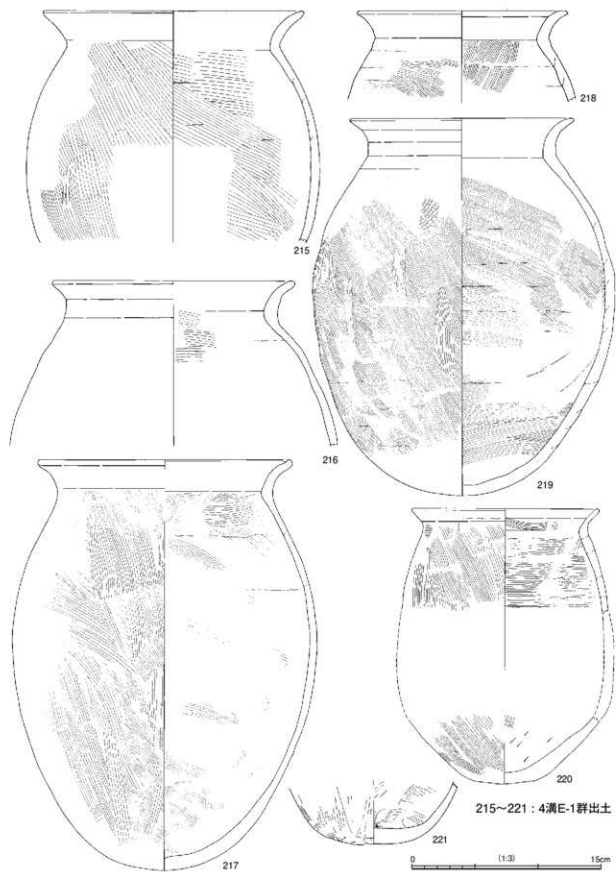
第14図 第1次調査遺物実測図9



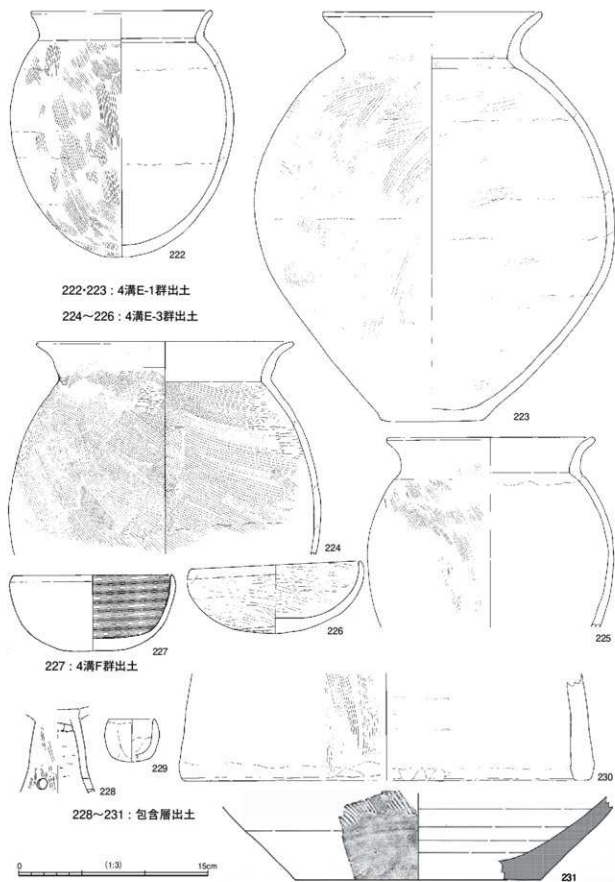
第15図 第1次調査遺物実測図 10



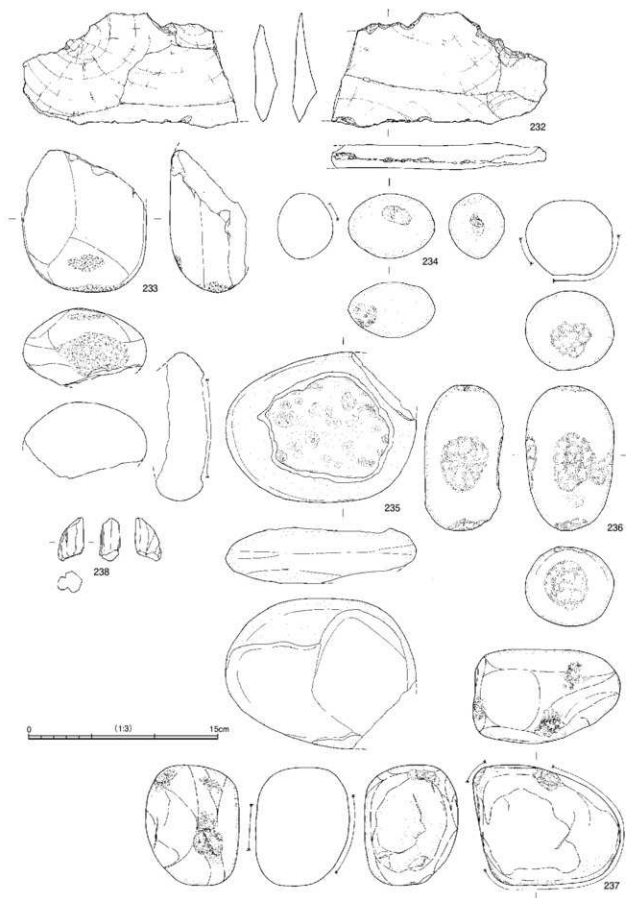
第16図 第1次調査遺物実測図11



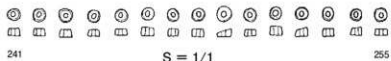
第17図 第1次調査遺物実測図 12



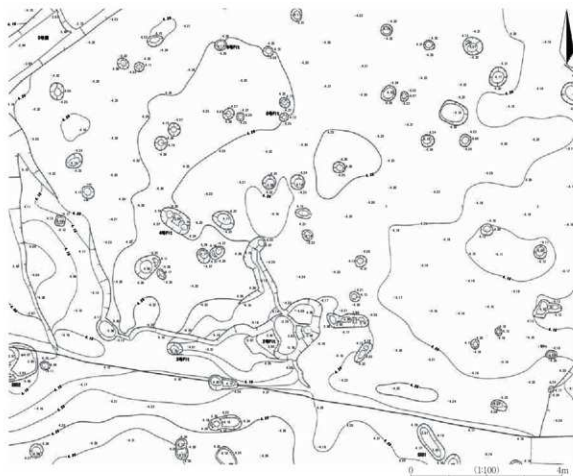
第18図 第1次調査遺物実測図13



第19図 第1次調査遺物実測図14



第20図 第1次調査遺物実測図15



第21図 第1次調査遺構図2

第3節 第2次調査の遺構と遺物

第2次調査では、調査区西側（現御蔵川沿い）から調査区を分断するように蛇行した近代の御蔵川流路により遺構面が消滅しており、調査区北側（北区）と南側（南区）で遺構を確認した。検出された遺構としては、掘立柱建物6棟、土坑2基、溝状遺構7条などがある。第1次調査で確認した大量の廃棄土器群が出土した古墳時代の旧河道は、第2次調査区内には流れ込んでいないことも確認された。そのため、出土遺物の量は、前年度とは一変して少なく（パンケース2箱分）、昨年度多く出土した完形に近い土器も、殆ど見られなかった。



第22図 第2次調査建物跡遺構図1

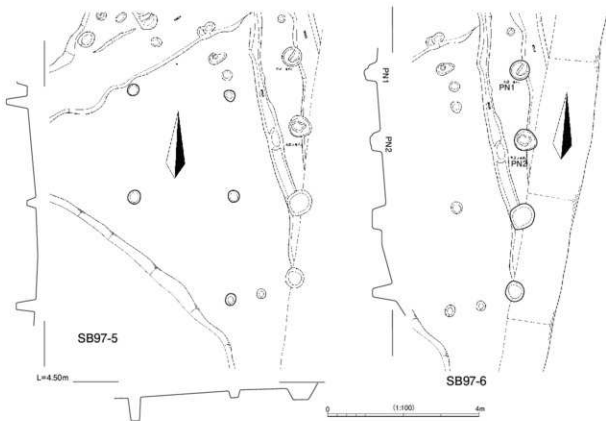
SB01 南区で確認した、東西2間(346cm)以上、南北4間(743cm)の規模で、直径70cmの柱穴をもつ掘立柱建物である。長軸はN-19°-Eを指す。比較的大きな規模の建物であるが、西側を御蔵川近代流路跡で浸蝕されており、全体の規模は不明である。柱穴出土の土器類のうち301・303を図化した。柱穴の大きさなどから比較的大きな建物であると思われる、古墳時代にこの付近に存在した集落において、何らかの役割を担う建物であったとも考えられる。

SB02 南区東側で確認した南北3間(751cm)とみられる柱穴列で、調査区外へ延びる掘立柱建物と想定される。長軸はN-13°-Wを指す。SB02とは重複して検出しており、建て替えがあったと考えられる。柱穴と土坑SK01との先後は不明。

SB03 南区東側で確認した東西1間(228cm)以上、南北2間(457cm)の掘立柱建物で、SB02と重複して検出している。長軸はN-13°-Wを指す。調査区外へ延びているため、全体の規模は不明である。柱穴と土坑SK01との先後は不明。

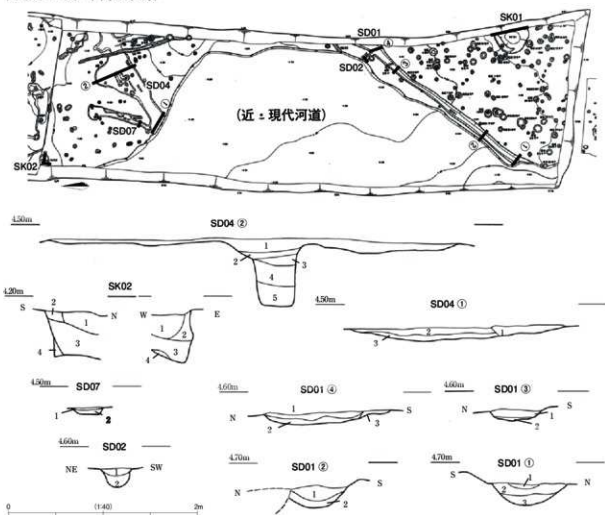
SB04 南区東側で確認した東西1間(169cm)以上、南北1間(407cm)の掘立柱建物で、調査区外へ延びているため、全体の規模は不明である。長軸はN-8°-Wを指す。柱穴出土の土器・石器類のうち304・309・314を図化した。古墳時代後期か。

SB05 北区東側で確認した東西2間(255cm)(以上)、南北2間(540cm)の総柱建物である。長軸はN-3°-Wを指す。南西側が御蔵川旧流路による浸蝕、東側は調査区外へ遺構が延びている可能性があるため、全体の規模は不明である。SB06と重複して検出している。遺物は出土していないが、中世の遺構と推定される。



第23図 第2次調査建物跡遺構図2

SB06 北区東側で確認した南北3間(586cm)(以上)の掘立柱建物である。長軸はN-5°-Wを指す。東側は調査区外へ遺構が延びているため、全体の規模は不明である。SB05と重複して検出している。年代は不明。

**SK02**

- 1 濁明黄褐色土
(地山をベースに3のブロックが混じる、砂っぽい)
- 2 濁オリブ灰色土
(オリブ灰色の粘質土をベースに3のブロックが混じる)
- 3 黒灰色粘質土(強粘性)
- 4 濁黒灰色粘質土(3にオリブ灰色粘質土が混じる)

SD07

- 1 暗褐茶灰色砂質土
- 2 明灰青橙色砂質土
(地山土?)

SD02

- 1 暗褐暗灰色砂質土
(鉄分沈着あり)
- 2 暗灰褐色粘質土
(一部砂利混入)

SD01 ④

- 1 暗灰褐色砂質土
- 2 暗灰褐色砂質土 (1より粒子大、一部淡色)
- 3 褐灰色砂質土
底 明灰橙色粘質土

SD01 ②

- 1 暗灰褐色砂質土
(鉄分沈着あり)
- 2 暗灰褐色砂質土
(1より濃い)

SD04 ②

- 1 暗褐暗灰色砂質土
- 2 黄橙色・灰色粘質土 まだら
- 3 灰色粘質土
- 4 青灰色粘質土
- 5 暗灰色軟弱粘土

SD04 ①

- 1 暗灰色砂質土
橙褐色土まだら
(鉄分沈着あり)
- 2 暗灰色粘質土
(鉄分沈着あり)
- 3 暗灰色粘質土

SD01 ③

- 1 暗灰褐色砂質土 (鉄分沈着あり)
- 2 暗灰褐色砂質土 (1より濃い)

SD01 ①

- 1 暗灰褐橙色砂質土 (鉄分沈着あり)
- 2 暗灰色砂質土 (鉄分沈着あり)
- 3 暗灰色粘質土

第24図 第2次調査遺構図1

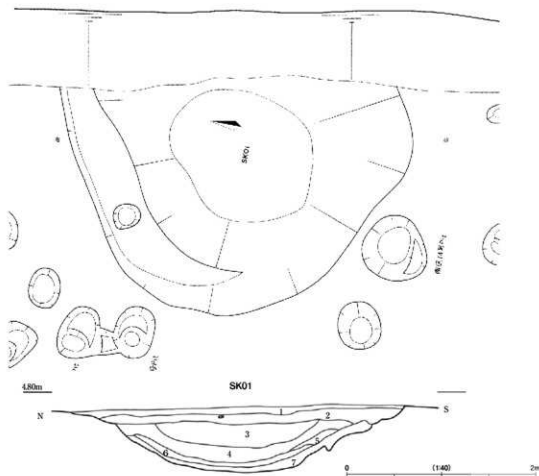
SK01 南区で確認した、直径3.5m、深さ70cmの大型土坑。遺構東側は調査区外へ延びている。完形に近い土師質の小壺308、同壺313などが出土している。弥生後期か。

SK02 北区北西隅で確認した、長軸約1.2m、短軸約1m、深さ約50cmの楕円形の土坑。西側は調査区外へ延びている。古墳時代後期の土師器が出土している。

SD01 南区で検出された北東-南西方向の溝である。溝の規模は、幅50~100cm、深さ25~35cmで、南西端は、近代の御蔵川旧河道で削られており、北東端は調査区外へ延びている。須恵器片が出土している。

SD02 南区で検出された北西-南東方向の溝で、SD01と接続する遺構である。溝の規模は、幅30~50cm、深さ18cmで、北西側端は、近代の御蔵川旧河道で削られており、1.4m分のみ検出している。

SD03 南区で検出された南西-北東方向の溝で、調査区外でSD01と接続する可能性のある遺構である。溝の規模は、幅30cm、深さ6~9cmで、西側は、近代の御蔵川旧河道で削られており、約1m分のみ検出している。



南区 SK01

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 1 暗灰褐色砂質土 | 5 暗灰暗褐色粘質土 (4より茶褐色部分多) |
| 2 灰茶褐色砂質土 | 6 明灰黄褐色粘質土 (地山と似ているが混色) |
| 3 暗灰茶褐色弱粘質土 | 7 暗灰色粘質土 |
| 4 暗灰暗褐色粘質土 | 地山 明灰色黄色粘質土 |

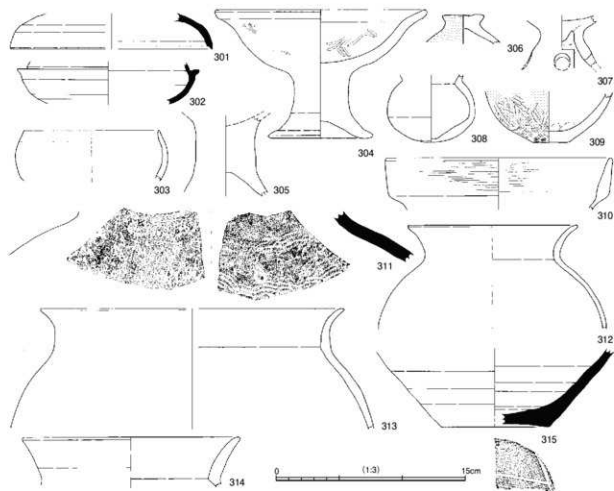
第25図 第2次調査遺構図2

SD04 北区で検出された南西-北東方向の溝である。溝の規模は、幅約1.4m、深さ約10cmで、南西側は、近代の御蔵川旧河道で削られている。溝の東側では、幅が約4.5mにまで膨らんでいる箇所があり、別遺構とすれば第1次調査5号溝と関係するのかもしれない。出土遺物は、須恵器壺311、珠洲焼鉢315など、SD04は古代~中世の遺物が出土する中世の溝である。

SD05 北区で検出された南北方向よりやや西へ軸を振る溝である。溝の規模は、幅約60~90cm、深さ約6cmで、南側は調査区外へ延び、北側はSD04と接続している。出土遺物は、高坏脚部305の他、未実測であるが須恵器坏(9世紀頃)が出土している。SD04と接続していることを重視すれば、古代の溝というよりは中世の溝とすべきか。

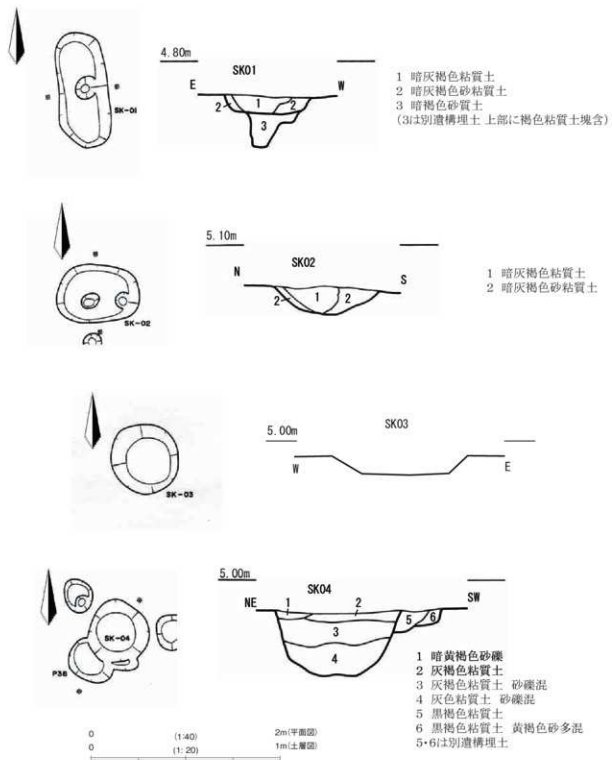
SD06 北区で検出された南北方向よりやや西へ軸を振る溝である。溝の規模は、幅18~40cm、深さ約5~20cmの比較的幅の狭い溝である。SD04と切り合い関係があり、SD06の方が新しい。

SD07 北区で検出された南北方向よりやや東へ軸を振る溝である。溝の規模は、幅35~100cm、深さ約3~7cmである。SD04と切り合い関係があり、SD07の方が新しい。

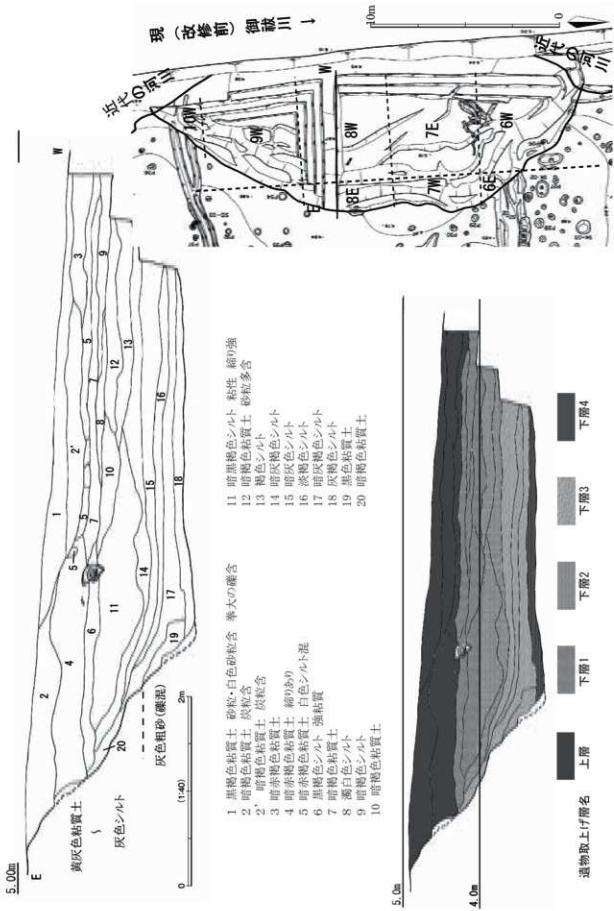


第26図 第2次調査遺物実測図

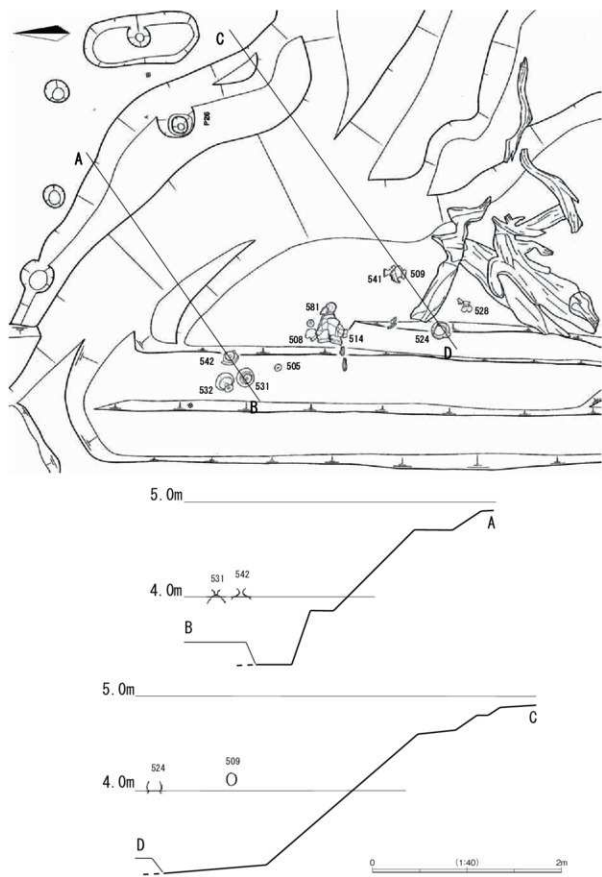
第4節 第3次調査の遺構と遺物



第27図 第3次調査遺構図1



第28図 第3次調査遺構区2 (旧河津遺構区)



第29図 第3次調査遺構図3

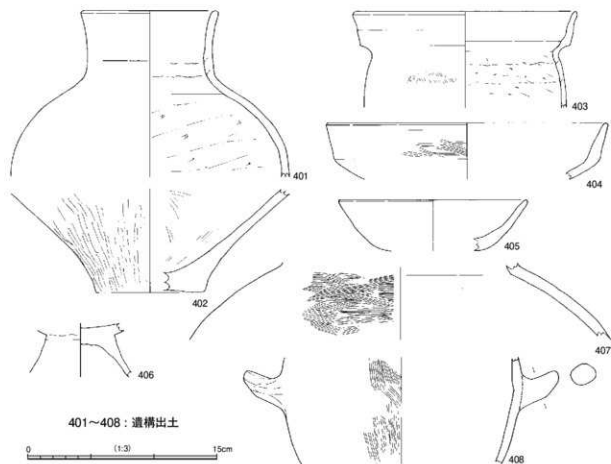
第3次調査では近代の御蔵川流路がほぼ全域で調査地の西縁を切り込んでいた。近代流路の開削を免れた部分では、弥生時代後期、古墳時代後期、中世の建物、溝、土坑、河川跡等が検出されたが、調査範囲の南側約1/3の範囲では遺構・遺物の検出はやや乏しかった。出土遺物の量はバンケース35箱程度であり、旧河道出土の土器がその9割以上を占める。調査に際して発掘範囲の中軸線をもとに5mメッシュの仮グリッドを設定した。軸線方向はほぼ南北で、南から北へ0・1・2・3…と数字で呼び、中軸線の西側をW、東側をEとし、各グリッドについて「0E」「7W」などと表している。

以下では、第3次調査で検出された遺構・遺物について記述するが、遺構のうち掘立柱建物の全てと溝・土坑の一部については隣接する第4次調査区と併せて述べるものとし、記述等は次節にまとめて掲載しているものがある。

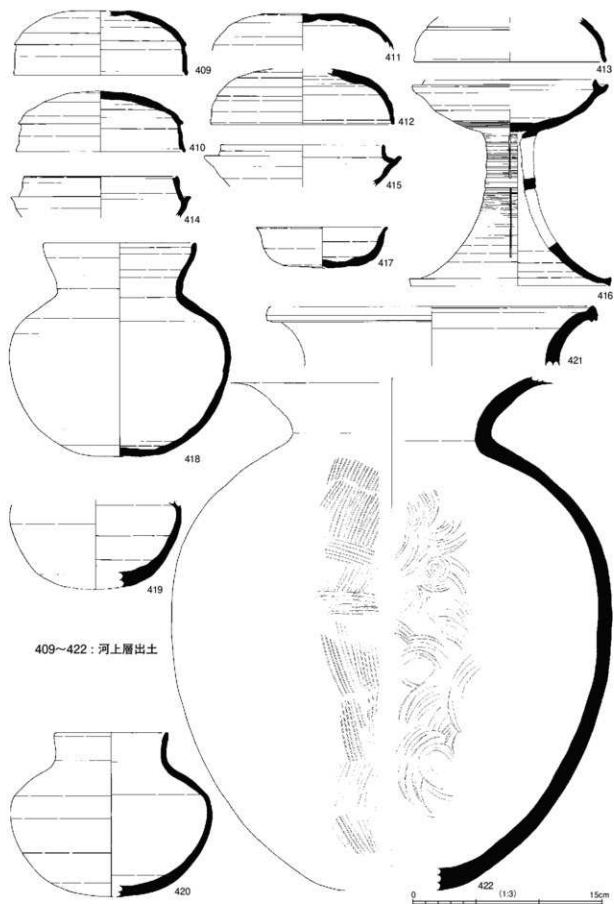
SK01 6W区。南北120cm×東西55cmの隅円長方形プランの土坑で、深さ10cm程度を測る。長軸はN7°W程度を指す。細片のため図化できなかったが、埋土から中世土師器皿が出土しており、中世の遺構とみられる。土層断面図ラインに重なってピットがあるが、SK01がピットよりも後出である。

SK02 6E区。南北60cm×東西90cmの隅円長方形プランの土坑で、深さ10cm程度を測る。埋土がSK01と近似していることから、中世の遺構とみられる。

SK03 5～6E区。直径75cmの円形プランの土坑で、深さ35cm程度を測る。埋土がSK01と近似していることから、中世の遺構とみられる。



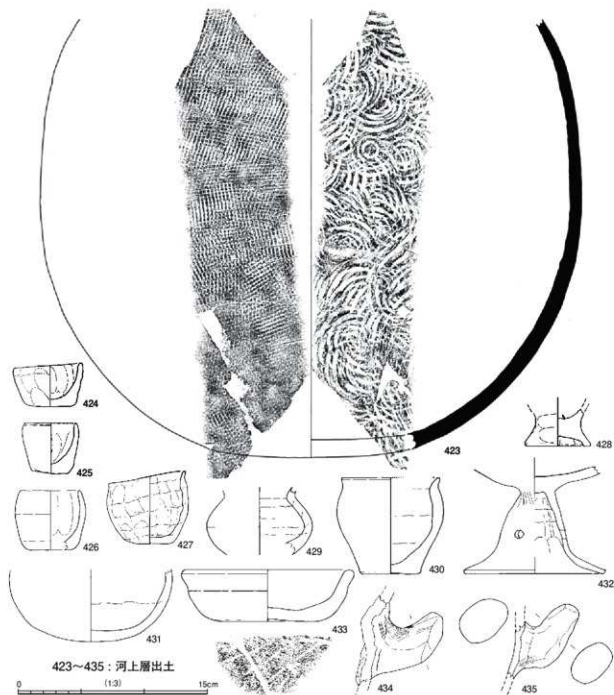
第30図 第3次調査遺物実測図1



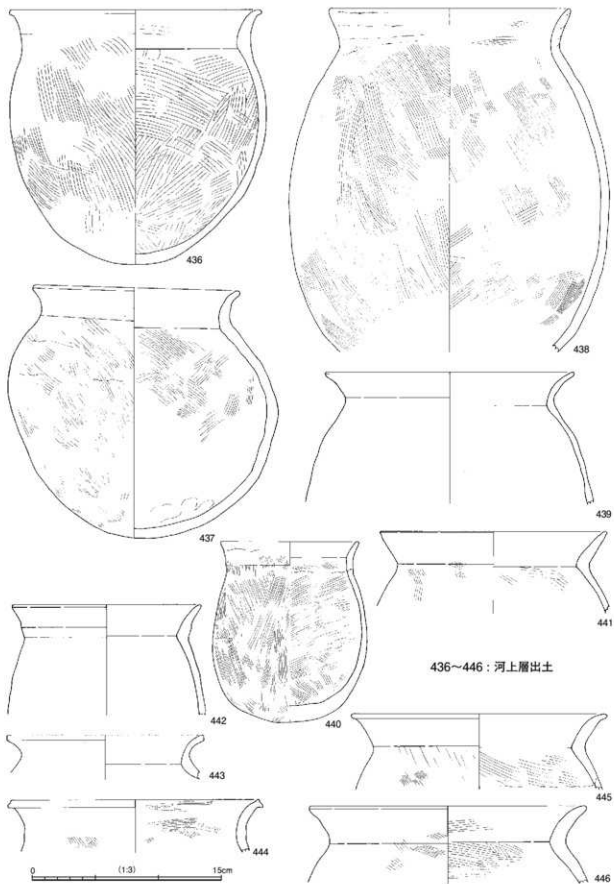
第31図 第3次調査遺物実測図2

SK04 5E区。直径55cmの円形プランの土坑で、深さ15m程度を測る。南東に位置する黒褐色系埋土の別遺構P38を切り込む。埋土がSK01と近似していることから、中世の遺構とみられる。

SD01・SX01 2E区。SX01は近代河川から東方に5.5m程度延びる東西方向の溝で、東端部は幅160cm程度の土坑状になり、調査区内で取東する。底はほぼ一定レベルで土坑状部分がやや深く、河川に注ぐ部分は段状になっていた。SD01はSX01の溝部分の中程から分岐しやや北東方向に延びる幅60cm、幅30cm程度の溝である。長さ7mを検出した。いずれも底に粗砂が堆積し、上位埋土は濁灰色混雑シルトであり近代河川と共通していることから、同時に埋没したものとみられる。近



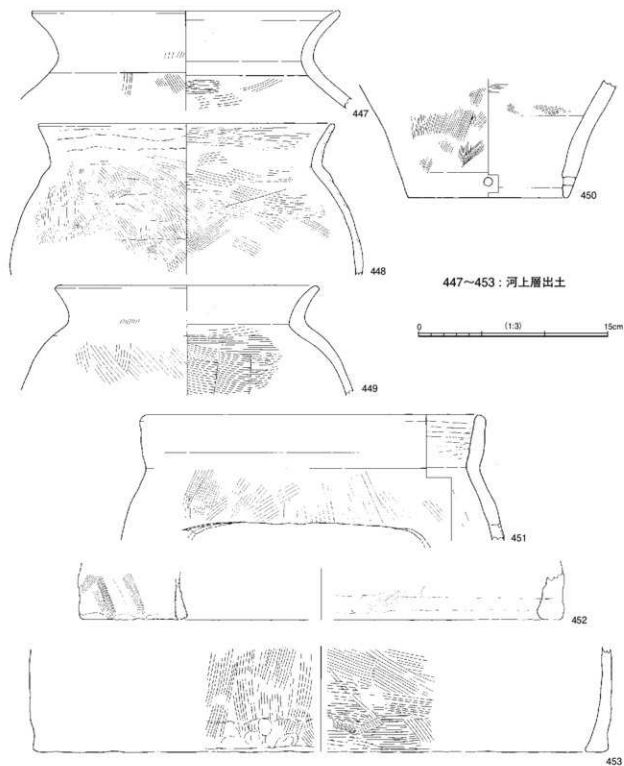
第32図 第3次調査遺物実測図3



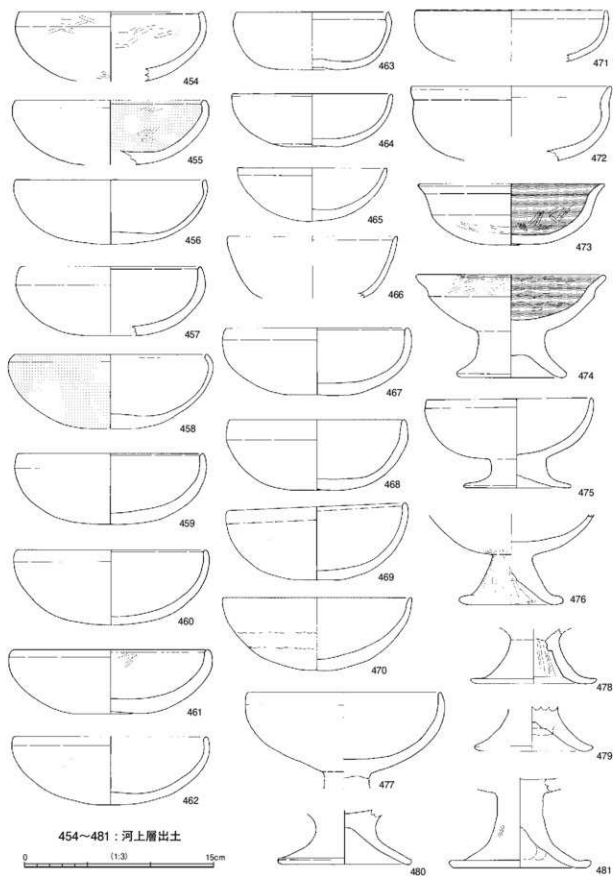
第33図 第3次調査遺物実測図4

代河川は戦後の改修（1950年頃）前の御蔵川であるとみられることから、これらはその頃の水路の一部であるとみられる。

SD03 9～10区。調査区を東西方向に横断し、近代河川に注ぐ溝。幅50cm、深さ40cmを測る。SD01と同様、上位を埋め立てられたものと観察した。SD01の南方約36mに位置する。検出範



第34図 第3次調査遺物実測図5

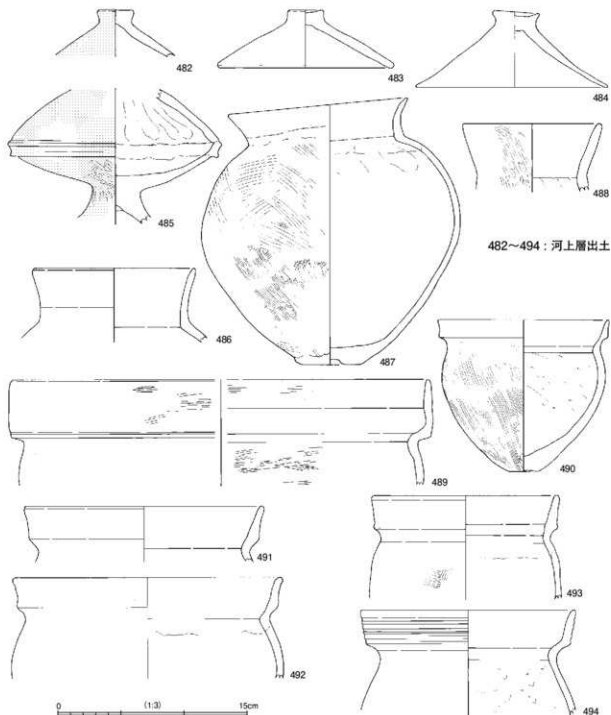


第35図 第3次調査遺物実測図6

圃の中程で分岐し、2条の溝となって河川に注ぐ。

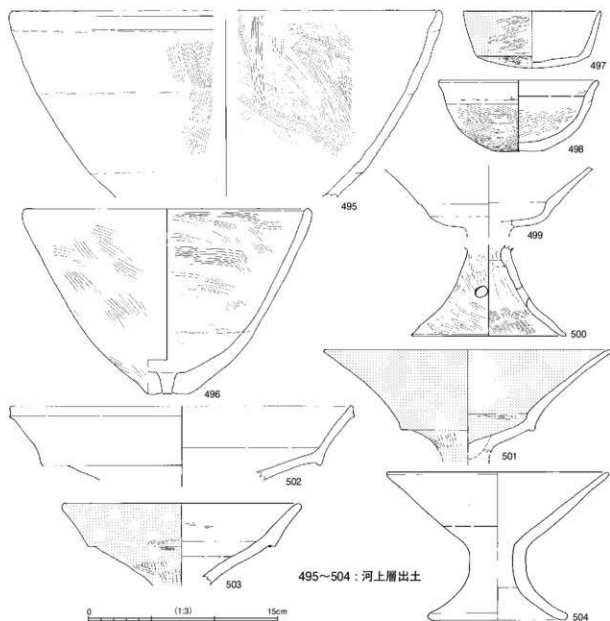
旧河川 6～10区にかけて検出された幅7m以上・深さ200cm以上の大きな落ち込みで、6～9区では東半(Eグリッド)にもかかる。掘り上がりの形状などから、蛇行した旧河川の東岸部寄りの部分が後世の掘開を免れたものと判断される。

旧河川からは多量の土器類(409～573)の他に少数の石製品が出土した。発掘範囲の北寄りの川底で流木とみられる未加工の大型樹根が検出されたが、顕著な木製品の検出は乏しかった。掘り下げ

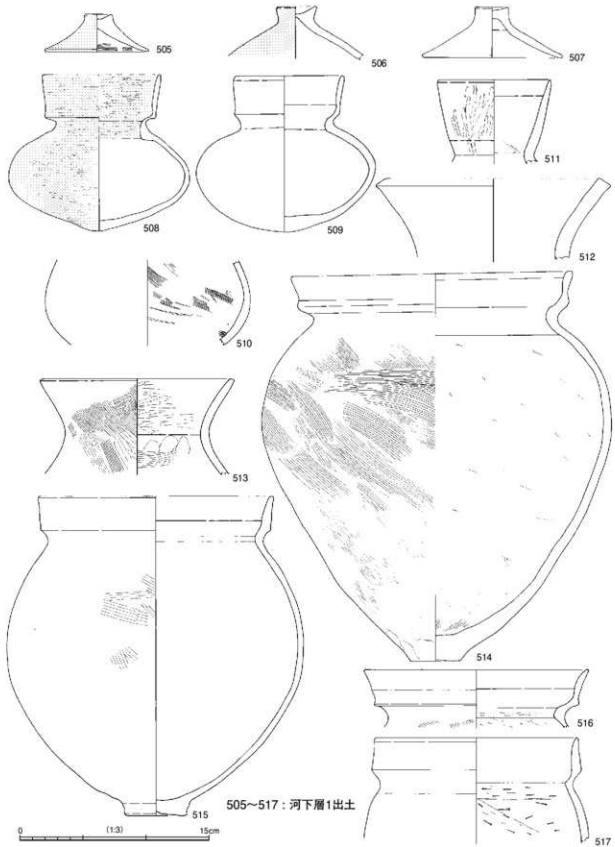


第36図 第3次調査遺物実測図7

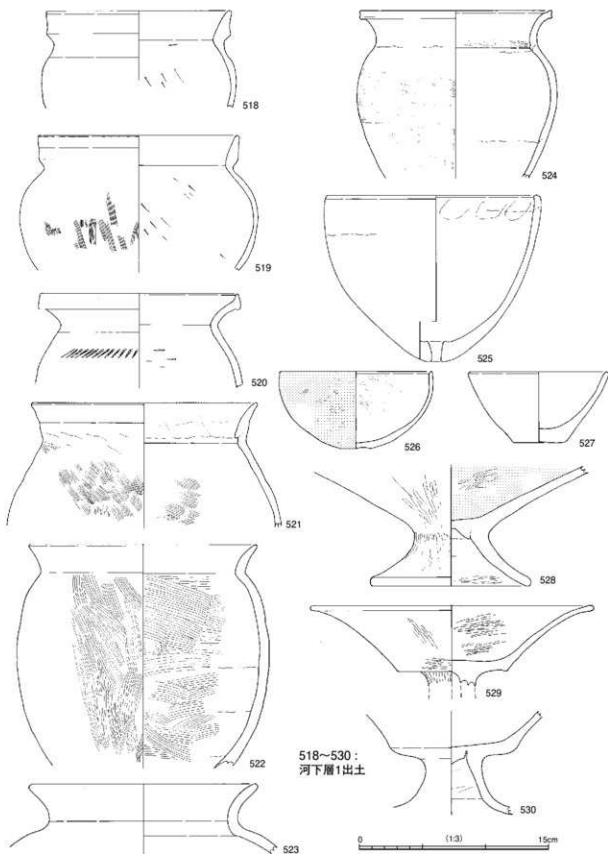
に際して、土層断面図(第28図)に示す「上層」・「下層1」・「下層2」・「下層3」・「下層4」の5区分を基本に遺物を取り上げた。土器の年代は、最下層である「下層4」の遺物は少量であるが弥生時代後期中頃以前に限られ、少数の例外を除けば、「下層1」が弥生時代後期後半、「上層」が古墳時代後期(6世紀前半～7世紀中葉)頃にほぼ限定される。なお、このような層位と年代の対応を外れる遺物が少数ではあるが存在する。上層に弥生時代遺物が混入することについては上層形成時の様々な状況により起こり得る為一応不問とされようが、下層への古墳時代後期遺物の混入があるとすれば付言を要する。本地点下層についてももしも後者のような資料が含まれているとすれば、取上時の帰属層位についての判断が不適切であったためであり、上層からの掘り込み等による混入ではないものと考えている。本地点のように大量の遺物を含む上・下層が間層を挟まず堆積した場合等、実際の作業としては非常に困難ではあるが、引き続き正確な層位的調査の遂行に努めたい。



第37図 第3次調査遺物実測図8

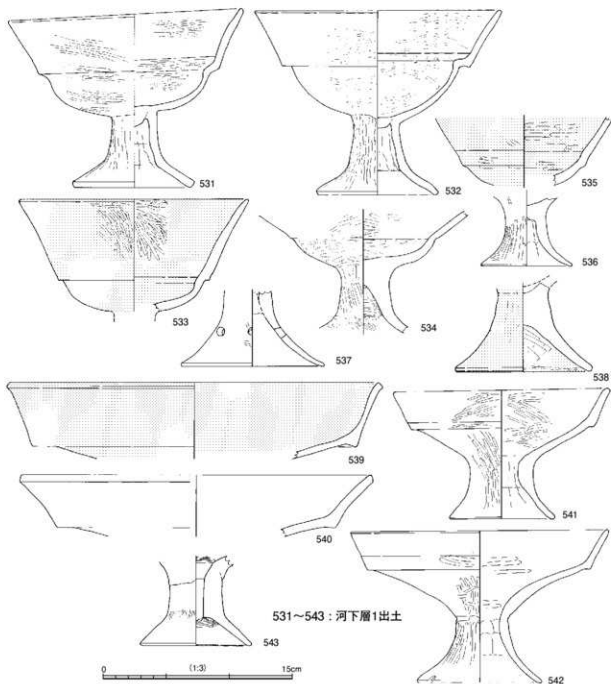


第38図 第3次調査遺物実測図9

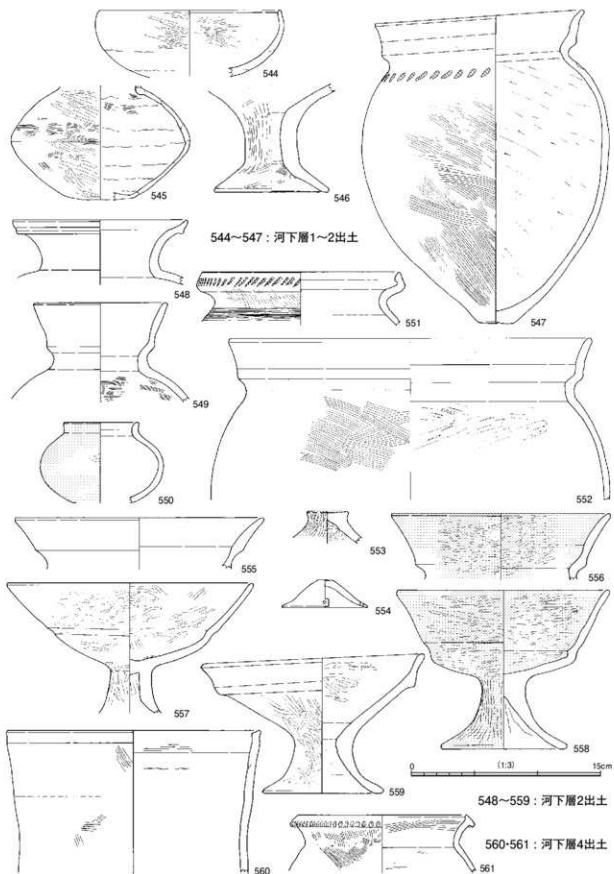


第39図 第3次調査遺物実測図10

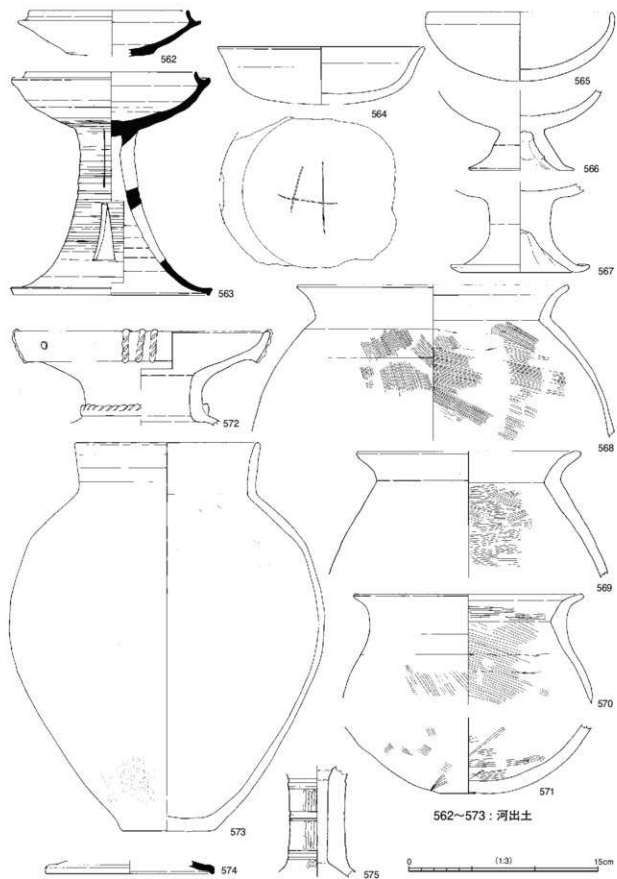
旧河川からは下層1の6W区において、完形の土器等が検出されている（下層1土器群）。出土状況は、器台542と高坏2点（531・532）が下流側の一所で倒立状態で検出された。そこから約2m南東に離れて、器台541が壺509を載せたまま上流方向へ向かって横倒しになった状態で検出された。また、2つの土器群の中間地点で壺508・甕514・磨石581などが纏まって検出された。大型の甕514は横倒しになって潰れた状態で検出されている。これら遺物の検出レベルはほぼ一定しており、旧河川検出範囲の最深部から100cm程度上位で、落ち肩から100cm程度下位である。これらの遺物については河岸からの投棄や他所からの漂着によるものではなく、この地点に遺棄されたものであることが出土状況から



第40図 第3次調査遺物実測図11



第41図 第3次調査遺物実測図12



第42図 第3次調査遺物実測図13



第43図 第3次調査遺物実測図14

想定される。当該地点は丁度SD02（第4次調査A区SD11 次節にて記述）が注ぎ込むすぐ先付近に相当するが、土器群遺棄地点の選定についても想定される祭祀の主宰者等の意向が働いていたのかもしれない。またそのように考えると、現場では偶然の流着品と考えた川底の大型樹根についても何か意味があったのかもしれない。

上層の古墳時代遺物については破片化した土器も多く出土状況からは明瞭な纏まりを指摘できないが、当地点付近に廃棄された状況を示すものであろう。上層出土土器の年代は西暦6世紀初め～7世紀中頃の比較的長期間に及んでおり、埋没途上の旧河道の凹み部分への敷次におよぶ遺棄を想定することができる。410は実測された須恵器の内では古相を呈する坏蓋である。胎土に長径5mmを越えるような大粒の白色砂礫を含み、器面には礫粒を起点とした小亀裂が顕著に認められるもので、在地（鳥屋）窯産とみられる。口縁部付け根の外側の稜が鋭く作り出されている。409は410よりも年代が降るとみられる須恵器坏蓋。409は410に比べて焼成がやや甘いが、胎土中の礫粒の状況は同様で稜を比較的鋭く作っている点共通する。

第5節 第4次調査の遺構と遺物

平成11年度の調査は第4次調査に当たり、最も上流側（南側）の860mが調査対象となった。調査区は、下流側すなわち北方から順に「A区」・「B区」・「C区」と便宜的に設定した。

A・B区は、第3次調査区のすぐ東側に隣接しており、東西約7～9m、南北約68mの南北に長い調査区である。調査区中央付近に北陸電力の送電線鉄塔があり、その保護の必要上、鉄塔基礎コンクリートから8m間隔をあけて調査を実施した。その鉄塔養生部分を境界として、便宜的に調査区北側をA区、調査区南側をB区とした。第3次調査区と一体となる建物柱穴（ピット）、溝、土坑などを検出し、弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代前期、中世の遺物が出土した。

C区は、B区から約70m南側に離れた場所に位置しており、東西約14m、南北約19mの三角形の調査区である。周囲の三方とも御蔵川旧河川の氾濫により遺構面が削られ、島状に残った部分について調査を実施した。錯綜した溝とピットを検出し、弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代前期の遺物が出土したが、建物の復元はできなかった。

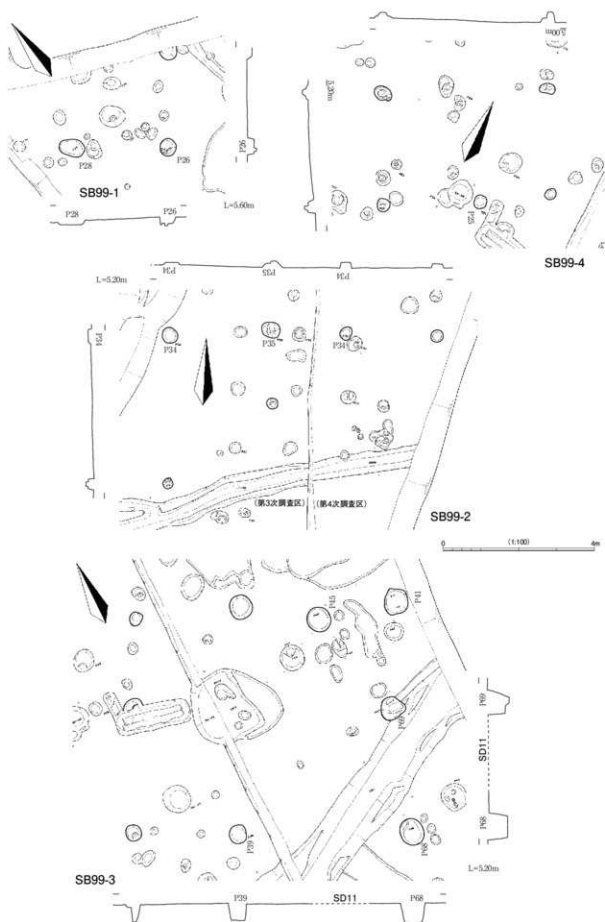
また、B区・C区間については、分布調査時（平成5年）の試掘により、第2・3次調査区でも確認した近代以降の蛇行する御蔵川旧河川に当たると判明し、調査対象外となった。

掘立柱建物 西側に隣接する第3次調査区と一体となり復元できた建物も多く、本節でまとめて報告する。掘立柱建物を中心に弥生時代後期と推定される建物1棟、古墳時代後期と推定される建物2棟、平安時代前期と推定される建物4棟、中世と推定される建物5棟の合計12棟を復元した。

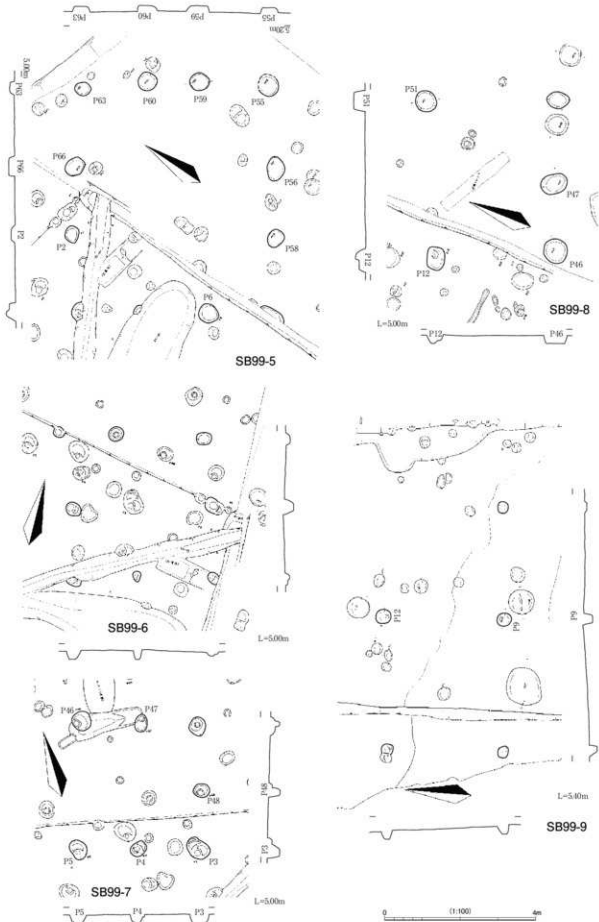
SB01 B区北寄りで検出した1間(252cm)×1間(252cm)（以上）の柱組である。建物方位はN37°-Eを指す。調査区外へ延びる可能性があり、全体の規模は不明であるが、第4次調査区P26・28などを主柱穴とする。1間×1間とみた場合に、第3次調査区SD04を外周溝とする、弥生時代後期の堅穴系建物の主柱穴となる可能性がある。

SB02 A区南端から第3次調査9E区に跨って検出した3間(704cm)（以上）×1間(395cm)の掘立柱建物である。建物の長軸はN87°-Eを指す。第3次調査区P34・35、第4次調査区P34などを主柱穴とするが、柱穴が小型で、配置が正方位に近いことから中世の建物と推定している。

SB03 A区中程から第3次調査5・6E区に跨って検出した3間(716cm)×2間(575cm)の掘立柱建物である。建物の長軸はN64°-Wを指す。第3次調査区P39、第4次調査区P41・45・



第44図 第4次調査建物跡遺構図1



第45図 第4次調査建物跡遺構図2



第46図 第4次調査建物跡遺構図3

68・69などを支柱穴とする。古墳時代後期と推定している土師器壺と甕(601・602)はP69・P68のそれぞれ堀方から出土したものであり、P68からは砥石(619)も出土している。

P68 A区SD11の南側に位置する。長軸約70cm、短軸約60cm、深さ約60cmの楕円形の小穴。堀方からは古墳時代後期の土師器甕胴部(602)や砥石(619)が出土している。

P69 A区SD11の北側肩部に重複する位置で検出した、直径約50cm、深さ約55cmの小穴。底部近くからは多数の土師器が出土しており、堀方からは当地では余り類例の知られていない、ほぼ完形品の土師器壺(601)が出土している。時期比定に問題を残すが、古墳時代後期頃と考える。

SB04 第3次調査区中程で検出した2間(439cm)×1間(286cm)の掘立柱建物である。建物の長軸はN-62°-Eを指す。第3次調査区P25などを支柱穴とし、平安時代前期の建物と推定している。

SB05 A区北端から第3次調査区に跨って検出した3間(616cm)×3間(526cm)の掘立柱建物である。建物の長軸はN-56°-Eを指す。第3次調査区P2・6、第4次調査区P55・56・58・59・60・63・66などを支柱穴とする。比較的多くの柱穴から土器が出土しており、いずれも細片であり年代を決めがたいが、平安時代前期の建物と推定している。

SB06 第3次調査区北寄りで検出した2間(377cm)×2間(377cm)の掘立柱建物である。建物の長軸はN-14°-Wを指す。平安時代前期の建物と推定している。

SB07 第3次調査区中程で検出した2間(330cm)×2間(330cm)の掘立柱建物である。建物の長軸はN-16°-Eを指す。第3次調査区P3・4・5・46・47・48などを支柱穴とする、古墳時代後期の建物と推定している。

SB08 A区北端から第3次調査区に跨って検出した2間(406cm)×1間(325cm)の掘立柱建物である。建物の長軸はN-68°-Eを指す。第3次調査区P12、第4次調査区P46・47・51などを支柱穴とする、古墳時代後期の建物と推定している。

SB09 B区から第3次調査区に跨って検出した2間(640cm)×1間(320cm)の掘立柱建物である。建物の長軸はN-5°-Wを指す。第4次調査区P9・12などを支柱穴とする、中世の建物と推定している。

SB10 第3次調査区中程で検出した2間(540cm)×2間(480cm)の掘立柱建物である。建物の長軸はN-2°-Eを指す。中世の建物と推定している。

SB11 第3次調査区北寄りの0～2区で検出した南北3間(925cm)(以上)×東西3間(802cm)の本報告中最も規模の大きい掘立柱建物である。建物の長軸はN-6°-Eを指す。中小型の柱穴で構成される総柱建物で、第3次調査区P42・44・45などを柱穴とする中世の建物と推定している。平面形は僅かに平行四辺形気味に歪むが、柱間距離の比率は東西が東から9.5:9.5:8、南北が北から11:11:9と看取され、西端と南端の柱間が狭い。西辺と南辺では柱穴が一段と小型であることも勘案すれば、この建物は2間×2間の身舎の西辺と南辺に廂をもつ構造に復元されよう。ちなみに図上の建物計測値から求められる復元尺値は南北(31尺)で29.84cm、東西(27尺)で29.70cmとなる。一つの建物について東西と南北とで尺の実寸値が異なっていたとは考えがたいため、建物計測値は理論上求められた値によって補正される必要がある。ただし理論値の算出にあたっては、復元尺値の長短いずれかを採用するというような単純な解決案に拠ることは未だできない。補正の方法については今後さらに追究を要するものと思われる。なお、第2次調査区と第3次調査区の間未調査範囲を勘案すれば、この建物跡には北方向へ身舎あるいは廂がもう1間程度のごびることを想定しうる余地がある。このように不確定な要素が残るものの、この建物跡は県内の中世総柱建物全体の中でみても、身舎・廂ともに柱間距離の相当長い部類に属するものである点が注目される。

SB12 A区南から第3次調査区9E区にかけて検出した2間(296cm)×2間(296cm)の掘立柱建物である。建物の長軸はN-0°を指す。第3次調査区P32・33、第4次調査区P32・33など小型の柱穴で構成される総柱建物であり、中世の建物と推定している。

土坑 A区で4基、B区で2基の計6基確認している。ただしSK02・03を除いては、深さが5～10cmと浅く、底面が平坦な遺構であり、性格は不明である。

SK01 B区北側で確認した、長軸約2.5m、短軸約1.8m、深さ約10cmの浅い土坑。中央部には、SK01を掘り込む直径37cm、深さ25cmのビットがあり、東側はSD07・08に切られる。古墳時代後期の土師器坑(606)が出土している。

SK02 A区南側で確認した、長軸約1.7m、短軸1.5m、深さ約28cmの土坑。第3次調査区SD05と接続する遺構であり、合わせて長軸約3.7mの規模である。覆土は暗褐色粘質土。

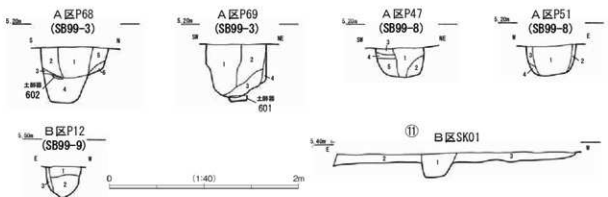
SK03 A区中央部で確認した、長軸約1.7m、短軸1.3m、深さ約28cmの土坑。東側に深さ約5cmのテラス状の浅い部分がある。第3次調査区SK05と接続する遺構であり、合わせて長軸約2.6mの規模である。

SK04 A区中央部で確認した、長軸約2.6m、短軸2.1m、深さ約5～14cmの浅い土坑。東側は調査区外へ延びると推定される。覆土は濁暗灰色粘質土。

SK05 B区中央部で確認した、長軸約1.3m、短軸1.1m、深さ約10cmの隅丸方形土坑。

SK06 A区中央部で確認した、長軸約2.2m、短軸約1.6m、深さ約10cmの不整形な土坑。

溝 A区で3条、B区で2条、C区7条の計12条確認している。A・B区のSD09・11は東西方向、SD07・08・10は南北方向に直線状に延びる。C区周囲は旧御蔵川氾濫による削平が顕著であり、検出した溝の切り合いも激しく、何度も流路を変えている様子が窺える。



A区P68

- 1 濁暗灰褐色粘質土+粗砂混入
- 2 濁黄褐色砂質土
- 3 2+4
- 4 暗灰色粘質土
- 5 淡褐色灰色砂質土(2より灰色強い)
- 6 5+7
- 7 暗灰色細砂(地山か)

A区P51

- 1 黒灰色粘質土
- 2 濁淡灰色粘質土+少し1混入
- 3 濁茶褐色砂質土+少し1混入
- 4 3より1多く含む

A区P69

- 1 暗褐灰色粘質土+やや黄褐色粘質土混入
- 2 1+黄褐色(強い)粘質土+淡灰色粘土混入
- 3 濁暗灰色粘質土
- 4 濁淡灰色粘質土

B区P12

- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 1より暗い
- 3 濁淡褐色灰色粘質土

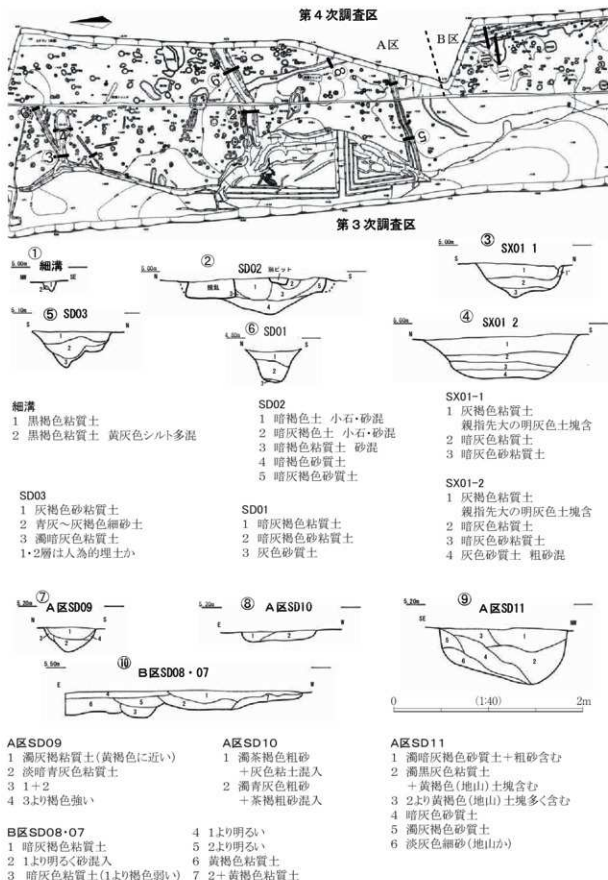
A区P47

- 1 濁暗灰褐色粘質土
- 2 濁淡青灰色粘質土+茶褐色粘土多く混入
- 3 濁茶褐色粘質土
- 4 3+5(漸移層)
- 5 2より褐色弱い

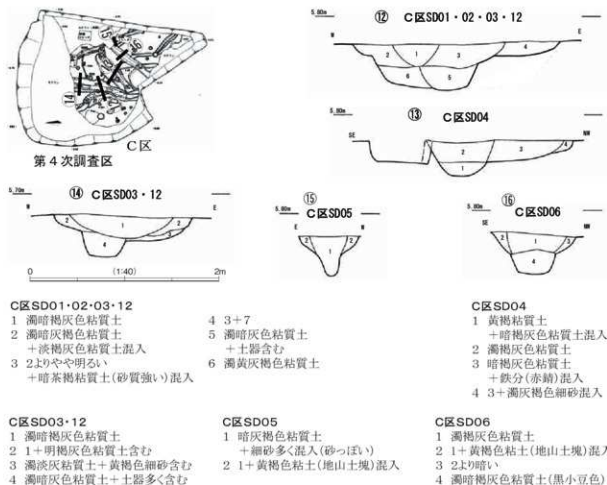
B区SK01

- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 1より明るく褐色強い
- 3 2よりやや灰色強い

第47図 第4次調査遺構図1



第48図 第4次調査遺構図2



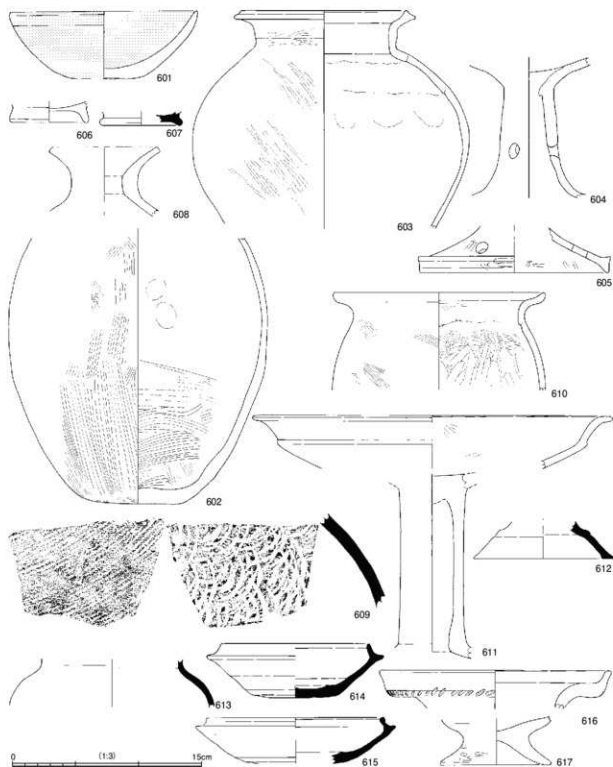
第49図 第4次調査遺構図3



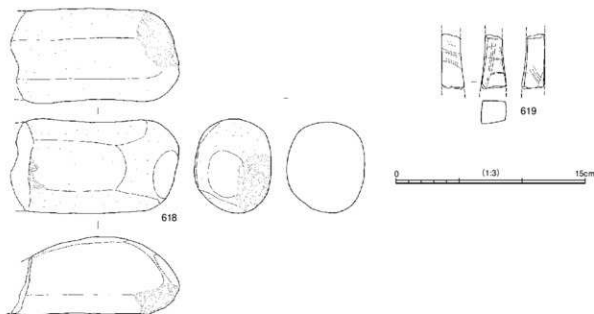
第50図 第4次調査作業状況(C区)

A区のSD10とB区のSD07・08とは一見すると直線的で連続するように見えたが、出土遺物や溝の幅、深さ及び覆土の色などの違いから、一連のものではないと考えている。

また、溝や遺構外から弥生時代～平安時代のもと考えられる、製塩土器の小片が出土している。細片でどれも図化していないが、付近で製塩作業を行っていた可能性がある。



第51図 第4次調査遺物実測図1



第52図 第4次調査遺物実測図2

SD01・02 C区西側を南北方向から少し西側へ振った方向で流れる溝である。両溝は並走しているが、新旧関係があり、SD02の方が時期的に新しい。溝の規模は、SD01が幅40～80cm、深さ20cmで、SD02が幅50～70cm、深さ15cmである。この切り合う2つの溝は、東側を南北方向に流れるSD03・12によって切られる。また、SD02からは弥生時代後期の壺と台付鉢(616・617)や古墳時代後期の須恵器坏身が、SD01からは須恵器壺(613)が出土していることから、SD01・02共に古墳時代後期以降の溝である。

SD03・SD12 C区西側を南北方向に流れる溝で、SD01・02を切る。SD03は幅90cm～150cm、深さ11～30cm、延長6.9mを確認している。弥生時代後期の遺物を多く含むが、古墳時代後期(6c末～7c初)の須恵器壺や坏身(612・614・615)が出土している。また、SD03の底面から、幅46cm、深さ26cmの新たな溝を確認し、SD12とした。覆土は、暗灰色粘質土で、弥生時代後期の土器片が出土している。

SD04 C区中央部を北東から南西へ流れる幅60cm、深さ70cmの溝である。南北方向に流れるSD03・12と、調査区東側を南北方向に流れるSD05により切られている。またSD04の北側に接する古い溝があり、残存幅85cm、深さ25cmの規模である。なお、SD04からは須恵器片が出土していることから、古墳時代後期の溝であると推測している。

SD05 C区東側を南北方向に流れる幅34～50cm、深さ30～40cmの溝で、SD04より新しい時期の遺構である。須恵器片が出土している。

SD06 C区東側を北東から南西方向に流れる幅約90cm、深さ約40cmの溝である。須恵器片が出土している。

SD07・08 B区東側を南北方向から少し西側へ振った方向で流れる溝である。両溝は並走しているが、土層の切り合いからはSD07が新しい時期の遺構である。溝の規模は、SD08が幅55cm、深さ20cmで、その上に重なるようにして、SD07が幅約2.5m、深さ20cmで、SD08の上層に乗る部分は深さ約5cmである。出土遺物から時期的な差異は明確にできないが、SD07からは、弥生時代後期の器台(608)と平安時代前期の土師器埴(607)が、SD08からも同時期の遺物

が出土していることから、SD07・08の2つの溝は平安時代前期頃のものであると推定される。

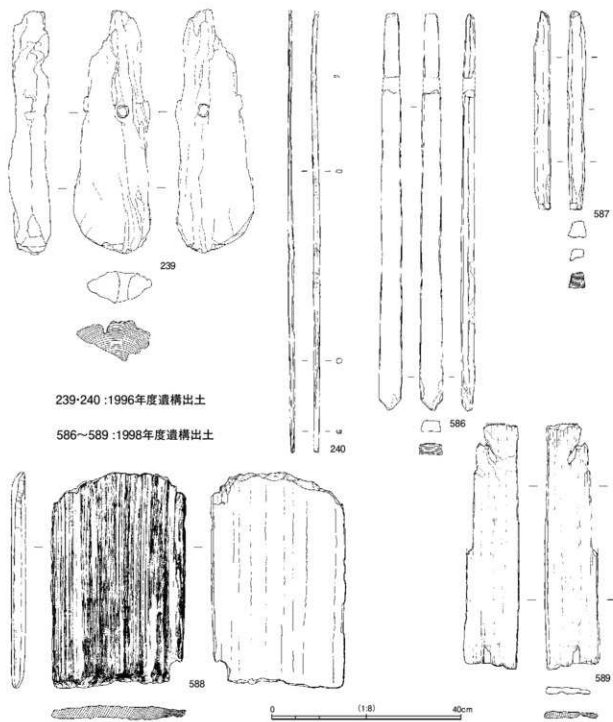
SD09 A区南側を東西方向に流れる幅約50cm、深さ約30cmの溝で、第3次調査区のSD03と接続する。第3次調査の所見では、近代以降の御蔵川旧河川につながる（切られる）溝である。

SD10 A区を南北方向から少し西側へ振った方向で流れる溝である。東西方向に流れるSD11に切られる幅約40～90cm、深さ約10cmの溝である。6世紀前半頃の須恵器小片が出土している。

SD11 A区を東西方向に流れる幅約1.4m、深さ約60cmの溝。第3次調査区のSD02と接続し、旧河道の下層（弥生時代後期）に合流する。弥生時代後期の土器（603～605）が多数出土している。

ピット 柱穴、小穴は多数検出しており、遺構番号をつけたものだけで、A区で39、B区で31、C区で3の合計73基確認している。掘立柱建物の柱穴として復元できなかったものも多い。

P3 C区SD06の東側に位置する、直径約40cm、深さ約10cmで略円形の浅い小穴。砥石や拳太の自然礫多数と、弥生時代後期後半の甕と柱状の脚部をもつ高坏（610・611）が出土している。



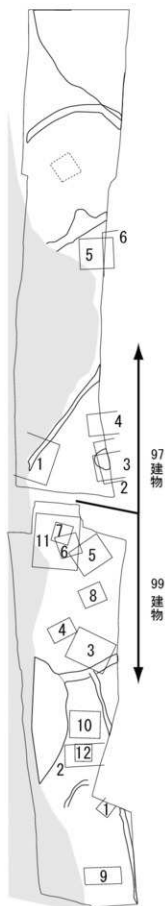
239・240 : 1996年度遺構出土

586~589 : 1998年度遺構出土

第53図 木製品実測図

建物 番号	長軸 方位	補正 方位	推定 年代	長辺 間数	長辺長 (cm)	短辺 間数	短辺長 (cm)	柱穴の番号		報告遺物の番号	
97-1	19E	71W	古墳後	4	743	2以上	346				
								南区18	20 22 27 29 30	301	303
97-2	13W	13W	古墳後	3	751						
						南区14	16				
97-3	13W	13W	古墳後	2	457	1以上	228				
								南区13	15		
97-4	8W	8W	古墳後	1以上	169	1	407				
								南区1	4 9 10	304	309 314
97-5	3W	3W	中世	2	540	1以上	255				
97-6	5W	5W	弥生後	3以上	586						
						北区1	2				
99-1	37E	53W	弥生後	1以上	252	1	252				
								99B-26	28		
99-2	3W	3W	中世	3	704	2	395				
								99A-34	98-34 35		
99-3	64W	64W	古墳後	3	716	2	575				
								99A-41	45 68 69 98-39	601	602 619
99-4	62E	28W	平安前	2	439	1	286				
								98-25			
99-5	56E	24W	平安前	3	616	3	526				
								99A-55	56 58 59 60 63 66 98-2 6		
99-6	14W	14W	平安前	2	377	2	377				
99-7	16E	74W	古墳後	2	330	2	330				
								98-3	4 5 46 47 48		
99-8	68E	22W	平安前	2	406	1	325				
								99A-46	47 51 98-12		
99-9	5W	5W	中世	2	640	1	320				
								99B-9	12		
99-10	2E	88W	中世	2	540	2	480				
99-11	6E	84W	中世	3	925	3	802				
								98-12	44 45		
99-12	0	0	中世	2	296	2	296				
								32	33 98-32 33		

第1表 建物跡一覧

第54図
建物跡の位置

報告 番号	出土地点	種別	形状	口径 (㎝)	底径 (㎝)	高さ (㎝)	遺存数	その他	実測 番号
1	2号F・1216	銅鍍器	鉢形片			(7.1)		焼成済	D 2
2	5溝ワケションベルト 797・1210	養生	壘	22.5		(9.6)	口縁2/12	焼成済	C 15
3	5溝 (函)・1209	養生	壘	5.4 (7.8A)	11.0	6.5	つまみ 11/12 底縁3/12	焼成済 外周溝あり	C 346
4	5溝 (函)・1209	養生	小型鉢			(7.4)		焼成済 縁部なし	C 12
5	5溝 (函)・1209	養生	鉢		9.6	(10.4)	底縁3/12	焼成済	C 13
6	5溝 (函)・1210	養生	高坪		12.7	(12.9)	縁部ほぼ完整	焼成済 外周溝あり	C 10
7	5溝 (函)・1209	養生	鉢台	21.5		(5.8)	口縁3/12	焼成済	C 14
8	5溝 (函)・1210	養生	高坪	22.9		(8.4)	坪部6/12	焼成済 外周溝あり	C 11
9	5溝ワケションベルト 792・1210 5溝 (函)・1209	養生	高坪カク		19.3	(6.3)	縁部6/12	焼成済	C 16
10	4溝A・1122	土師器	甕	13.2		(8.7)	3/12	焼成済	C 171
11	4溝A・1122	土師器	甕	13.6		(5.3)		焼成済 胴径 16.1cm	C 361
12	4溝A・1122	土師器	鉢	11.6		7.1	口縁1/12	焼成済	C 49
13	4溝A・1122	土師器	鉢	15.9		(6.6)		焼成済 外周ハコ形 外周溝あり	C 360
14	4溝A・1122	土師器	甕	13.5		5.6	4/12	焼成済 内外周溝あり	C 359
15	4溝A(原)・1104	土師器	甕	14.2		6.2	5/12	焼成済	C 364
16	4溝A・1122	土師器	甕	13.6		4.6	4/12	焼成済	C 369
17	4溝A・1122	土師器	甕	11.8		4.7	口縁 11/12	焼成済	C 52
18	4溝A・1122	土師器	高坪	17.6		(4.3)	4/12	焼成済	C 170
19	4溝A・1122	土師器	高坪		9.2	(4.5)	底縁7/12	焼成済	C 51
20	4溝A・1122	土師器	鉢台		11.0	(4.6)	底縁 10/12	焼成済	C 50
21	4溝A・1122	土師器	壘	16.0		(10.5)	4/12	焼成済 外周スス付	C 358
22	4溝A・1122	土師器	壘	19.6		(6.0)	3/12	焼成済	C 172
23	4溝 (A-1 部) P1・1125	土師器	有台 壘	8.4	9.4	14.1	10/12	焼成済	C 85
24	4溝 (A-1 部) P19・1125	土師器	壘	16.6		(4.3)	3/12	焼成済	C 355
25	4溝 (A-1 部) P14・1125	土師器	高坪	12.2	9.3	12.7	口縁2/12 底縁11/12	焼成済	C 82
26	4溝 (A-1 部) P2・1125 PB P16	土師器	高坪	21.8	12.3	13.4		焼成済	C 45
27	4溝 (A-1 部) P17・1125	土師器	鉢台			(6.1)	4/12	焼成済	C 356
28	4溝 (A-1 部) P18・1125	土師器	鉢台	13.0		(6.8)	5/12	焼成済	C 94
29	4溝 (A-1 部) P5・1125	土師器	壘	9.4	3.6	6.2	7/12	焼成済 外周スス付	C 89
30	4溝 (A-1 部) P4の下・1125	土師器	甕	15.3		(4.5)	2/12	焼成済 外周溝あり	C 357
31	4溝 (A-1 部) P3・1125	土師器	甕	14.3	4.0	5.0	7/12	焼成済	C 87
32	4溝 (A-1 部) P10・1125	土師器	甕	13.6	6.0	3.5	9/12	焼成済 外周ハコリ	C 95
33	4溝 (A-1 部) P12・1125	土師器	甕	12.4	3.0	4.4	8/12	焼成済	C 91
34	4溝 (A-1 部) P1の下・1125	土師器	甕		2.8	(2.6)	5/12	焼成済	C 90
35	4溝 (A-1 部) P13・1125	土師器	甕	14.2		(4.1)	2/12	焼成済	C 92
36	4溝 (A-1 部) P15・1125	土師器	甕	15.2		(4.0)	2/12	焼成済	C 88
37	4溝 (A-1 部) P6・1125	土師器	甕	14.8		(5.4)	口縁 12/12	焼成済 外周一部溝あり	C 93
38	4溝 (A-1 部) P16・1125 4溝A・1122	土師器	高坪	12.7	7.6	8.0	口縁5/12 底縁11/12	焼成済 深い溝あり	C 79
39	4溝 (A-1 部) P14・1125	土師器	高坪		9.4	(6.6)	1/12	焼成済	C 80
40	4溝 (A-1 部) P11・1125	土師器	高坪	13.4	8.6	8.9	10/12	焼成済	C 86
41	4溝 (A-2 部) P13・1126	土師器	壘	9.2		16.2	口縁1/12	焼成済 胴径 13.8cm	C 141
42	4溝 (A-2 部) P2・1126	土師器	壘	9.5		(16.9)	口縁完整	焼成済 外周溝あり 胴径 15.3cm	C 142
43	4溝 (A-2 部) P11・1129	銅鍍器	坪身	10.6	7.2	4.8	口縁8/12	焼成済 既欠	D 7
44	4溝 (A-2 部) P10・1126 4溝 (A-3 部) 1125 4溝 (B 部) 1213 4溝 (A 部) 土師 1114	銅鍍器	皿カク			(11.8)		焼成済 胴径 16.4cm	D 6
45	4溝 (A-2 部) 1125 4溝 (A 中層) 粘土層 1122	土師器	壘		36.5	(6.8)	4/12	焼成済 外周溝あり	C 84
46	4溝 (A-2 部) P16・1126 4溝 (A 中層) 粘土層 1122 4溝 (A-2 部) 1125 4溝 (A-2 部) P15・1126 4溝 (A-3 部) 1125	土師器	壘	18.8		(18.1)	口縁 12/12	焼成済 外周溝あり	C 96
47	4溝 (A-2 部) P8・1126	土師器	壘	19.0		(20.3)	5/12	焼成済 外周溝あり	C 35
48	4溝 (A-2 部) 1125	土師器	壘	19.0		(3.4)	4/12	焼成済	C 354
49	4溝 (A-2 部) P16・1126 4溝 (A 中層) 粘土層 1122	土師器	壘	19.8		(13.7)	口縁ほぼ完整	焼成済	C 375
50	4溝 (A-2 部) P-15・1126 4溝 (A 中層) 粘土層 1122	土師器	壘		9.5	(24.9)	8/12	焼成済	C 34
51	4溝 (A-2 部) P6・1126	土師器	高坪	15.8	11.2	11.7	口縁4/12 底縁5/12	焼成済 内外周溝あり	C 135
52	4溝 (A-2 部) P15の下・1126	土師器	高坪	15.5	8.6	9.6	口縁11/12 底縁6/12	焼成済 内外周溝あり	C 136
53	4溝 (A-2 部) P14・1126	土師器	高坪	8.4	(4.5)	(4.5)	底縁ほぼ完整	焼成済	C 143
54	4溝 (A-2 部) P9・1126	土師器	高坪		8.8	(4.6)	底縁1/12	焼成済	C 147
55	4溝 (A-2 部) P12・1126	土師器	高坪	15.0		(6.6)	口縁5/12	焼成済 内外周ハコリ	C 137
56	4溝 (A-2 部) P14・1126	土師器	高坪	14.8		(5.1)	口縁完整	焼成済	C 138

第2表-1 土器一覧

報告番号	出土地点	種類	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	遺存度	その他	調査番号	
57	4溝 (A2期) P16-1126	土師器	壺	18.6		19(2)	口縁6/12	焼成済 外周スス付着	C 97	
58	4溝 (A2期) P4-1126	土師器	甕	12.3	7.8	5.2	口縁定形 底面定形	焼成済	C 144	
59	4溝 (A2期) P16-1126 P15 P15下	土師器	甕	13.0	9.8	4.5	口縁5/12 底面6/12	焼成済	C 146	
60	4溝 (A2期)-1125	土師器	高坏	14.2		15(3)	3/12	焼成済	C 353	
61	4溝 (A2期) P12下-1126	土師器	甕	14.3		5.6	口縁2/12	焼成済	C 139	
62	4溝 (A2期) P5-1126	土師器	甕	13.6		5.0	口縁6/12	焼成済	C 145	
63	4溝 (A2期) P3-1126	土師器	甕	14.4		5.5	口縁7/12	焼成済 内周面ハケリ	C 140	
64	4溝A南 (A3期)-1213	土師器	高坏			9.6	16(2)	底面7/12	焼成済	C 109
65	4溝 (A3期) P2-1126 4溝 (A-南) 粘土層-1122	土師器	高坏	13.5		15(8)	底面 11/12	焼成済	C 106	
66	4溝 (A3期) P4-1126	土師器	甕	12.7	8.7	4.6	ほぼ定形	焼成済	C 104	
67	4溝 (A3期)-1125	土師器	甕	13.6	5.0	5.7	口縁1/12 底面6/12	焼成済	C 307	
68	4溝 (A3期)-1125	土師器	甕	11.9			6/12	焼成済 外周スス付着	C 105	
69	4溝 (A3期) P5下-1126	土師器	小壺	7.3	5.0	5.2	口縁定形 ほぼ定形	焼成済	C 111	
70	4溝 (A3期) P5-1126	土師器	甕	8.2		14.4	10/12	焼成済	C 112	
71	4溝 (A3期) P7-1126	土師器	甕	9.3		11(4)	口縁-底面定形	焼成済	C 110	
72	4溝 (A3期) P3-1126	土師器	甕		8.2	19(9)	胴面定形	焼成済	C 83	
73	4溝 (A3期)-1125	土師器	甕	19.8		17(8)	口縁5/12	焼成済 外周スス付着	C 106	
74	4溝 (A3期) P6-1126	土師器	甕	16.9		22(9)	11/12	焼成済 内周面スス付着	C 44	
75	4溝 (A-東北) 上層-1115	土師器	甕	20.0		16(2)	口縁3/12	焼成済	C 133	
76	4溝 (A-東北) 上層-1115	土師器	甕	14.6		18(3)	口縁5/12	焼成済	C 48	
77	4溝 (A-東北) 上層-1115	土師器	甕	17.4		11(1)	口縁4/12	焼成済 外周スス付着	C 131	
78	4溝 (A-東北) 上層-1115	土師器	甕			15(4)		焼成済 内周面跡 孔径1.6~1.3cm	C 363	
79	4溝 (A-東北) 上層-1115	土師器	高坏		8.0	16(1)	胴縁 11/12	焼成済	C 132	
80	4溝 (A-北)-1119	須恵器	甕		11.6	14(7)		焼成済	D 8	
81	4溝 (A-北) 上層-1114	土師器	甕	19.0		15(9)	口縁6/12	焼成済 内周スス付着	C 99	
82	4溝 (A-北) 上層-1115 4溝A北 (A-1期)-1129	土師器	甕	13.3		14(1)	3/12	焼成済	C 81	
83	4溝 (A-北) 上層-1114	土師器	甕	15.6		11(10)	口縁6/12	焼成済	C 300	
84	4溝 (A-北) 上層-1114	土師器	甕	20.0		14(6)	口縁2/12	焼成済	C 102	
85	4溝 (A-北)-1113	土師器	内裏焼	14.8	7.5	5.4	ほぼ定形	焼成済 内裏のみみ出しあり	C 134	
86	4溝 (A-北) 上層-1114	土師器	甕	12.8	4.0	4.5	6/12	焼成済	C 113	
87	4溝 (A-北) 上層-1114	土師器	坏	14.7		14(5)	口縁3/12	焼成済 裏面あり	C 103	
88	4溝 (A-北) 上層-1114	土師器	坏	14.1		14(1)	口縁1/12	焼成済	C 101	
89	4溝 (A-北) 上層-1114	土師器	把手					焼成済	D 22	
90	4溝 (A-北) 上層-1115	土師器	高坏			8.8	14(4)	底面6/12	焼成済 一部にスス付着	C 98
91	4溝 (A-中北) 粘土層-1122	土師器	甕	27.4		18(6)	口縁2/12	焼成済	C 47	
92	4溝 (A-中北) 粘土層-1122	土師器	甕	11.4	6.0	4.1	6/12	焼成済	C 115	
93	4溝 (A-中) 粘土層-1122	土師器	甕	10.6		15(8)	2/12	焼成済	C 168	
94	4溝 (A-中南) 粘土層-1122	土師器	甕	13.8		14(8)	5/12	焼成済	C 114	
95	4溝 (A-南) 粘土層-1122	須恵器	甕	13.0		13(8)	口縁1/12	焼成済	D 14	
96	4溝 (A-南) 粘土層-1122	須恵器	高坏	13.9		15(8)	口縁1/12	焼成済 遺灰文	D 12	
97	4溝 (A-南) 粘土層-1122	土師器	高坏	14.6		18(2)	4/12	焼成済	C 167	
98	4溝 (A-南) 粘土層-1122	土師器	高坏	14.0	9.6	8.8	4/12	焼成済 坪内面は褐色色 内周一部内面が黒色化・光沢あり	C 165	
99	4溝 (A-南) 上層-1114	土師器	高坏			13(3)	4/12	焼成済	C 166	
100	4溝 (A-南) 粘土層-1122 4溝 (B-北) 粘土層 1122	土師器	甕	18.2		17(5)	口縁4/12	焼成済 外周スス付着	C 151	
101	4溝 (B-1期) P2-1106 4溝 (B-北) 粘土層 1125	土師器	甕	14.2	5.8	5.2	1/12	焼成済	C 160	
102	4溝 (B-1期) 粘土層-1125 4溝 (B-1期) P2下-1126	土師器	甕	13.5	5.5	5.5	10/12	焼成済	C 58	
103	4溝 (B-1期) P4-1126	土師器	甕	13.2		4.9	ほぼ定形	焼成済	C 60	
104	4溝 (B-1期) P3-1126	土師器	甕			15(7)	底面以下定形	焼成済 外周面跡あり	C 59	
105	4溝 (B-1期) P2-1126	土師器	手づくね	7.0	4.3	5.1	底面跡 口縁1/12以下	焼成済	C 349	
106	4溝 (B-1期) P2-1126	土師器	甕	19.0		22(2)	口縁 11/12	焼成済 全体にスス付着	C 43	
107	4溝 (B-1期) P2-1126	土師器	甕	19.0		18(3)	口縁2/12	焼成済 外周スス付着	C 348	
108	4溝 (B-1期) P2-1126	土師器	甕	18.0	4.0	27(5)	ほぼ定形	焼成済	C 42	
109	4溝 (B-1期) P1-1126	土師器	甕	13.6	5.2	17(8)	9/12	焼成済 内周面スス付着	C 53	
110	4溝 (B) 上層-1112	土師器	甕	15.3		15(3)	2/12	焼成済 外周面跡あり	C 161	
111	4溝 (B) 上層-1112	土師器	小壺	11.6		15(7)	3/12	焼成済	C 163	
112	4溝 (B) 上層-1112	土師器	コシキリ罐	6.9	5.0	4.0	口縁2/12 底面7/12	焼成済	C 162	
113	4溝 (B) 原層-1121	土師器	甕	14.5	5.4	6.6	ほぼ定形 口縁以下定形	焼成済	C 56	

第2表-2 土器一覽

報告番号	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	遺存度	その他	実測番号	
114	4 溝 (B) 灰層・1121	土師器	内底煎	12.2	5.5	6.1	口縁6/12 底面定形	焼成済	C 54	
115	4 溝 (B) 灰層・1121	赤土	壺	9.6		(B)7	口縁・底面定形	焼成済 外面にへら状工具の痕	C 56	
116	4 溝 (B)C) SB 内・1213	土師器	高坪	15.5		(B)2	口縁4/12	焼成済	C 57	
117	4 溝・1122	赤土	壺	16.4		(A)8	口縁3/12	焼成済	C 116	
118	4 溝 (B) 灰土層・1125	須恵器	杯蓋	13.0	7.8	4.6	口縁1/12 底面5/12	焼成済	D 11	
119	4 溝 (B) 灰土層・1114	須恵器	高坪		9.6	(A)6	底面5/12	焼成済 透かし3ヶ所	D 13	
120	4 溝 (B) 灰土層・1114	土師器	甕	13.7	9.3	5.5	口縁3/12 底面8/12	焼成済	C 120	
121	4 溝 (B) 灰土層・1126	土師器	甕	14.3	7.4	4.6	口縁3/12	焼成済	C 153	
122	4 溝 (B) 灰土層・1213	土師器	甕	14.0	5.6	6.2	口縁3/12 底面ほぼ定形	焼成済 外面スス付層	C 74	
123	4 溝 (B) 灰土層・1213	土師器	甕	15.0	7.3	5.5	口縁2/12 底面6/12	焼成済	C 75	
124	4 溝 (B) 灰土層・1212	土師器	甕	15.2		5.2	9/12	焼成済 外面黒煙あり	C 71	
125	4 溝 (B) 灰土層・1213	土師器	高坪		8.3	(A)4	底面5/12	焼成済	C 77	
126	4 溝 (B) 灰土層・1125 4 溝 (B) 中) 灰土層・1125	土師器	高坪		8.8	(7)7	4/12	焼成済	C 155	
127	4 溝 (B) 灰土層・1119	土師器	高坪		11.4	6.0	底面6/12	焼成済	C 148	
128	4 溝 (B) 灰土層・1213	土師器	高坪		10.2	(B)5	底面ほぼ定形	焼成済	C 76	
129	4 溝 (B) 灰土層・1125	土師器	手つちも	5.0	3.0	4.9	底面	焼成済 外面一部にスス付層	D 23	
130	4 溝 (B) 灰土層・1125	土師器	手つちも	4.6	3.6	4.0	口縁6/12 底面6/12	焼成済	D 24	
131	4 溝 (B) 灰土層・1114	土師器	高坪			(B)3		焼成済	C 123	
132	4 溝 (B) 灰土層・1125	土師器	高坪	26.2		7.6	口縁2/12	焼成済	C 119	
133	4 溝 (B) 灰土層・1125	土師器	鉢			9.0		焼成済	C 118	
134	4 溝 (B) 灰土層・1125	土師器	壺	16.0		(A)8	口縁1/12	焼成済	C 121	
135	4 溝 (B) 灰土層・1213	土師器	壺	18.0		(7)8	口縁4/12	焼成済	C 122	
136	4 溝 (B) 灰土層・1125	土師器	壺			3.6	(A)3	底面5/12	焼成済 外面スス付層 外面比熱によるハケリ	C 117
137	4 溝 (B) 灰土層・1122	土師器	壺	20.6		(7)2	口縁3/12	焼成済 外面スス付層	C 154	
138	4 溝 (B) 灰土層・1126	土師器	壺	21.0		(B)2	口縁2/12	焼成済	C 149	
139	4 溝 (B) 灰土層・1213	土師器	壺	20.1		(B)4	口縁3/12	焼成済 外面スス付層	C 78	
140	4 溝 (B) 中) 灰土層・1125	土師器	壺	16.8		(A)0	2/12	焼成済 外面スス付層	C 154	
141	4 溝 (B) 中) 灰土層・1125	土師器	小型壺	10.6		(7)7	2/12	焼成済 外面ススわきかに付層	C 157	
142	4 溝 (B) 中) 灰土層・1115	土師器	小型壺	7.9	3.8	4.6	口縁2/12 底面3/12	焼成済	C 159	
143	4 溝 (B) 中) 灰土層・1125 4 溝 (B) 灰土層・1114	土師器	甕	16.5		(B)6	2/12	焼成済 外面ヒビあり 調整が薄 外面黒煙あり	C 158	
144	4 溝 (B) 中) 灰土層・1125	土師器	甕	13.3		5.0	3/12	焼成済	C 156	
145	4 溝 (B) 中) 灰土層・1126	土師器	甕	14.5		4.2	口縁1/12以下 底面5/12	焼成済	C 152	
146	4 溝 (B) 中) 灰土層・1125	土師器	壺	21.6		31.1	口縁5/12	焼成済 肩径28.3cm 外面スス付層	C 36	
147	4 溝 (B) 中) 灰土層・1125	土師器	壺	13.5		(11)5	1/12	焼成済 外面スス付層	C 73	
148	4 溝 (B) 中) 灰土層・1125	土師器	ミニチュア土器 (甕)	4.4	3.0	6.2	口縁1/12 底面定形	焼成済	D 19	
149	4 溝 (B) 中) 灰土層・1125	土師器	手つちも	4.6	3.8	4.5	口縁6/12 底面定形	焼成済 底面溝内 (浅い) 径3.0cm 外面黒煙あり	D 20	
150	4 溝 (B) 中) 灰土層・1125	土師器	ミニチュア土器 (甕)	6.6	2.6	5.4	口縁7/12 底面定形	焼成済好 内面工具痕あり	D 21	
151	4 溝 (B) 中) 灰土層・1216	土師器	甕	12.8	3.3	5.5	6/12	焼成済	C 150	
152	4 溝 (B) 中) 灰土層・1125	土師器	甕	13.7		5.5	11/12	焼成済	C 72	
153	4 溝 (C) 灰土層・1114	須恵器	甕	13.6		4.6	口縁10/12	焼成済	D 5	
154	4 溝 (C) 灰土層・1121	須恵器	杯蓋	12.2	8.2	4.9	口縁6/12 底面11/12	焼成済	D 4	
155	4 溝 (C) 灰土層・1114	土師器	内底煎	17.0		(B)8	口縁1/12	焼成済	C 350	
156	4 溝 (C) 灰土層・1114	土師器	甕	16.0		(A)8	口縁1/12	焼成済	C 67	
157	4 溝 (C) 灰土層・1112	土師器	甕	13.4		4.3	口縁1/12	焼成済	C 69	
158	4 溝 (C) 灰土層・1114	土師器	甕	13.8		5.0	口縁1/12	焼成済	C 68	
159	4 溝 (C) 灰土層・1212	土師器	壺			(9)3	底面定形	焼成済	C 66	
160	4 溝 (C) 灰土層・1212	土師器	高坪	19.8	11.4	13.3	口縁5/12 底面定形	焼成済 砂がみあり	C 65	
161	4 溝 (C) 灰土層・1121	土師器	高坪		9.6	(B)5	底面7/12	焼成済	C 70	
162	4 溝 (C) 灰土層・1114	土師器	甕	9.1	5.0	5.3	口縁2/12 底面6/12	焼成済	D 18	
163	4 溝 (C) 灰土層・1121	土師器	小型壺	5.2		(B)0	口縁6/12	焼成済	D 60	
164	4 溝 (C) 灰土層・1114 4 溝 (C) 灰土層・1114	土師器	甕	13.6		7.9	2/12	焼成済	C 129	
165	4 溝 (C) 灰土層・1115, 1120	土師器	甕	13.0		5.4	4/12	焼成済	C 124	
166	4 溝 (C) 灰土層・1114	土師器	高坪		8.1	(3)7	6/12	焼成済	C 130	
167	4 溝 (C) 灰土層・1114	土師器	手つちも	5.1	3.8	6.8	口縁6/12 底面定形	焼成済 裏面に黒煙ハケリ	C 127	
168	4 溝 (C) 灰土層・1114	土師器	甕	24.0		(B)0	2/12	焼成済 内面黒煙化している	C 126	

第2表-3 土器一覧

報告番号	出土地点	種類	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	遺存数	その他	実測番号
169	4溝 (C-南) 土層-1114	土師器	壺	14.6		15.3	3/12	焼成品	C 128
170	4溝 (C)-1126	土師器	壺			[21.3]		焼成品 胴径26.7cm	C 125
171	4溝 (D) 土層-1127	須恵器	坏身	12.4		[2.8]	口縁2/12	焼成品	D 10
172	4溝 (D) 土層-1128 4溝 (C-北)-1121	須恵器	坏身	11.6		[3.9]	口縁2/12	焼成品	D 9
173	4溝 (D) 土層-1128	土師器	甕	13.9	7.0	5.4	10/12	焼成品	C 61
174	4溝 (D) 土層-1128	土師器	甕	14.0		4.1	3/12	焼成品	C 64
175	4溝 (D) 土層-1128	土師器	壺	21.6		[11.4]	4/12	焼成品	C 62
176	4溝 (D) 土層-1128	土師器	壺			[22.9]		底径& 内径不明あり 胴径24.3cm	C 174
177	4溝 (D-1) 土層 P3-1129	土師器	甕	13.0	8.0	9.0	口縁・底面不明	焼成品	C 181
178	4溝 (D) 土層-1128 4溝 (D-1) 土層 P1-1129	土師器	甕	14.5		5.7	口縁11/12	焼成品	C 179
179	4溝 (D-1) 土層 P2-1203	土師器	壺	12.5		15.5	11/12	焼成品 内面コゲ付	C 183
180	4溝 (D-1) 土層 P4-1203	土師器	壺	17.7		27.6	口縁不明 9/811/12	焼成品 日字押出	C 46
181	4溝 (D-1) 土層-1129 4溝 (D-中) 灰化層-1129	須恵器	壺			[5.6]		焼成品	D 15
182	4溝 (D-2) 土層 P1-1203	土師器	甕	14.4		6.0	口縁4/12	焼成品	C 180
183	4溝 (D-2) 土層 P4-1203	土師器	高坏	14.2	9.6	9.0	口縁4/12 底面1/12	焼成品	C 186
184	4溝 (D-2) 土層 P2-1203	土師器	壺	16.4		[7.2]	口縁不明	焼成品	C 185
185	4溝 (D-2) 土層 P3-1203	土師器	有台鉢	12.5	[8.0]	11.1	口縁10/12	焼成品	C 182
186	4溝 (D-中) 灰化層-1129	土師器	壺			[5.0]		焼成品 胴径13.6cm	C 178
187	4溝 (D-中) 灰化層-1124	土師器	甕	12.0		4.6	11/12	焼成品 内外面黒染あり	C 175
188	4溝 (D-中) 灰化層-1129	土師器	甕	14.7		[4.2]	2/12	焼成品	C 177
189	4溝 (D-中) 灰化層-1129	土師器	壺	18.8		[5.6]	2/12	焼成品	C 176
190	4溝 (D-中)-1129 (E) 土層-1128 (E-1) 土層-1129	土師器	壺	18.3		[5.9]	口縁6/12	焼成品	C 22
191	4溝 (D-中)-1129	土師器	壺	19.4		[5.2]	口縁3/12	焼成品	C 347
192	4溝 (D-中)-1129	土師器	壺	17.0		[9.3]	口縁5/12	焼成品	C 184
193	4溝 (D-中) 灰化層-1129 4溝 (D-1) 土層-1129	土師器	壺	18.6		22.7	5/12	焼成品 胴中に破片多い	C 63
194	4溝 (D-中)-1129	土師器	壺			[3.8]		焼成品 内面黒染あり	C 173
195	4溝 (E) 土層-1127	須恵器	坏身	11.0	3.6	4.8	口縁1/12 底面11/12	焼成品	D 3
196	4溝 (E) 土層-1127	土師器	甕	13.9		5.8	口縁4/12 底面不明	焼成品 内外面黒染あり 中がみあり	C 18
197	4溝 (E) 土層-1127	土師器	甕	11.2	6.9	5.6	11/12	焼成品	C 19
198	4溝 (E) 土層-1128	土師器	甕	13.9		4.7		焼成品	C 20
199	4溝 (E) 土層-1127	土師器	高坏	15.6	7.8	8.1	口縁5/12 底面5/12	焼成品	C 17
200	4溝 (E) 土層-1128	赤土	壺	12.2		[5.6]	口縁4/12	焼成品	C 23
201	4溝 (E)-1129	赤土	壺	17.2		[7.0]		焼成品 外面スス付	C 24
202	4溝 (E) 土層-1128	赤土	壺	14.1		[6.3]	口縁7/12	焼成品	C 21
203	4溝 (E-1) 土層-1129	須恵器	壺		13.4	[4.0]	口縁1/12	焼成品	D 16
204	4溝 (E-1) 土層-1129	須恵器	坏身	13.0		[4.2]	口縁1/12	焼成品	D 17
205	4溝 (E-1-北)-1129	土師器	甕	14.9	7.1		6/12	焼成品	C 28
206	4溝 (E-1-南)-1129	土師器	甕	14.7		[4.2]	口縁4/12	焼成品	C 33
207	4溝 (E-1) 土層 P8-1204	土師器	甕	13.0	5.0	4.5	3/12	焼成品	C 4
208	4溝 (E-1) 土層 P4-1204	土師器	甕	14.1	8.5	5.1	4/12	焼成品 外面スス付	C 2
209	4溝 (E-1-南)-1129	土師器	甕	13.1	10.5	3.7	10/12	焼成品	C 32
210	4溝 (E-1-北)-1129	土師器	甕	13.4		[3.7]	口縁3/12	焼成品	C 31
211	4溝 (E-1) 土層 P3-1204	土師器	高坏		9.0	[4.6]	3/12	焼成品	C 7
212	4溝 (E-1) 土層 P11, P12-1204	土師器	高坏	13.3	9.9	10.4	11/12	焼成品 中がみあり	C 39
213	4溝 (E-1) 土層 P6-1204	土師器	高坏	17.6	10.9	10.7	口縁1/12 底面不明	焼成品	C 1
214	4溝 (E-1-北)-1129	土師器	高坏		13.3	[9.8]	胴径4/12	焼成品	C 30
215	4溝 (E-1-南)-1129	土師器	壺	20.4		[18.5]	口縁5/12	焼成品 外面スス付	C 29
216	4溝 (E-1) 土層 P10-1204	土師器	壺	18.9		[13.2]	口縁不明 雫4/12	焼成品 中がみあり	C 9
217	4溝 (E-1) 土層 P11, 12-1204	土師器	壺	20.0		32.4	口縁4/12	焼成品 胴径24.3cm 内面黒染 土物付 外面スス付	C 40
218	4溝 (E-1) 土層 P1-1204	土師器	壺	16.6		[7.2]	4/12	焼成品 外面スス付	C 6
219	4溝 (E-1) 土層 P12-1204 4溝 (D) 土層-1128 4溝 (E)-1129 4溝 (E-南)-1129	土師器	壺	17.6		30.0	口縁3/12 全体9/12	焼成品 内面黒染コゲ 外面黒染 外面スス付	C 41
220	4溝 (E-1) 土層 P5-1204 4溝 (E-1) 土層 P12-1204	土師器	壺	14.8	7.0	12.8	口縁5/12 底面5/12	焼成品 外面スス付	C 38
221	4溝 (E-1) 土層 P7-1204	土師器	壺			[4.9]		焼成品 外面黒染あり	C 5
222	4溝 (E-1) 土層 P9-1204	土師器	壺	14.4		19.5	口縁7/12	焼成品 外面スス付 胴径18.0cm	C 3
223	4溝 (E-1) 土層 P12-1204	土師器	壺	17.3	8.3	32.5	口縁11/12 底面不明	焼成品 胴径25.7cm 内外面黒染あり	C 37
224	4溝 (E-3) 土層 P1, P2, P3-1211 (E-1) 土層-1129	土師器	壺	20.0		[17.1]	口縁6/12	焼成品	C 27
225	4溝 (E-3) 土層 P3-1211	土師器	壺	16.4		[15.0]	口縁11/12	焼成品 中がみあり 胴径19.7cm	C 25

第2表-4 土器一覧

報告番号	出土地点	種類	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	遺存度	その他	実測番号
226	4 溝 (北3期) P1-1211	土製器	甕	13.6	7.1	5.8	ほぼ完全	焼成済 外面黒装あり	C 26
227	4 溝 (中・南) 土層-1114	土製器	内蓋形	12.6	4.0	6.0	口縁1/12	焼成済	C 262
228	包含層-1031	粘土	高坪					焼成済 孔3ヶ所	C 351
229	包含層-1031	土製器	12F, 7.5	3.6	2.8	13.4	口縁1/12 底縁6/12	焼成済 外面黒装あり	C 8*
230	包含層-1031	土製器	甕		30.0	18.5		焼成済	C 8
231	包含層-1021-25	特殊焼	壺			19.4	16.6	内外面一部粗打多く付着	D 1
301	南区22号P8-1104	銅製器	蓋	約160		12.8	1/12	焼成済 蓋も付着あり	D 28
302	東東加奈層-1024	銅製器	坏身			13.2		焼成やや不十分	D 31
303	南区27号P8-1104	土製器	甕	10.7		14.0	口縁2/12		D 51
304	南区1号P8-1027	土製器	高坪	16.6	8.2	10.2	口縁3/12 底縁完全	焼成済	C 200
305	北区3D-05-1106	土製器	高坪			16.0		焼成済	C 238
306	南区5号P8-1104	土製器	甕	3.3 (ツバ)		12.2	つまみ5/12	焼成済 一部に赤い色層(漆?)残る	D 33
307	南区東側留面-1127	土製器	高坪			14.2		焼成済 孔4ヶ所	D 32
308	南区5K-01-1028	土製器	小型甕			15.3	胴縁のみ成形	焼成済 胴縁7.0cm 外面黒装あり	C 196
309	南区10号P8-1104	粘土	磨か		2.9	14.1	底縁完全	焼成済 表面に赤い色層がみられる	C 198
310	南区8号P8-1104	土製器	甕	18.0		14.1	口縁2/12	焼成済 外面黒装あり	C 199
311	北区3D04-1106	銅製器	壺			14.6		焼成済 陶灰	D 27
312	南区5K-01-1029	粘土	甕	13.4		18.2	口縁1/12	焼成済	C 239
313	南区5K-01-1029	粘土	甕	約24.0		19.7	口縁1/12	焼成やや不十分	C 197
314	南区4号P8-1104	粘土	甕	17.3		13.9	口縁2/12		C 315
315	5D04-1106	特殊焼	片口鉢		8.6	16.2	底縁3/12	焼成済	D 26
401	6ESD02-1028	粘土	甕	10.5		13.2	口縁4/12	焼成済 外面黒装あり	C 195
402	6ESD02-1028	粘土	甕		8.6	18.2	底縁7/12	焼成済	C 194
403	6ESD02-1028 7W河土層-1027	粘土	甕	17.4		17.7	口縁2/12	焼成済 外面黒装あり	C 365
404	3EP10-1020	粘土	甕	22.1		14.5	1/12	焼成済 外面黒装あり	C 362
405	3EP14-1020	土製器	高坪	14.9		14.0	1/12	焼成済	C 191
406	OW P44-1210	土製器	(脚台)			14.2		焼成済 くびれ径5.4cm	C 193
407	OW P43-1210	粘土	甕			16.2		焼成済 外面スス付着	C 192
408	10BP06-1124	土製器	甕			18.5		焼成済 胴径19.2cm	C 190
409	旧河6W土層-1029	銅製器	甕	13.5	5.1	13.6	口縁6/12	焼成済	D 30
410	旧河7W土層-1116	銅製器	蓋	13.3	4.8	13.6	口縁6/12	焼成済	D 25
411	河7W土層-1102	銅製器	蓋			13.0		焼成済	D 40
412	6W河土層-1029	銅製器	蓋	14.4	14.4	2/12		焼成済	D 25
413	7W河土層-1028	銅製器	蓋	15.0	13.5	1/12		焼成済	D 41
414	6W河土層-1029	銅製器	坏身	12.1		13.3		焼成済好 陶灰	D 36
415	旧河9W土層-1105	銅製器	坏身	12.8		13.3	口縁3/12		D 47
416	旧河8W土層-1105 8W河遺跡群-1021	銅製器	高坪	13.6	15.8	16.4	口縁2/12 底縁2/12	焼成やや不十分 透かし穴2ヶ所	D 44
417	8W河土層-1102	銅製器	坏身	10.2	6.3	3.2	口縁6/12 底縁6/12	焼成済 陶灰 口縁中がみあり	D 38
418	旧河8W土層-1105	銅製器	甕	12.0	16.9	16.9	口縁2/12	焼成済 陶灰	D 46
419	旧河遺跡 8W 検出部-1020 旧河6W土層-1105	銅製器	甕			16.7		焼成済 陶灰 胴径13.6cm	D 59
420	旧河7W土層-1130 河8W土層-1102 旧河遺跡 8W 検出部-1020	銅製器	甕(陶)	8.8		13.0	口縁1/12	焼成済 陶灰	D 42
421	旧河9W土層-1106	銅製器	甕	25.8		14.7		焼成済 陶灰	D 48
422	9W河土層-1102 8W河遺跡群(旧河面)-1020 旧河8W土層-1105 旧河6W土層-1102 8W河土層-1102 8W河遺跡群-1021	銅製器	甕			14.0	3/12	透光不十分 胴径15.6cm	D 37
423	6W河土層-1029	銅製器	甕			13.4		焼成済 胴径43.0cm 底縁付 底のタタキより剥かれている	D 34
424	旧河8W土層-1102	土製器	手づくも	5.8	3.8	3.5	底縁	焼成済	D 39
425	旧河遺跡 8W 検出部-1020	土製器	手づくも	4.0	2.8	4.1	底縁完全	焼成済	D 49
426	8W河土層-1102	土製器	手づくも	4.6	3.4	4.7	10/12 (底縁付)	焼成済	D 43
427	旧河6W土層-1029	土製器	手づくも	6.1	3.2	5.8	口縁11/12 底縁完全	焼成済	C 204
428	7W河土層-1104	土製器	胴縁土甕	5.0	13.0		底縁完全	焼成済	C 369
429	旧河10W土層-1106	土製器	小型甕			15.4		焼成済 外面黒装あり 胴径8.4cm	C 300
430	8W 検出部(旧河面)-1020	土製器	小型甕	7.7	4.7	7.7	1/12	焼成済 外面黒装あり	C 303
431	7W河土層-1102	土製器	甕	6.5		15.8	底縁完全	焼成済	C 244
432	8W河遺跡土層-1105	土製器	高坪		11.0	18.5	底縁7/12	焼成済 孔3ヶ所	C 214
433	旧河8W土層-1104	土製器	甕	12.9	8.6	4.2	口縁2/12 底縁4/12	焼成済 外面に塗漆?	C 279
434	旧河8W土層-1106	土製器	磨か手			18.4		焼成済	D 45

第2表-5 土器一覧

調査番号	出土地点	種類	形状	口径 (mm)	底径 (mm)	外径 (mm)	溝深度	その他	実測番号
436	旧河6W 土層-1029	土器類	把手					焼成済	D 29
436	旧河9W 土層-1105	土器類	蓋	19.6		20.2	口径5/12	焼成済 外面一部にスス付着	C 304
437	BW 河土層-1102	土器類	蓋	54-59		20.2	口径11/12	焼成済 口径縁がみずしい	C 305
438	旧河8W 土層-1104	土器類	蓋	18.9		[27.3]	口径1/12	焼成済	C 280
439	旧河8W 土層-1106 BW 河土層-1102	土器類	蓋	19.6		[10.5]	口径3/12	焼成済	C 319
440	旧河7W 土層-1030	土器類	蓋	10.8		14.4	口径7/12	焼成済 外面黒錆あり	C 230
441	旧河7W 土層-1030	土器類	蓋	17.8		[6.5]	口径-底径3/12	焼成済	C 231
447	旧河7W 土層-1104	土器類	蓋	14.8		[8.8]	3/12	焼成済	C 237
443	BE 河土層-1105	土器類	蓋	15.6		[3.5]	口径3/12	焼成済	C 316
444	BE 河土層-1102	赤土	蓋	19.4		[4.3]	口径4/12	焼成済	C 270
445	BE 河土層-1102	赤土	蓋	20.0		[6.0]	口径4/12	焼成済	C 269
446	7W 河土層-1028	土器類	蓋	21.7		[6.2]	口径3/12	焼成済	C 245
447	旧河7W 土層-1104	土器類	蓋	24.2		[7.8]	口径2/12	焼成済 一部黒褐色	C 241
448	BW 旧河E-W あせ土層-1210	土器類	蓋	23.3		[12.0]	口径5/12 底径なし(2/12)	焼成済 胴一部黒錆と反らるる層片多くあり	C 281
449	旧河8W 土層-1105	土器類	蓋	20.4		[8.8]	口径1/12	焼成済	C 318
450	旧河9W 土層-1105	土器類	蓋		12.6	[9.3]	口径6/12	焼成済 孔2ヶ所	C 311
451	8W 河土層-1102 旧河8W 土層-1104	土器類	蓋	26.3		[9.5]	口径1/12	焼成済	C 277
452	8W 河土層-1102	土器類	蓋			[4.1]	1/12	焼成済	C 271
453	箇分98 ① 旧河9W 土層-1106	土器類	蓋		約45.0	[8.4]		焼成済	C 374
454	旧河8W 土層-1105	土器類	瓶	14.5		[5.5]	口径5/12	焼成済	C 320
455	8W 河土層-1102	土器類	瓶	15.0		[5.0]	2/12	焼成済 内面赤錆	C 273
456	BE 河土層-1102	土器類	瓶	15.0		5.1	口径5/12	焼成済	C 262
457	旧河7W 土層-1104	土器類	瓶	14.2		[5.5]	5/12	焼成済	C 236
458	旧河6W 土層-1029	土器類	瓶	15.2		5.9	口径6/12	焼成済 外面赤錆	C 203
459	旧河土層7W 北側掘削あせ-1116	土器類	瓶	14.8	6.0	5.6	6/12	焼成済	C 189
460	7W 河内掘削内-1116	土器類	瓶	15.0		6.0	9/12	焼成済	C 232
461	8W 河土層-1102	土器類	瓶	15.4	5.8	5.1	3/12	焼成済	C 272
462	旧河6W 土層-1029	土器類	瓶	15.2		5.4	口径6/12	焼成済	C 201
463	6W 河土層-1027	土器類	瓶	12.0		4.6	口径11/12	焼成済	C 247
464	7W 河土層-1028	土器類	瓶	12.6	6.0	4.2	口径1/12 底径3/12	焼成済	C 246
465	旧河6W 土層-1029	土器類	瓶	11.8		4.2	口径1/12	焼成済	C 202
466	旧河E-W あせ1層-1210	土器類	瓶	13.3		[4.8]	口径1/12	焼成済	C 283
467	河土層-1029	土器類	瓶	14.4	5.0	5.3	2/12	焼成済	C 254
468	旧河7W 土層-1030	土器類	瓶	13.8	4.0	5.6		焼成済	C 228
469	旧河7W 土層(掘削あせ内)-1116	土器類	瓶	14.0	3.8	6.1	10/12	焼成済 成形時の接合痕あり	C 187
470	6W 河土層-1027	土器類	瓶	15.0		5.8	口径3/12	焼成済	C 249
471	旧河6W 土層-1104	土器類	瓶	15.0		[4.1]	口径4/12	焼成済	C 275
472	8W 河土層-1102	土器類	高杯	15.7		[5.9]	6/12	焼成済	C 265
473	旧河7W 土層-1116	土器類	内黒陶	14.6	6.0	4.9	4/12	焼成済	C 188
474	7W 河土層-1102	土器類	内黒有台筒	14.7	9.9	8.2	口径1/12 胴部成形	焼成済 内黒がみずしい	C 240
475	7W 河土層-1102	土器類	有台筒	13.0	7.9	7.2	11/12 (ほぼ完成)	焼成済	C 243
476	6W 河土層-1027	土器類	有台筒か		8.2	[7.2]	胴部成形	焼成済	C 248
477	旧河7W 土層-1104 旧河7W 土層北側掘削-1116	土器類	有台筒	15.2		[6.8]	口径8/12	焼成済	C 235
478	旧河7W 土層-1030	土器類	(胴部)		9.0	[4.3]		焼成済	C 229
479	8W 旧河E-W あせ1層-1210	土器類	有台筒か		9.3	[3.5]	底径10/12	焼成済 巾がみずしい	C 285
480	旧河10W 土層-1106	土器類	高杯		10.3	[4.3]	8/12	焼成済	C 299
481	8W 河土層-1102	土器類	有台筒か		10.4	[7.8]	底径6/12	焼成済 内黒	C 274
482	旧河10W 土層-1106	赤土	蓋	2.7 (2.9A)		[3.7]		焼成済 外面赤錆	C 345
483	旧河10W 土層-1106	赤土	蓋	2.9 (2.8A)	13.6	4.6	3/12	焼成済	C 301
484	9W 河土層-1109	赤土	蓋	3.5 (2.8A)	15.1	6.1	つまみ11/12 底径2/12	焼成済	C 256
485	旧河9W 土層-1105	赤土	蓋			[10.7]		焼成済 外面黒錆 胴径16.8cm	C 307
486	旧河8W 土層-1106	赤土	蓋	12.6		[5.9]	3/12	焼成済 外面黒錆あり	C 276
487	旧河9W 土層-1105	赤土	蓋	14.1	4.8	21.2	口径11/12 底径11/12	焼成済 巾がみずしい	C 306
488	8W 旧河E-W あせ土層-1210	赤土	蓋	10.8		[5.4]	口径5/12	焼成済	C 282
489	旧河10W 土層-1106	赤土	鉢	約28.0		[8.5]	1/12	焼成済	C 302
490	BE 河土層-1027	赤土	蓋	13.3	2.1	12.1	口径5/12 胴部成形	焼成済 外面スス付着	C 253

第2表-6 土器一覧

報告番号	出土地点	種類	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	遺存度	その他	実測番号
491	旧河 10W 上層 - 1106	赤生	鏝	18.7		14.4	2/12	焼成炭 外周黒線あり	C 305
492	8E 河上層 - 1102	赤生	鏝	21.0		18.0	口縁2/12	焼成炭	C 264
493	旧河 9W 上層 - 1105	赤生	鏝	14.6		18.3	口縁2/12	焼成炭	C 308
494	旧河 9W 上層 - 1105	赤生	鏝	17.0		18.4	口縁2/12	焼成炭	C 309
495	旧河 9W 上層 - 1105	赤生	鏝	134.0		14.8	4/12	焼成炭	C 312
496	8E 河上層 - 1102	赤生	有孔鏝	22.4	2.8	14.7	口縁5/12 底縁6/12	焼成炭 底の厚さ2.8cm 外周黒線あり	C 261
497	旧河 9W 上層 - 1105	赤生	鏝	11.7	9.0	4.5	口縁2/12	焼成炭 外周赤線	C 310
498	旧河 9W 上層 - 1104	赤生	鏝	12.5	4.0	5.7	口縁1/12 底縁10/12	焼成炭	C 278
499	8E 河上層 - 1105	赤生	高坪			14.8		焼成炭	C 313
500	8E 河上層 - 1102	赤生	銚台		12.2	17.2	底縁5/12	焼成炭 透孔3方向	C 373
501	9W 河上層 - 1109	赤生	高坪	22.6		18.2	口縁4/12	焼成炭 内外周赤線	C 259
502	6W 河上層 - 1027	赤生	高坪	27.1		15.8	口縁2/12	焼成炭	C 252
503	旧河 10W 上層 - 1106	赤生	銚台	18.7		16.5	4/12	焼成炭 赤線	C 292
504	旧河 10W 上層 - 1106	赤生	銚台	17.3	10.1	11.7	口縁2/12 底縁7/12	焼成炭	C 296
505	旧河 6W 下層1 土器群4 - 1125	赤生	鏝	2.2 (2.8A)	8.2	3.0	つまみ9/12	焼成炭 外周赤線	C 210
506	旧河 6W 下層1 土器群村区 - 1125	赤生	鏝	3.2 (2.8A)		14.2	つまみ9/12	焼成炭 外周赤線	C 366
507	旧河 6W 下層 (下層との境) - 1105	赤生	鏝	2.8 (2.8A)		11.0	つまみ9/12 底縁1/12	焼成炭	C 242
508	旧河 6W 下層1 土器群5 - 1125	赤生	鏝	9.2		12.5	口縁笠形	焼成炭 内面・内周口縁部赤線 外周黒線あり 胴径 14.3cm	C 206
509	旧河 6W 下層1 土器群11 - 1125	赤生	鏝	8.5		12.4	ほぼ笠形	焼成炭 外周黒線あり 541に乗っ出した	C 218
510	旧河河瀬町下層 (下) - 1030	赤生	鏝 or 鏝			16.8		焼成炭	C 342
511	8W 河瀬町下層 - 1022	赤生	鏝	9.0		16.7	口縁付足5/12	焼成炭	C 327
512	B-10W 河下層1 - 1110	赤生	鏝	16.6		16.4	口縁9/12	焼成炭	C 268
513	旧河6-7W下層1 - 1126	赤生	鏝	15.2		17.6	口縁1/12以下	焼成炭	C 371
514	旧河 6W 下層1 土器群7 - 1125	赤生	鏝	22.2	4.2	30.8	口縁9/12 底縁笠形	焼成炭 胴径 27.6cm 底縁に4ヶ所のハツリが深さ2ヶ所 外周スス付	C 219
515	旧河6-7W下層1 - 1124 旧河6-7E下層1 - 1124 旧河6-7W下層1 - 1125	赤生	鏝	18.5	5.0	25.4	口縁9/12 底縁笠形	焼成炭	C 225
516	旧河6-7W下層1 - 1124	赤生	鏝	17.6		14.6	口縁6/12	焼成炭 外周スス付	C 220
517	旧河 6W 下層1 土器群村区 - 1125 6-7W下層1	赤生	鏝	16.0		18.4	口縁2/12	焼成炭	C 368
518	旧河 6W 下層1-12 土器群 - 1125	赤生	鏝	14.6		17.7	口縁5/12	赤生 外周黒線あり 口縁にススあり	C 214
519	旧河 6W 下層1 土器群 10 - 15 付区 - 1125	赤生	鏝	15.8		11.7	口縁3/12	焼成炭 外周スス付	C 215
520	旧河 6W 下層1 土器群村区 - 1125	赤生	鏝	15.6		17.4	口縁1/12	焼成炭	C 212
521	旧河7-8E下層1 - 1120	赤生	鏝	19.8		10.0	口縁3/12	焼成炭 外周スス付	C 287
522	旧河6-7W下層1 - 1124	赤生	鏝	17.8		15.7	口縁-胴径3/12	焼成炭 内周スス付 底縁赤線	C 227
523	旧河瀬7-8W下層1 - 1116	土器群	鏝	17.7		15.6	口縁3/12	焼成炭	C 289
524	旧河 6W 下層1 土器群 13 - 1123 旧河6-7W下層1 - 1124	赤生	鏝	15.0		13.3		焼成炭 外周スス付	C 218
525	旧河 6W 上層 (下層との境) - 1105	赤生	有孔鏝	16.7		13.2	口縁11/12	焼成炭	C 205
526	旧河 6W 下層1 土器群村区 - 1125	赤生	鏝	12.0	2.4	6.1	口縁4/12 底縁笠形	焼成炭 外周赤線	C 208
527	B-10W 河下層1 - 1110	赤生	小鏝	10.7	4.0	5.6	口縁3/12 底縁笠形	焼成炭	C 258
528	旧河6W下層1 土器群 15-1125 旧河6-7W下層1 - 1124 6-7E下層1 - 1124	赤生	舟形鏝		12.5	19.5	底縁11/12	焼成炭 内周赤線	C 217
529	旧河6-7W下層1 - 1124	赤生	高坪	22.4		16.5	口縁5/12	焼成炭	C 222
530	旧河6-7W下層1 - 1126	赤生	高坪			18.3		焼成炭	C 221
531	旧河 6W 下層1 土器群3 - 1125	赤生	高坪	18.4	9.2	14.2	口縁笠形 底縁笠形	焼成炭 外周黒線あり	C 207
532	旧河 6W 下層1 土器群2 - 1125	赤生	高坪	19.3	9.6	14.6	口縁笠形 底縁笠形	焼成炭 外周黒線あり	C 211
533	旧河6-7W下層1 - 1126 7W河瀬町下層 - 1021	赤生	高坪	18.0		18.9	5/12	焼成炭 内面と面に赤線	C 331
534	B-10W 河下層1 - 1110	赤生	高坪			19.7		焼成炭	C 267
535	旧河河瀬町下層 (下) - 1103	赤生	高坪			15.4		焼成炭 内外周赤線	C 341
536	旧河 6W 下層1 土器群村区 - 1125	赤生	高坪	7.2		15.4	底縁3/12	焼成炭	C 367
537	B-10W 河下層1 - 1110	赤生	高坪	11.2		16.0	底縁6/12	焼成炭 孔4ヶ所	C 257
538	旧河7-8W下層1 - 1125	赤生	高坪	10.5		17.1	胴部笠形	焼成炭 内外周赤線 一部赤線	C 296
539	旧河7-8E下層1 - 1116	赤生	高坪	29.1		15.9	口縁1/12	焼成炭 内外周赤線 (内面に赤線)	C 288
540	旧河6-7E下層1 - 1124	赤生	高坪 (27.8)			14.9	坪縁1/12	焼成炭	C 226
541	旧河 6W 下層1 土器群 10 - 1125	赤生	銚台	16.8	8.3	10.4	口縁笠形 底縁11/12	焼成炭 509の台	C 213
542	旧河 6W 下層1 土器群1 - 1125	赤生	銚台	20.4	8.6	12.1		焼成炭 口縁の一部に深い溝	C 209
543	旧河6-7W下層1 - 1126	赤生	銚台		8.5	17.1	底縁1/12	焼成炭	C 370
544	8W 旧河E-W A-B下層1-2 - 1210	土器群	鏝	14.5		15.3	口縁2/12	焼成炭	C 286
545	旧河7W下層1 ~ 2 - 1126 6 ~ 7W下層1 - 1124	赤生	鏝		5.0	19.0	底縁5/12	焼成炭	C 223

第2表-7 土器一覧

調査番号	出土地点	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	遺存度	その他	調査番号
546	旧河 7W 下層 1 ~ 2・1126	赤土	器台		8.9	18.6	底縁3/12	焼成品	C 234
547	旧河 7W 下層 1 ~ 2・1126	赤土	壺	16.4	2.8	24.9	口縁定形 底縁定形	焼成品 胴径 19.8cm 外底ス 付着 赤がみあり	C 233
548	旧河 7BW 下層 2・1125	赤土	壺	13.8		15.2	口縁2/12	焼成品	C 293
549	旧河 67W 下層 2・1126	赤土	壺	10.3		17.9	口縁2/12	焼成品	C 224
550	B-10 河下層 2・1112	赤土	小壺	5.8	(4.7)	16.4	口縁9/12	焼成品 胴径 9.8cm 外底赤彩 内底灰化物あり	C 256
551	旧河 7BW 下層 2・1126 7W 河上層 1027 不明	赤土	壺	15.5		14.2	口縁4/12	焼成品	C 290
552	旧河 8W 下層 2・1125 旧河 8W 河上層 下・1104 BE 河上層・1102	赤土	壺	26.6		(12.8)	5/12	焼成品 外底ス付着	C 260
553	旧河 7BW 下層 2・1125	赤土	壺	3.2 (2.8A)		(2.5)	底縁定形	焼成品 内面・外面の一部赤彩 (淡赤褐色)	C 297
554	B-10W 河下層 2・1112	赤土	壺	1.1 (2.6A)	6.8	2.2	底縁7/12	焼成品 孔2ヶ所	C 266
555	旧河 7BW 下層 2・1125	赤土	鉢か	19.6		(4.1)	口縁1/12	焼成品 外底ス付着	C 291
556	旧河 7BW 下層 2・1125	赤土	鉢か	17.2		15.3	口縁1/12	焼成品 内底赤彩	C 294
557	旧河 7BW 下層 2・1125 旧河 7BE 下層 1・1116	赤土	高坪	19.6		(10.3)	口縁4/12	焼成品	C 295
558	B-10W 河下層 1・1110 旧河 SE 下層 2・1126	赤土	高坪	16.7	10.0	12.6	口縁5/12 底縁7/12	焼成品 内外底赤彩	C 317
559	8W 河下層 2・1112	赤土	器台	17.3	9.3	11.1	ほぼ定形	焼成品 胴径2.2cm 内面の一部ス 付着 内面の一部に赤がみあり	C 263
560	河67区下層 4・1130	赤土	壺	20.0		(11.3)	口縁1/12	焼成品	C 251
561	河67区下層 4・1130	赤土	壺	13.4		(4.6)	口縁2/12	焼成品 外底ス付着 口縁部加灰	C 250
562	8W 河下層 1021	調整器	円身	12.0	6.6	3.7	口縁5/12 底縁5/12	焼成品	D 66
563	7W 河下層 1020 8W 河下層 1021	調整器	高坪	13.4	15.5	17.8	口縁5/12 底縁6/12	焼成品 透かし穴2ヶ所	D 50
564	8W 河下層 1021	土師器	円身	16.8	13.0	4.6	口縁1/12	焼成品	C 304
565	7W 河下層 1021	土師器	坪	14.8	3.0	5.5	6/12	焼成品	C 330
566	7W 河下層 1021	土師器	有台明か		8.1	16.4	口縁2/12 底縁定形	焼成品	C 326
567	8W 河下層 1021	土師器	有台明か		9.4	(7.1)	底縁6/12	焼成品	C 326
568	8W 河下層 1021	土師器	壺	21.2		(12.2)	口縁1/12	焼成品	C 323
569	7W 河下層 1021	土師器	壺	17.4		(10.0)	口縁3/12	焼成品	C 329
570	8W 河下層 1021	土師器	壺	18.0		18.7	口縁2/12	焼成品	C 322
571	8W 河下層 1021	土師器	壺 or 壺		4.6	15.4	底縁定形	焼成品 外底黒漆あり	C 372
572	旧河 8WE W 土台 1210	赤土	壺	20.3		(7.5)	口縁7/12	焼成品	C 284
573	8W 河下層 1021	赤土	壺	14.4	7.0	30.7	口縁1/12 底縁定形	焼成品 内底黒漆あり	C 321
574	出土地点不明 1210	調整器	壺		13.2	11.0	2/12	焼成品	D 53
575	不明 1210	赤土	器台脚部			18.8	2/12	焼成品 胴部径 (4.4cm)	C 332
601	A区 P69 (東方内)・0524	土師器	壺	15.0	4.1	5.4	ほぼ定形	焼成品 内面の一部に赤がみ黒がみあり	C 336
602	A区 P68 (東方内)・0524	土師器	壺	7.2		(21.1)	底縁定形	焼成品 外底黒漆あり	C 337
603	A区 SD11 壺・0525	赤土	壺	13.0		(17.4)	口縁定形	焼成品 胴径 21.9cm 外底黒漆あり	C 340
604	A区 SD11 壺・0524	赤土	器台		8.8	(10.9)	3/12	焼成品 孔3ヶ所	C 339
605	A区 SD11 壺・0525	赤土	高坪 or 器台	15.0		(3.6)	底縁4/12	焼成品 孔3ヶ所	C 338
606	B区 SK01・0525	土師器	壺 (高台部)		6.0	(1.7)	高台部 11/12	焼成品	D 52
607	B区 SD07・0525	調整器	壺 (高台部)		6.2	(1.1)	高台部 3/12	焼成品	D 57
608	B区 SD07・0525	赤土	器台か			15.5	口縁 10/12	焼成品	D 58
609	B区東縁水溝・0423	調整器	壺			(7.5)		焼成品 (なまや打)	D 68
610	C区 P03・0513	赤土	壺	16.8		(7.8)	口縁1/12	焼成品	C 334
611	C区 P03・0513	赤土	高坪			(14.7)	底縁部ほぼ定形	焼成品 C335と同一器体	C 333
611	C区 P03・0513	赤土	高坪	27.4		(4.2)	口縁1/12	焼成品 C333と同一器体	C 335
612	C区 S003・0513	調整器	(脚部)		11.0	(2.9)	脚部 3/12	焼成品	D 54
613	C区 SD01・0531	調整器	壺			(3.8)	口縁1/12	焼成品	D 56
614	C区 SD03・0513	調整器	円身	11.7	4.0	4.3	口縁1/12 底縁7/12	焼成品	D 55
615	C区 SD03・0513	調整器	円身	15.0		(3.8)	口縁1/12	焼成品 (なまや打)	D 67
616	C区 SD02・0525	赤土	壺	18.1		(3.1)	口縁1/12	焼成品	C 343
617	C区 SD02・0503	赤土	台付鉢		8.8	(4.8)	底縁3/12	焼成品	C 344

第2表-8 土器一覧

報告 番号	出土 年度	出土地点	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	その他	実測 番号
238	1996	4溝(A・中北)炭化物混入粘土層・1122	水晶塊	3.5	2.0	1.7	12.8		石 3
234	1996	4溝(B・北)上層・1115	敲石	6.8	5.2	4.3	221.4		石 4
233	1996	4溝(B・中)炭化物混入粘土層・1125	敲石	11.3	9.9	6.1	774.4		石 5
236	1996	4溝(E-1群)S2・1204	敲石	11.4	7.0	6.3	737.3		石 12
237	1996	4溝(E-1群)S2・1204	敲石	11.7	9.6	7.4	1287.0	磨石としても使用	石 1
232	1996	4溝(C区)炭化粘土上面・1120	剥片石器	9.1	18.0	2.2	301.3		石 2
235	1996	5溝(西)・1209	敲石	15.1	12.0	4.4	922.9	台石か片面敲打痕顕著	石 6
576	1998	8W旧河上層・1106	石斧	7.1	6.2	1.7	99.2		石 18
577	1998	6ESD02・1027	打製石斧	(10.8)	9.6	(3.2)	286.7		石 7
578	1998	7W河上層・1027	剥片石器	6.0	11.8	1.4	110.7	石包丁か	石 8
579	1998	8W河上層・1102	磨製石斧	9.7	5.6	2.5	259.2		石 9
580	1998	5ESK03・1118	礫石	7.6	7.8	4.6	349.0	敲石に転用	石 14
581	1998	6W旧河下層1土器群9・1125	敲石	8.6	7.2	6.1	554.9	敲打にも使用	石 16
582	1998	9W旧河上層・1105	礫石	9.2	4.5	3.7	156.6		石 17
583	1998	6W旧河下層1土器群付近・1125	磨石	13.5	6.0	4.5	484.0	棒状棒敲打にも使用	石 15
584	1998	0EP45・1210	磨石	12.2	8.6	7.5	1041.3		石 13
585	1998	1E排水溝・1020	鉄釘	5.50 (径5.40)	1.75 (径0.40)	1.35 (径0.60)	12.67	断面方形釘先曲がりあり	金 1
618	1999	C区・05	磨石	13.4	7.5	6.2	960.8		石 10
619	1999	A区P68・0524	礫石	4.4	2.1	1.8	20.5		石 11

第3表 石製品など一覧

報告 番号	出土 年度	出土地点	器種	形状など	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	針葉樹/ 広葉樹の 別	その他	実測 番号
240	1996	4溝B南半炭化物混入粘土層	不明	棒状四角～扁平	91.9	1.45	1.35	針葉樹		木 1
588	1998	6w旧河下層4	不明	追柱目板材	45.7	28.3	3.0	針葉樹		木 2
586	1998	6w旧河下層4	不明	棒状の角材主頭	67.8	13.6	4.9	針葉樹	樹種未鑑定	木 3
239	1996	4溝BC境アゼ内	建築部材か	みかん割り材孔あり	51.5	16.4	8.7	針葉樹		木 4
589	1998	6w旧河下層4	不明	柱目板材	51.8	11.7	1.6	針葉樹		木 5
587	1998	6w旧河下層4	不明	角材	40.9	3.9	3.5	針葉樹		木 6

第4表 木製品一覧

緑色 番号	出土 年度	出土地点	直径 (mm)	孔径 (mm)	最大径 (mm)	重量 (g)	色調	狭径 径値	狭径 径値
玉 241	1996	4溝(D-1群)P4	3.9	1.8	2.4	0.05	青灰・黄緑系	●	●
玉 242	1996	4溝(D-1群)P4	4.0	1.7	2.3	0.04	暗青灰系	●	●
玉 243	1996	4溝(D-1群)P4	4.0	1.5	2.5	0.06	暗青灰系	●	●
玉 244	1996	4溝(D-1群)P4	3.8	1.7	2.0	0.04	青灰・黄緑系	●	●
玉 245	1996	4溝(D-1群)P4	3.9	1.6	2.1	0.04	青灰・黄緑系	●	●
玉 246	1996	4溝(D-1群)P4	3.9	1.5	2.4	0.05	暗青灰系	●	●
玉 247	1996	4溝(D-1群)P4	3.8	1.7	2.4	0.06	暗青灰系	●	●
玉 248	1996	4溝(D-1群)P4	4.0	1.5	2.3	0.06	青灰・黄緑系	●	●
玉 249	1996	4溝(D-1群)P4	4.6	1.5	2.4	0.08	青灰・黄緑系	●	●
玉 250	1996	4溝(D-1群)P4	3.8	1.4	2.2	0.05	青灰・黄緑系	●	●
玉 251	1996	4溝(D-1群)P4	4.0	1.4	2.4	0.06	暗青灰系	●	●
玉 252	1996	4溝(D-1群)P4	3.6	1.5	2.5	0.06	青灰・黄緑系	●	●
玉 253	1996	4溝(D-1群)P4	3.9	1.4	2.3	0.05	青灰・黄緑系	●	●
玉 254	1996	4溝(D-1群)P4	3.7	1.7	2.3	0.05	青灰・黄緑系	●	●
玉 255	1996	4溝(D-1群)P4	4.0	1.5	2.2	0.07	青灰・黄緑系	●	●
法重の平均値			3.93	1.56	2.31	0.055			

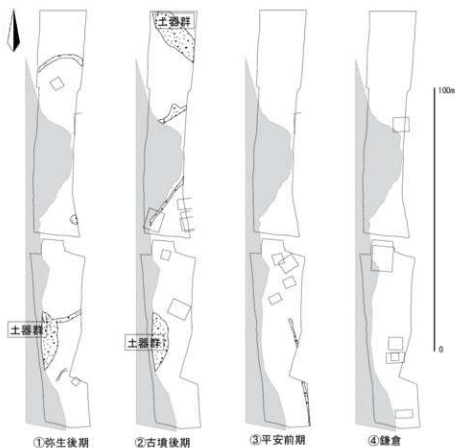
第5表 白玉一覽

第4章 総括

国分遺跡の発掘調査では、①弥生時代後期後半、②古墳時代後期、③平安時代前期、④鎌倉時代といった4つの時期についてそれぞれ、当地における集落遺跡の様相を窺い知ることができた。①と②の時期には河川あるいは大溝への土器の集中廃棄が認められた。この点は当遺跡を特徴付けるとともに、一連の調査区が各時期の集落の縁辺寄りに位置したであろうことを物語っている。

調査で検出された土器廃棄地点は第1次調査4号溝と第3次調査旧河川であり、前者からは古墳時代後期（6世紀頃）の、後者からは弥生時代後期（1世紀頃）と古墳時代後期（6世紀代）の土器類が大量に出土した。本書に掲載した実測土器は全部で439点を数えるが、4号溝と旧河川をあわせて分で全体の87%（384点）を占めている。弥生時代後期後半の当地近辺では、東方約2kmの市内矢田遺跡で溝への集中廃棄例が知られる。これは吉岡康暢氏によれば「祭礼執行後の“かたづけ”の可能性を残す」「川溝（辺）祭祀」の一例であり、本遺跡第3次調査旧河川例も同様に理解しうる。また、古墳時代後期における大量出土についても、近似の意味合いで理解できる可能性があらう。

総括にあたり主な検出遺構について分期して掲載するが、時期決定の根拠が薄弱な建物も多く、今後の再検討にまつ部分大きいことを申し添えておきたい。



第55図 遺構変遷案

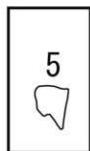
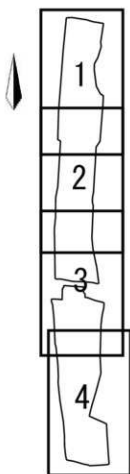
引用・参考文献

- 木立雅朗 1992 『藤橋遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
 沢辺利明 2007 『七尾市国分尼塚遺跡』(財)石川県埋蔵文化財センター
 善端 直・北林雅康ほか 2003 『石川県万行遺跡発掘調査概報』七尾市教育委員会
 土肥富士夫ほか 1986 『矢田遺跡』七尾市教育委員会
 橋本澄夫ほか 2002 『新修七尾市史 1 考古編』七尾市史編さん専門委員会
 松尾 実 2006 『白玉』『金沢市軌田西遺跡群IV』(財)石川県埋蔵文化財センター
 向井裕知 2004 『加賀・能登(石川県)の様相』『掘立柱建物から礎石建物へ』北陸中世考古学研究会
 吉岡康暢 1991 『弥生—古墳転換期の土器祭祀』『日本海城の土器・陶磁』(古代編)六興出版 392—463頁

	Be	Bd	Ab	c	Aa	C	Bc	Bb	Ba	類型	VI	V	IV	III	II	I	類型		
	井戸	四(方)圆形土環	一般住居		大形住居	特殊土環 (村持外)	配石	溝行埋内		場所	古墳前I	古墳前II	弥生VI	弥生V	弥生IV	弥生III	?	時期	
	農業・再生	農業・再生?	農業・再生		農業・再生	祈年・収穫?	治水他			性格	有段蓋	有段蓋+直口蓋・小形三種	供膳・貯蔵器主体	供膳・貯蔵器主体	供膳・貯蔵器主体	供膳・貯蔵器主体	甕・高坏多、甕他少	甕組成	
	一定数	一定数	少数		相当数	多数	相当数			甕組成	一定数	一定数	一定数	一定数	一定数	一定数	一定数	一定数	土器量
	II・III・V・VI				IV		I			土器量									墳墓祭祀

参考 村落祭祀(左)と墳墓祭祀(右)の類型(上掲吉岡1991:447頁による)

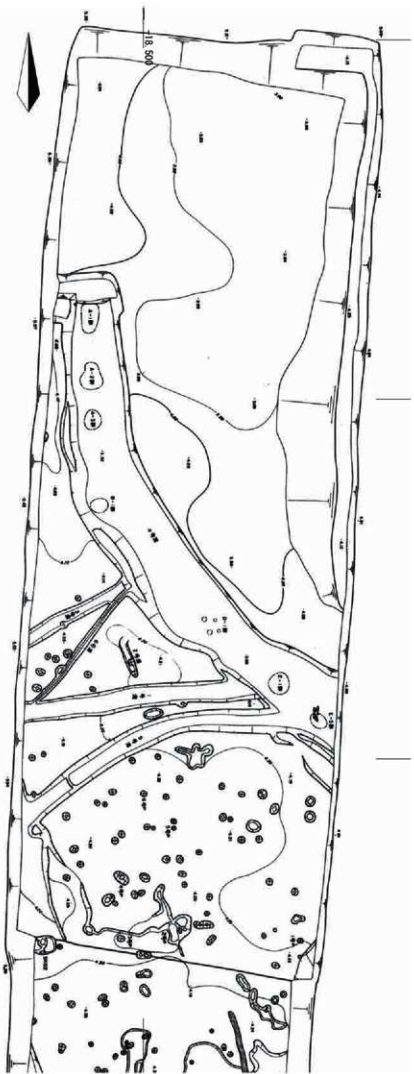
国分遺跡（第1次～第4次）平面図 1/200



+114.600

+114.580

+114.560



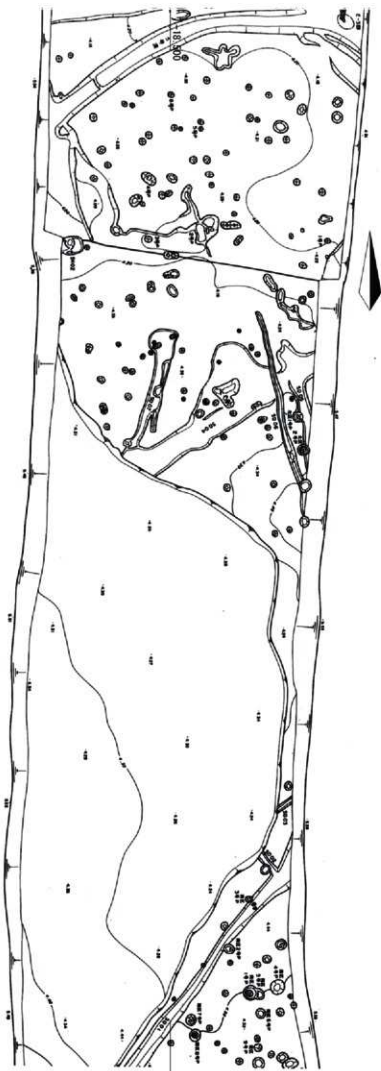
图分遺跡平面图 No.1

+114.560

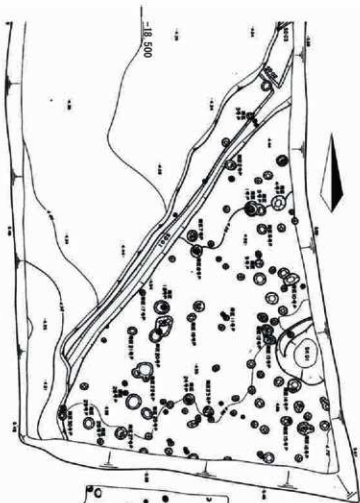
+114.540

+114.520

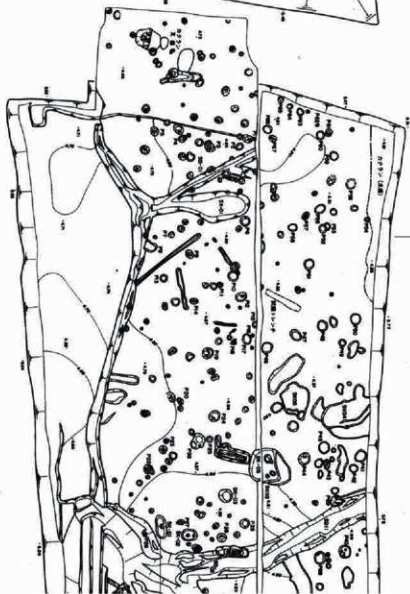
国分遺跡平面図 No.2



+114.500



+114.480

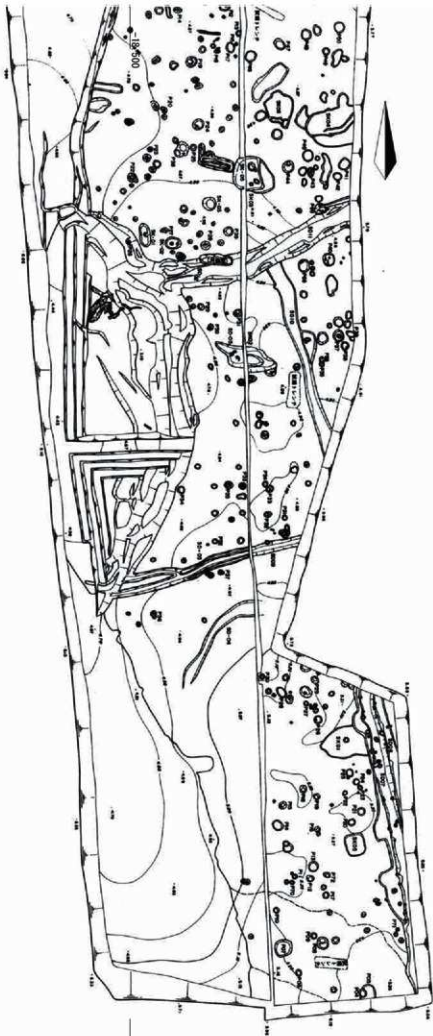


+114.460

+114.440

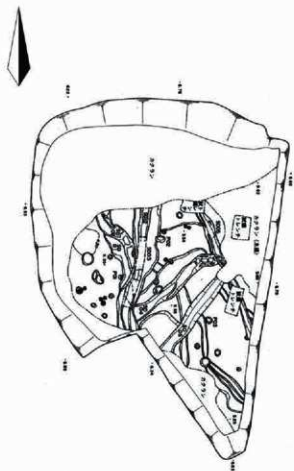
图分遺跡平面图 No.4

+114.420



+114.360

+114.340



国分遺跡平面図 No.5



調査区遠景（南西 国分尼塚古墳群から撮影）



調査区全景（北東から）



表土除去作業（南から）



1号溝 完掘状況（西から）



3・6号溝 完掘状況（南西から）



4号溝 土器 (A-3群・A-2群) 出土状況 (南東から)



4号溝 土器 (A-2群) 出土状況 (東から)



4号溝 土器 (C群) 出土状況 (北東から)



4号溝 土器 (E群) 出土状況 (南東から)



4号溝 土層断面 (南東から)



4号溝 土器 (D群) 出土状況 (東から) (中央 變 180)



調査区完掘状況全景 (南から)



4号溝 完掘状況 (南東から)



4号溝 掘削作業 (北西から)



1・3・4・5・6号溝 完掘状況 (東から)



5号溝 完掘状況 (南西から)



5号溝以南 ピット群 (西から)



遺構掘削作業 (南西から)



調査区完掘状況全景 (南西から)



調査区埋め戻し作業 (南西から)



発掘状況 全景 (写真上が東)



発掘状況 北区 (写真上が東)



発掘状況 南区 (写真上が東)



発掘状況 全景 (南東から)



発掘状況 北区 (北東から)



発掘状況 北区 (西から)



発掘状況 南区 (北東から)



完掘状況 SD01 (南西から)



完掘状況 SD04・SD07 (南西から)



完掘状況 SK01 (東から)



SK01 土師器小壺 (308) 出土状況 (西から)



P1 高環 (304) 出土状況



SB1 検出状況 (南から)



SB2・SB3・SB4 検出状況 (南から)



SB5・SB6 検出状況 (北東から)



調査区遠景 (南西から)



調査区遠景 (東から)



遺構検出状況 (北から)



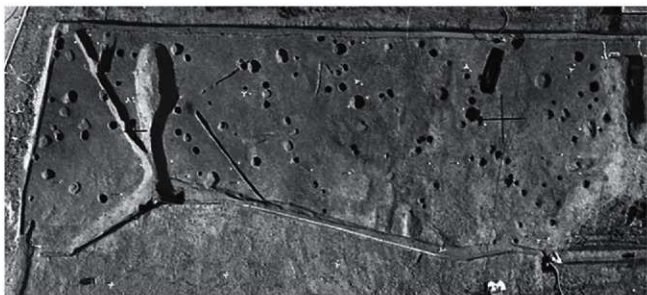
SB11 付近 発掘状況 (北東から)



SD02 付近 発掘状況 (西から)



調査区完掘状況全景（北東から）



完掘状況北側（写真上が東）



旧河道 完掘状況 (北から)



SB7・11 周辺 完掘状況 (東から)



調査区完掘状況全景 (北から)



調査区完掘状況全景 (南から)



基本土層断面



旧河道 土層断面 (北から)



旧河道上層 遺物出土状況



旧河道 下層1 土器群出土状況 (南東から)



旧河道 下層1 531・532・542 出土状況 (東から)



旧河道 下層1 509・541 出土状況 (東から)



3区細溝 土層断面 (南西から)



SD02 土層断面 (西から)



SD03 土層断面 (東から)



A・B区 全景 (写真上が西)



A・B区 全景 (北から)



C区 完掘状況 (南西から)



A区 完掘状況 (北から)



A区 完掘状況 (南から)



B区 完掘状況 (南から)



A区 P68 遺物 (602) 出土状況 (東から)



A区 P69 遺物 (601) 出土状況 (東から)



A区 SD09・SB12 (西から)



A区 SD10 完掘状況 (南から)



A区 SD11 完掘状況 (西から)



A区 SK02 完掘状況 (東から)



A区 SK03 完掘状況 (東から)

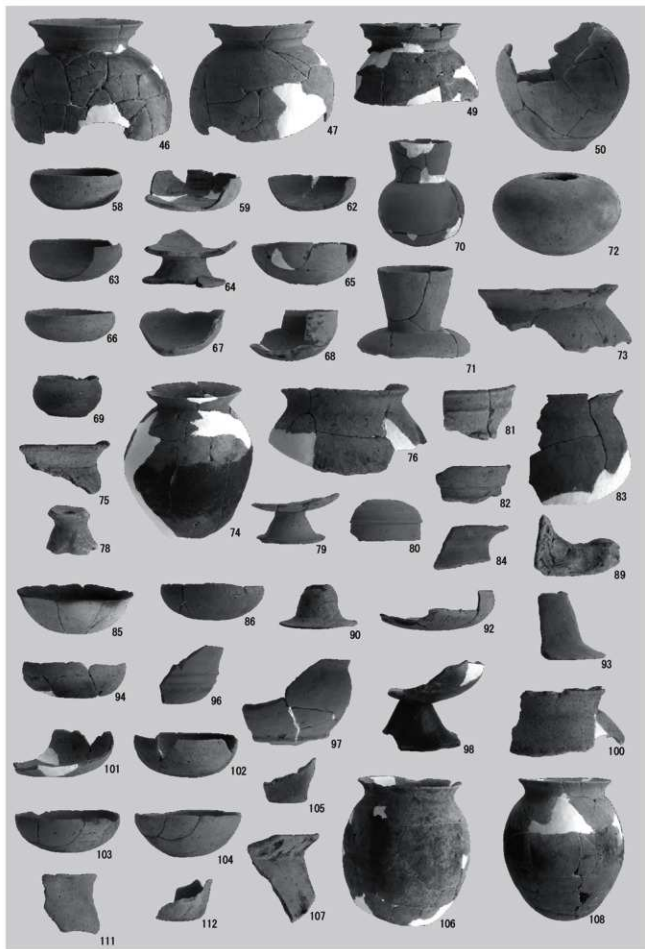


B区 SD07・08 完掘状況 (北から)

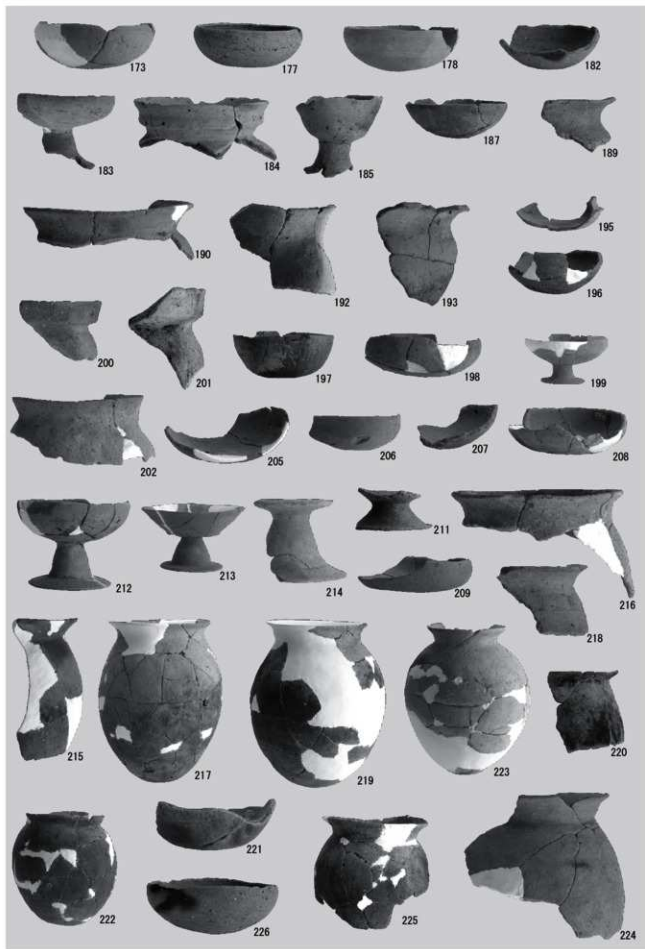


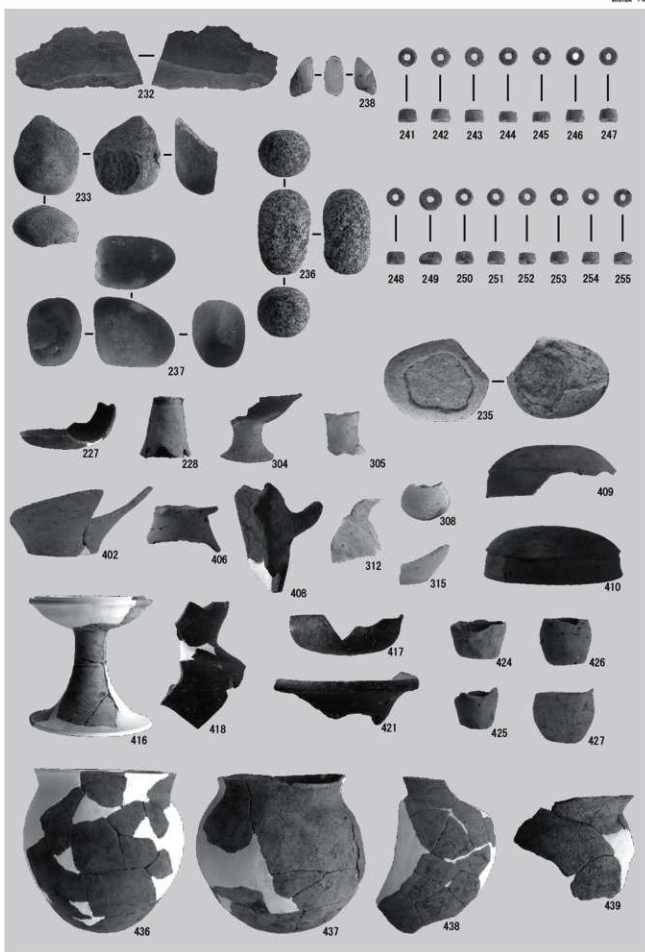
C区 SD04・06 付近 完掘状況 (東から)

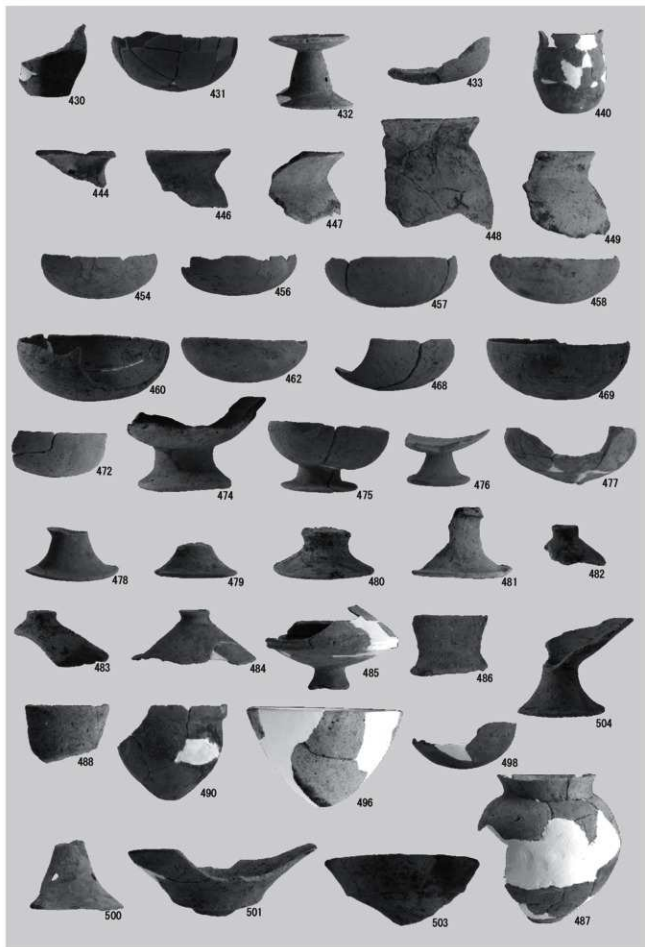


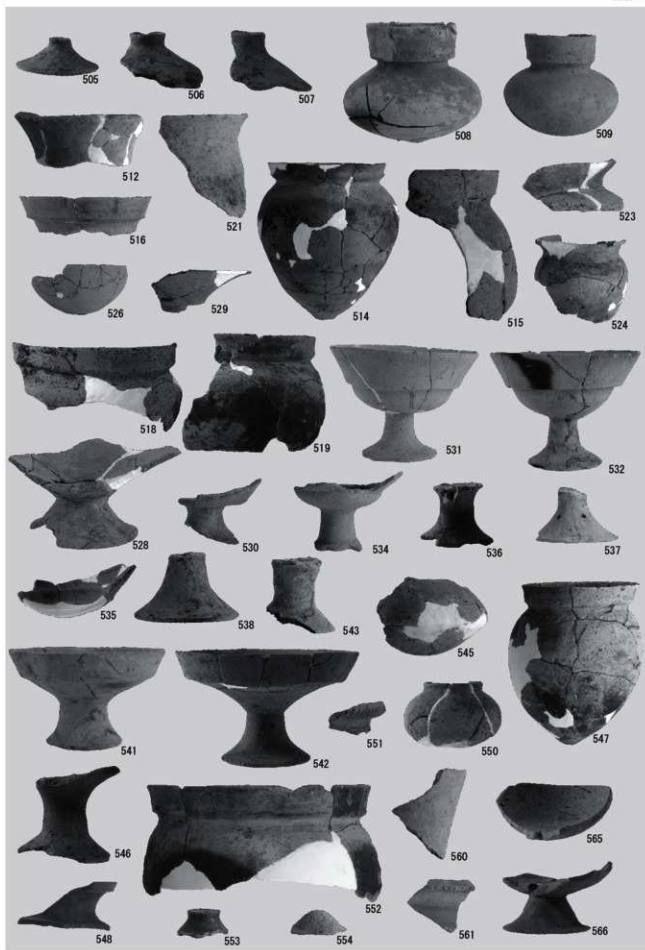


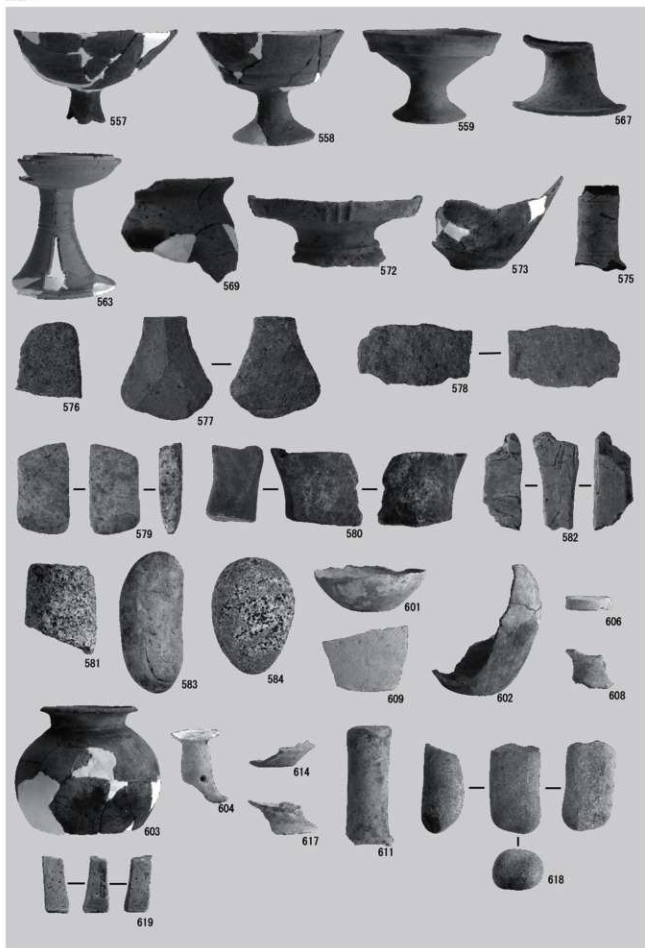


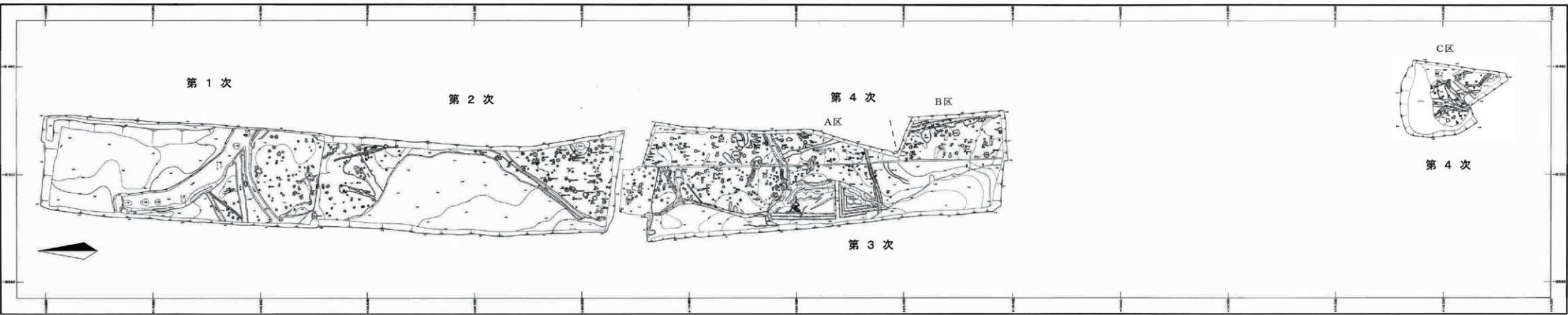












付图1 国分遺跡調査区(第1次~第4次)全体図 (1/500)



付图2 国分遺跡平面図(部分・1/300)

報告書抄録

ふりがな	ななおし こくぶいせき							
書名	七尾市 国分遺跡							
副書名	広域河川改修工事二級河川御蔵川に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	松山和彦、浜崎悟司、安中哲徳、加藤克郎、中泉絵美子							
編集機関	(財)石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2010年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	(新)	(新)			
こくぶいせき 国分遺跡	いしかわけんをなかし 石川県七尾市 こくぶいせき 国分町	17202	02279	37度 13分 48秒	136度 44分 22秒	19961021～ 19970113	1,000㎡	河川
						19971013～ 19971204	1,200㎡	
						19981001～ 19981224	1,000㎡	
						19990413～ 19990531	860㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
国分遺跡	集落跡	弥生時代、 古墳時代、 古代、 中世	溝、土坑 掘立柱建物 旧河道	弥生土器、土師 器、須恵器、珠洲 焼、石製品、白玉				
要約	遺跡は御蔵川の下流域、七尾市国分町地内に所在する。標高5～6mの自然堤防上に立地している。御蔵川は流路を変遷させており、第3次調査では弥生時代の旧河道を検出し、完形品を含む良好な土器群が出土している。第1次調査では、古墳時代の旧河道を検出し、大量の土師器が出土している。甕の内部から滑石製白玉が出土した事例もあり、祭祀の使用と推定される。							

七尾市 国分遺跡

発行日 平成22(2010)年3月31日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

電話 076-225-1842 (文化財課)

(財)石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

電話 076-229-4477

E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 鶴川印刷株式会社

〒923-0053 石川県小松市河田町丁33番地